

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部設置							
フリガナ設置者	コリツカクイフクホクシツン オイタダク 国立大学法人 大分大学							
フリガナ大学の名称	オイタダク 大分大学 (Oita University)							
大学本部の位置	大分県大分市大字且野原700番地							
大学の目的	大分大学は、人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的	「医療と心理、福祉を融合」した新しい学問領域としての「福祉健康科学」を創設することにより「生活を包括的に支援する視点」を持ち、要支援者の多彩な課題に対応できる社会福祉分野、リハビリテーション分野及び心理分野の専門性を担保するとともに、地域包括ケアシステムを实践する「領域横断型」の専門職のリーダーとなりうる生活支援の専門職者を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	福祉健康科学部 [Faculty of Welfare and Health Science]	年	人	年次人	人		年月第年次	大分県大分市大字且野原700番地
	福祉健康科学科 [Department of Welfare and Health Science]	4	100	0	400	学士（福祉健康科学）	平成28年4月第1年次	
計		100		400				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>1. 学部の設置 福祉健康科学部[新設] (100) (平成27年3月意見伺い)</p> <p>2. 教育福祉科学部 平成28年4月名称変更 教育福祉科学部→教育学部 学校教育課程→学校教育教員養成課程[定員増] (35) (平成27年5月事前伺い)</p> <p>課程の廃止 (平成28年4月学生募集停止) 情報社会文化課程を廃止 (△50) 人間福祉科学課程を廃止 (△95)</p> <p>3. 教育学研究科 (専門職学位課程) 教職開発専攻の設置 (10) (平成27年3月意見伺い) (修士課程) 学校教育専攻[定員増] (15) (平成28年4月) 教科教育専攻の廃止 (△33) (平成28年4月学生募集停止)</p> <p>4. 工学研究科 (博士前期課程) 工学専攻 [新設] (135) (平成27年7月事前伺い) 機械・エネルギーシステム工学専攻 (廃止) (△27) (平成28年4月学生募集停止) 電気電子工学専攻 (廃止) (△27) (平成28年4月学生募集停止) 知能情報システム工学専攻 (廃止) (△24) (平成28年4月学生募集停止) 応用化学専攻 (廃止) (△21) (平成28年4月学生募集停止) 建設工学専攻 (廃止) (△15) (平成28年4月学生募集停止) 福祉環境工学専攻 (廃止) (△21) (平成28年4月学生募集停止) (博士後期課程) 工学専攻 [新設] (8) (平成27年7月事前伺い) 物質生産工学専攻 (廃止) (△5) (平成28年4月学生募集停止) 環境工学専攻 (廃止) (△3) (平成28年4月学生募集停止)</p>							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	福祉健康科学部	251科目	40科目	23科目	314科目	132単位			
教	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		
新設	福祉健康科学部 福祉健康科学科		13人 (13)	9人 (9)	6人 (6)	3人 (3)	31人 (31)	0人 (0)	163人 (163)
分	計		13 (13)	9 (9)	6 (6)	3 (3)	31 (31)	0 (0)	163 (163)
員	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		
既設	教育学部 学校教育教員養成課程		40 (40)	27 (27)	5 (5)	0 (0)	72 (72)	0 (0)	97 (97)
	経済学部 経済学科		12 (12)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	1 (1)	38 (38)
	経営システム学科		9 (9)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	1 (1)	38 (38)
	地域システム学科		6 (6)	13 (13)	1 (1)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	38 (38)
	医学部 医学科		47 (47)	30 (30)	6 (6)	60 (60)	143 (143)	0 (0)	152 (152)
	看護学科		11 (11)	4 (4)	2 (2)	6 (6)	23 (23)	4 (4)	41 (41)
	医学部附属病院		3 (3)	8 (8)	30 (30)	105 (105)	146 (146)	0 (0)	0 (0)
	工学部 機械・エネルギーシステム工学科		7 (7)	7 (7)	0 (0)	6 (6)	20 (20)	0 (0)	51 (51)
	電気電子工学科		8 (8)	6 (6)	1 (1)	5 (5)	20 (20)	0 (0)	42 (42)
	知能情報システム工学科		7 (7)	2 (2)	2 (2)	7 (7)	18 (18)	0 (0)	43 (43)
	応用化学科		5 (5)	6 (6)	0 (0)	4 (4)	15 (15)	0 (0)	44 (44)
	福祉環境工学科		9 (9)	10 (10)	1 (1)	4 (4)	24 (24)	1 (1)	44 (44)
	学術情報拠点		2 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
	全学研究推進機構		1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	産学官連携推進機構		1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	国際教育研究センター		1 (1)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
	福祉科学研究センター		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	高等教育開発センター		2 (2)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
	保健管理センター		1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
	計		173 (173)	135 (135)	53 (53)	197 (197)	558 (558)	7 (7)	628 (628)
	合計		186 (186)	144 (144)	59 (59)	200 (200)	589 (589)	7 (7)	791 (211)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		271人 (271)		213人 (213)		484人 (484)		
	技術職員		855 (855)		319 (319)		1,174 (1,174)		
	図書館専門職員		5 (5)		0 (0)		5 (5)		
	その他の職員		41 (41)		52 (52)		93 (93)		
	計		1,172 (1,172)		584 (584)		1,756 (1,756)		
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計			
	校舎敷地	151,443 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		151,443 m <sup>2</sup>			
	運動場用地	91,269 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		91,269 m <sup>2</sup>			
	小計	242,712 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		242,712 m <sup>2</sup>			
	その他	180,272 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		180,272 m <sup>2</sup>			
	合計	422,984 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		422,984 m <sup>2</sup>			

・平成27年5月  
申請予定(事前  
伺い)

校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		114,886 m <sup>2</sup> ( 114,886m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	114,886 m <sup>2</sup> ( 114,886 m <sup>2</sup> )					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体			
	64室	173室	363室	20室 (補助職員 0 人)	3室 (補助職員 0 人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		福祉健康科学部 福祉健康科学科		32 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	福祉健康科学部	768,838 [203,424] (768,838 [203,424])	11,574 [4,262] (11,574 [4,262])	4,141 [4,141] (4,141 [4,141])	3,133 (3,133)	640 (640)	0 ( 0 )			
	計	768,838 [203,424] (768,838 [203,424])	11,574 [4,262] (11,574 [4,262])	4,141 [4,141] (4,141 [4,141])	3,133 (3,133)	640 (640)	0 ( 0 )			
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			大学全体			
		7,638m <sup>2</sup>	948	599,090						
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
		5,056m <sup>2</sup>	弓道場, テニスコート, プール, 陸上競技場 等							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費（運営費交付金による）	
		教員1人当り研究費等	-	-	-	-	-	-		
		共同研究費等	-	-	-	-	-	-		-
		図書購入費	-	-	-	-	-	-		-
	設備購入費	-	-	-	-	-	-	-		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			-							
大 学 の 名 称		大分大学								
既 設 大 学 等 の 状 況	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	6年生学科 4年生学科
	教育福祉科学部	年	人	年次 人	人		1.03		大分県大分市	
	学校教育課程	4	100		400	学士(教育)	1.07	平成11年度	大字旦野原700番地	
	情報社会文化課程	4	50		200	学士(教養)	1.02	平成元年度		
	人間福祉科学課程	4	95		380	学士(教養)	1.01	平成9年度		
	経済学部						1.03		同上	
	経済学科	4	130		520	学士(経済学)		平成6年度		
	経営システム学科	4	130		520	学士(経済学)		平成6年度		
	地域システム学科	4	45		180	学士(経済学)		平成6年度		
	各学科共通			3年次 10	20					
	医学部						1.00		大分県由布市	
	医学科	6	100	2年次 10	645	学士(医学)	1.00	昭和51年度	挾間町医大ケ丘	
	看護学科	4	60	3年次 6	260	学士(看護学)	0.99	平成6年度	1丁目1番地	
	工学部						1.04		大分県大分市	
	機械・エネルギー システム工学科	4	80		320	学士(工学)	1.04	平成9年度	大字旦野原700番地	
	電気電子工学科	4	80		320	学士(工学)	1.03	平成3年度		
	知能情報システム 工学科	4	70		280	学士(工学)	1.08	平成3年度		
応用化学科	4	60		240	学士(工学)	1.01	平成4年度			
福祉環境工学科	4	80		320	学士(工学)	1.06	平成9年度			
各学科共通			3年次 10	20						
大学院教育学研究科 (修士課程)						0.86		大分県大分市		
学校教育専攻	2	6		12	修士(教育学)	1.66	平成4年度	大字旦野原700番地		
教科教育専攻	2	33		66	修士(教育学)	0.71	平成4年度			

既設大学等の状況	大学院経済学研究科 (博士前期課程) 経済社会政策専攻 地域経営政策専攻  (博士後期課程) 地域経営専攻	2 2 3	8 12 3	16 24 9	修士(経済学) 修士(経済学) 修士(経営学) 博士(経済学)	0.93 0.87 0.96 0.55 0.55	平成11年度 平成11年度 平成19年度	同上	
	大学院医学系研究科 (修士課程) 医科学専攻 看護学専攻 (博士課程) 医学専攻 病態制御医学  生体防御医学 分子機能制御医学  大学院工学研究科 (博士前期課程) 機械・エネルギー システム工学専攻 電気電子工学専攻 知能情報システム 工学専攻 応用化学専攻 建設工学専攻 福祉環境工学専攻 (博士後期課程) 物質生産工学専攻 環境工学専攻  大学院 福祉社会科学研究科 (修士課程) 福祉社会科学専攻	2 2 4 4 4 4 2 2 2 2 2 2 2 2 3 3	15 10 30 - - - 27 27 24 21 15 21 5 3	30 20 120 - - - 54 54 48 42 30 42 15 9	修士(医科学) 修士(看護学) 博士(医学) 博士(医学) 博士(医学) 博士(医学) 修士(工学) 修士(工学) 修士(工学) 修士(工学) 修士(工学) 修士(工学) 修士(工学) 修士(工学) 博士(工学) 博士(工学)	0.50 0.50 0.50 0.78 0.78 - - - - 1.21 1.70 1.24 0.94 1.36 0.60 1.14 0.79 0.73 0.88	平成15年度 平成10年度 平成20年度 平成18年度 平成18年度 平成18年度 平成17年度 平成7年度 平成7年度 平成7年度 平成7年度 平成7年度 平成7年度 平成7年度 平成7年度	大分県由布市 挾間町医大ケ丘 1丁目1番地  大分県大分市 大字旦那原700番地  同上	平成19年度より 学生募集停止 平成19年度より 学生募集停止 平成19年度より 学生募集停止
	附属施設の概要	<p>(附属病院) 名称：医学部附属病院 目的：診療を通して医学の教育及び研究に資する 所在地：大分県由布市挾間町医大ケ丘1丁目1番地(挾間キャンパス) 設置年：昭和56年4月 規模等：土地102,242㎡,建物65,189㎡</p> <p>(附属学校) 名称：教育福祉科学部附属幼稚園 目的：義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、次に掲げる任務を果たす。 (1) 教育福祉科学部における幼児の保育に関する研究に協力し、教育福祉科学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たること。 (2) 保育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の幼稚園との保育研究の協力及び保育研究の成果の交流を行うこと。 所在地：大分市王子新町1-1(王子キャンパス) 設置年：昭和15年4月 規模等：土地9,250㎡,建物959㎡</p> <p>名称：教育福祉科学部附属小学校 目的：心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すとともに、次に掲げる任務を果たす。 (1) 教育福祉科学部における児童の教育に関する研究に協力し、教育福祉科学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たること。 (2) 教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究協力及び教育研究の成果の交流を行うこと。 所在地：大分市王子新町1-1(王子キャンパス) 設置年：明治16年4月 規模等：土地23,437㎡,建物6,835㎡</p>							

附属施設の概要

名称：教育福祉科学部附属中学校  
 目的：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、次に掲げる任務を果たす。  
 (1) 教育福祉科学部における生徒の教育に関する研究に協力し、教育福祉科学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たること。  
 (2) 教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うこと。  
 所在地：大分市王子新町1-1（王子キャンパス）  
 設置年：昭和24年4月  
 規模等：土地27,338㎡、建物6,941㎡

名称：教育福祉科学部附属特別支援学校  
 目的：知的障害者に対して、小学校・中学校又は高等学校に準ずる教育を施し、併せて障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けるとともに、次に掲げる任務を果たす。  
 (1) 教育福祉科学部における児童・生徒の教育に関する研究に協力し、教育福祉科学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たること。  
 (2) 教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うこと。  
 (3) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は中等教育学校の要請に応じて、教育上特別の支援を必要とする児童、生徒又は幼児の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努めること。  
 所在地：大分市王子新町1-1（王子キャンパス）  
 設置年：平成19年4月（附属養護学校を改称）  
 規模等：土地13,984㎡、建物3,894㎡

(学内共同教育研究施設等)

名称：学術情報拠点  
 目的：全学的な学術情報基盤の基幹組織として学術情報の整備・充実とその高度化に努め、図書、学術雑誌その他必要な資料と情報システム及び情報ネットワーク（以下「基盤情報システム」という。）を本学の教職員及び学生の利用に供することにより教育・研究の進展を図るとともに、地域社会への学術情報の提供と公開及び情報化支援などを通じて社会との連携の推進に資する  
 所在地：大分県大分市大字旦野原700番地（旦野原キャンパス）  
 設置年：平成20年4月（附属図書館と総合情報処理センターを統合）  
 規模等：建物450㎡

名称：全学研究推進機構  
 目的：基盤研究の支援及び重点研究の推進を図るため研究プロジェクトの創生及び支援体制の整備並びに大学院生等の人材育成に資する。  
 所在地：大分県大分市大字旦野原700番地（旦野原キャンパス）  
 設置年：平成21年10月  
 （総合科学研究支援センターと先端医工学研究センターを統合）  
 規模等：建物4,139㎡

名称：産学官連携推進機構  
 目的：教育、研究及び医療の成果を社会に還元し、社会との連携と共存を図り、その発展に貢献することを目指して、円滑な産学官連携を推進する。  
 所在地：大分県大分市大字旦野原700番地（旦野原キャンパス）  
 設置年：平成23年4月（イノベーション機構を改組）  
 規模等：建物2,637㎡

名称：国際教育研究センター  
 目的：留学生の教育、学生の国際化教育及び国際交流開発に関する調査・研究を行うことにより、大分大学の国際化及び国際交流の推進に資する。  
 所在地：大分県大分市大字旦野原700番地（旦野原キャンパス）  
 設置年：平成19年4月（留学生センターを改組）  
 規模等：建物239㎡

名称：福祉科学研究センター  
 目的：学内及び学外の関係機関と連携を図り、福祉科学に関する理論的な深化・発展をめざす調査・研究を行うとともに、実践的な人材養成を支援するための諸活動を行い、地域社会の福祉の増進に寄与する。  
 所在地：大分県大分市大字旦野原700番地（旦野原キャンパス）  
 設置年：平成10年4月  
 規模等：建物55㎡

名称：高等教育開発センター  
 目的：学内外の関係機関との連携の下に、高等教育及び生涯学習に関する調査・研究及び教育事業を積極的に推進し、もって大分大学における教育及び地域社会の発展に寄与する。  
 所在地：大分県大分市大字旦野原700番地（旦野原キャンパス）  
 設置年：平成17年4月（大学教育開発支援センターを改組）  
 規模等：建物146㎡

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：入学企画支援センター          目的：入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に応じた優れた入学者の確保及び入学志願者の拡大のため、入学者選抜全般に関する企画戦略を策定することを目的とする。          所在地：大分県大分市大字旦野原700番地（旦野原キャンパス）          設置年：平成20年4月          規模等：建物116㎡</p> <p>名称：保健管理センター          目的：大分大学の保健に関する専門的業務と研究を一体的に行い、学生及び職員の心身の健康保持増進を図る。          所在地：大分県大分市大字旦野原700番地（旦野原キャンパス）          大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地（挾間キャンパス）          設置年：昭和49年4月          規模等：建物803㎡</p>	
----------------	---	--

教育課程等の概要															
(福祉健康科学部福祉健康科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	導入・転換	生涯学習論入門	1・2・3・4 前	2		○								兼1	隔年・共同 ※実習 共同 オムニバス 共同 共同
		スポーツと生活	1・2・3・4 前	2		○								兼2	
		大学開放論-社会人の学びと大学生の学び-	1・2・3・4 後	2		○								兼1	
		学習ボランティア入門	1・2・3・4 前	2		○			※					兼1	
		中小企業の魅力の発見と発信～インターンシップセミナー～	1・2 前	2		○								兼1	
		木材加工の技術	1・2・3・4 後	2			○							兼2	
		コンピュータ科学入門	1・2・3・4 前	2		○								兼8	
		初等教育のためのICT活用	1・2・3・4 後	2			○							兼3	
		人類の知的遺産と向き合う	1・2・3・4 後	2		○								兼1	
		基礎ゼミ	1前	2		○				9	6	5	3		
		社会理論と社会システム	1前	2		○				1					
	小計（11科目）	—	2	20	0	—	—	—	9	6	5	3	0	兼15	
文化・国際	西洋思想の源流	1・2・3・4 前	2			○								兼1	隔年
	大分美術史概論	1・2・3・4 前	2			○								兼1	隔年
	器楽の楽しみ	1・2・3・4 前	2			○								兼2	共同
	国文学作品研究	1 前	2			○								兼1	隔年
	古典文学講読	1・2 前	2			○								兼1	
	水彩画の魅力	1・2・3・4 前	2				○							兼1	隔年
	手作り絵本の楽しみ	1・2・3・4 後	2				○							兼1	隔年
	西洋音楽史入門	1・2・3・4 後	2			○								兼1	隔年
	文化人類学	1・2・3・4 前	2			○								兼1	隔年
	イギリス近代史	1・2・3・4 前	2			○								兼1	隔年
	前近代日本の国家と社会	1・2・3・4 後	2			○				1				兼1	隔年
	医学史のプロムナード	1・2・3・4 後	2			○								兼1	隔年
	中国史学緒論	1・2・3・4 前	2			○								兼1	隔年
	東アジアの諸相	1・2・3・4 後	2			○								兼1	隔年
	国際関係入門	1・2・3・4 後	2			○								兼1	隔年
	英語ゼミナールA	2・3・4 前	2			○								兼1	
	英語ゼミナールB	2・3・4 前	2			○								兼1	
	英語ゼミナールD	2・3・4 後	2			○								兼1	
	英語ゼミナールE：英語運用力養成訓練Ⅰ	2・3・4 前	2			○								兼1	
	英語ゼミナールF：英語運用力養成訓練Ⅱ	2・3・4 後	2			○								兼1	
	応用中国語Ⅰ	2・3・4 前	2			○								兼1	
	応用中国語Ⅱ	2・3・4 後	2			○								兼1	
	応用ドイツ語Ⅰ	2・3・4 前	2			○								兼1	
	応用ドイツ語Ⅱ	2・3・4 後	2			○								兼1	
	応用フランス語Ⅰ	2・3・4 前	2			○								兼1	
	応用フランス語Ⅱ	2・3・4 後	2			○								兼1	
	海外短期語学研修	1・2・3・4 前後	2			○								兼1	
ソーシャルネットワークと大分からの発信Ⅰ	1・2・3・4 後	2			○								兼1		
ソーシャルネットワークと大分からの発信Ⅱ	1・2・3・4 前	2			○								兼1		
日本語学Ⅰ	1・2・3・4 後	2			○								兼1		
表現技術（口頭発表）	1・2・3・4 前	2			○								兼1		
言語と社会	1・2・3・4 後	2			○								兼1		
海外研修	1・2・3・4通	2						○	1	1					
	小計（33科目）	—	0	66	0	—	—	—	1	2	0	0	0	兼24	
社会・経済	現代国際政治と日本	2・3・4 後	2			○								兼1	隔年
	現代社会と法	1・2・3・4 後	2			○								兼1	隔年
	税金入門	1・2・3・4 前	2			○								兼1	隔年
	日本国憲法	1・2・3・4 後	2			○								兼1	
	日本のマネジメント	1・2・3・4 前	2			○								兼1	隔年
	会社組織のしくみ	1・2・3 前	2			○								兼1	隔年

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	社会・経済	会社法入門	1・2・3・4 後	2		○									兼1	隔年
		革新的企業経営	1・2・3・4 前	2		○									兼1	隔年
		企業の価格戦略と消費者の行動	1・2・3・4 前	2		○									兼1	隔年
		企業ファイナンス入門	1・2・3・4 後	2		○									兼1	隔年
		金融とわたしたちの生活	1・2・3・4 後	2		○									兼1	隔年
		グローバル経済入門	1・2・3・4 前	2		○									兼1	隔年
		経営学の基礎	1・2・3・4 後	2		○									兼1	隔年
		経済学で物事をみる	1・2・3・4 後	2		○									兼1	隔年
		経済学を学ぶ	1・2・3・4 前	2		○									兼1	隔年
		経済統計を読む	1・2・3・4 前	2		○									兼1	隔年
		経済と倫理	1・2・3・4 後	2		○									兼1	隔年
		資本市場論	1・2・3・4 前	2		○									兼1	隔年
		消費者と企業	1・2 後	2		○									兼1	隔年
		食と農の地理学	1・2・3・4 前	2		○									兼1	隔年
		日本経済入門	1・2・3・4 前	2		○									兼1	隔年
		日本の財政	1・2・3・4 後	2		○									兼1	隔年
		人間・労働と技術の現代史	1・2・3・4 前	2		○									兼1	隔年
		経済発展と貧困削減	1・2・3・4 後	2		○									兼1	隔年
		小計（24科目）	—	0	48	0	—			0	0	0	0	0	兼24	
自然・科学	化学史	1・2・3・4 後	2		○									兼1		
	確率と統計入門	1・2・3・4 後	2		○									兼1		
	環境と感染症	1・2・3・4 後	2		○									兼1		
	環境と生物	1・2・3・4 後	2		○									兼1	隔年	
	幾何学	1・2・3・4 後	2		○									兼1	隔年	
	ゲーム理論と社会	1・2・3・4 前	2		○									兼1	隔年	
	原子と分子	1・2・3・4 前	2		○									兼3	共同	
	現代天文学と生命	1・2・3・4 前	2		○									兼1		
	栽培学習論	1・2・3・4 前	2				○							兼2	共同	
	進化と多様性の生物学	1・2・3・4 後	2		○									兼1		
	数学と文化	1・2・3・4 前	2		○									兼1	隔年	
	数学入門	1・2・3・4 後	2		○									兼1	隔年	
	生活の化学	1・2・3・4 前	2		○									兼1	隔年	
	生命観の変遷	1・2・3・4 前	2		○									兼1		
	地生態学	1・2・3・4 後	2		○									兼1	隔年	
	抽象化と代数学	1・2・3・4 後	2		○									兼1	隔年	
	微分法と数学	1・2・3・4 前	2		○									兼1	隔年	
	物質の状態と変化	1・2・3・4 後	2		○									兼3	共同	
	物理学への招待	1・2・3・4 後	2		○									兼3	隔年・オムニバス	
	身近な化学	1・2・3・4 後	2		○									兼1	隔年	
	身近な物理学	1・2・3・4 後	2		○									兼1	隔年	
	生命科学と社会	1・2・3・4 後	2		○									兼1	隔年	
	エネルギー科学	1・2・3・4 前	2		○									兼3	オムニバス	
	エレクトロニクスの世界Ⅰ	1・2・3・4 前	2		○									兼3	オムニバス	
	エレクトロニクスの世界Ⅱ	1・2・3・4 後	2		○									兼3	オムニバス	
	くらしの化学	1・2・3・4 後	2		○									兼2	オムニバス	
	クルマと社会の関わり	1・2・3・4 後	2		○									兼1		
建築構造工学	1・2・3・4 前	2		○									兼5	オムニバス		
食品材料概説	1・2・3・4 後	2		○									兼1	隔年		
植物細胞工学	2 後	2		○									兼1	隔年		
情報科学の世界	1・2・3・4 後	2		○									兼8	オムニバス		
初等教育のためのものづくり	1・2・3・4 前	2		○			○						兼3	共同		
数理の世界	1・2・3・4 後	2		○									兼1	隔年		
小計（33科目）	—	0	66	0	—				0	0	0	0	0	兼55		
福祉・地域	地域における仕事と社会	1・2・3・4 後	2		○									兼1	隔年	
	子育て支援の地理学	1・2・3・4 前	2		○									兼1	隔年	
	地域の住まい論	1・2・3・4 後	2		○		※							兼1	隔年※演習	
	自然災害と防災の科学	1・2・3・4 前	2		○									兼5	オムニバス	
	建築環境計画	1・2・3・4 前	2		○									兼6	オムニバス	



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
教養教育科目	福祉・地域	カラダの見方・考え方	1・2・3・4 後	2		○										兼1		
		地球環境とエネルギー入門	1・2・3・4 前	2		○										兼2	オムニバス・共同(一部)	
		社会福祉と自立思想	1・2・3・4 後	2		○			1									
		障がい者福祉入門	1・2・3・4 後	2		○					1							隔年
		アルコール関連問題入門	1・2・3・4 後	2		○						1						隔年
		現代の福祉政策	1・2・3・4 後	2		○						1						隔年
		市民参加と現代社会	1・2・3・4 後	2		○							1				兼1	隔年
		福祉専門職の来し方	1・2・3・4 後	2		○								1				隔年
		福祉テクノロジー入門	1・2・3・4 前	2		○											兼1	
		地域と財政	1・2・3・4 前	2		○											兼1	隔年
		東南アジアの社会と教育	1・2・3・4 前	2		○											兼1	隔年
		保育学基礎論	1 後	2		○		※									兼1	隔年※演習
		学びと生活の探求	1・2 前	2		○											兼1	隔年
		地域社会へのまなざし	1・2・3・4 後	2		○											兼1	隔年
		交通から見た地域社会	1・2・3・4 後	2		○											兼1	隔年
		世界・日本・大分の農業経済論	1・2・3・4 前	2		○											兼1	隔年
		大分の水I	1・2・3・4 前	2		○											兼6	共同
		大分の水II	1・2・3・4 後	2		○											兼2	共同
		環境の化学入門	1・2・3・4 前	2		○											兼2	オムニバス
		自然体験活動の理論と実践	1・2・3・4 前	2		○		※									兼1	※実習
		地域ガバナンスとグローバルガバナンスを考える	1・2・3・4 後	2		○											兼1	隔年
		地域と情報	1・2・3・4 後	2		○											兼1	隔年
		現代における青年の心理	1・2・3・4 後	2		○												隔年
		現代社会と心理学	1・2・3・4 後	2		○				3	1	2						隔年・オムニバス
		人体の構造と生理	1・2・3・4 前	2		○				2		1						隔年・オムニバス
		高齢者の身体機能と疾病の特徴	1・2・3・4 前	2		○				3	1		1					隔年・オムニバス
		生活習慣病とその予防	1・2・3・4 後	2		○				2	1							隔年・オムニバス
		運動器疾患と治療・予防	1・2・3・4 後	2		○				1								隔年・オムニバス
		共生社会論	1前	2		○						1						
		医療倫理	1前	2		○											兼1	集中
		子どもにとっての福祉とは：社会的養護と家族支援	1・2・3・4 前	2		○				1								隔年
		運動学習の科学	1 後	2		○		※									兼1	※実技
		エクササイズ理論と実践	1 後	2		○		※									兼1	※実技
	スポーツと健康づくりの科学	1 前	2		○		※									兼1	※実技	
	パラエティススポーツの実践	1 後	2		○		※									兼1	※実技	
	レクリエーション・スポーツの科学	1 前	2		○		※									兼1	※実技	
	小計(41科目)	—	0	82	0	—	—	—	10	7	4	1	0		兼40			
海外・語学	英語I	1前	1			○												
	英語II	1前	1			○												
	英語III	1後	1			○												
	英語IV	1後	1			○												
	基礎中国語I	1前		1		○										兼1		
	基礎中国語II	1後		1		○										兼1		
	基礎ドイツ語I	1前		1		○										兼2		
	基礎ドイツ語II	1後		1		○										兼2		
	基礎フランス語I	1前		1		○										兼1		
	基礎フランス語II	1後		1		○										兼1		
小計(10科目)	—	4	0	6	—	—	—	0	1	0	0	0		兼4				
共通基礎科目	福祉健康科学概論	1前	2			○			1									
	地域包括ケア概論	2前	2			○			2									
	地域マネジメント論	3前	2													兼1	集中	
	ライフサポート論	4前	2			○			3	1						兼1	オムニバス	
	アーリー・エクスポージャー	1前	1					○	8	6	4	3						
小計(5科目)	—	9	0	0	—	—	—	9	6	4	3	0		兼2				

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通 展開 科目	生体 分野	看護学概説	1前	2			○										
		人体の構造と機能及び疾病	1前	2			○			2	1	1					オムニバス
		リハビリテーション医学・概論	1後	2			○			1							
		地域リハビリテーション学	4後	2			○										
		生理学Ⅰ	1前		2		○			1							
		解剖学Ⅰ	1前		2		○					1					
		病理学	1後		2		○										兼1
		人間発達学	1後		2		○			1		1					オムニバス
		内部障害とリハビリテーション	2前		2		○			1							
		運動器疾患とリハビリテーション	2前		2		○			1							
		がんリハビリテーション	2前		2		○			4							兼1
		神経疾患とリハビリテーション	2前		2		○										兼1
		言語聴覚療法学	2前		1		○										兼1
	小計（13科目）		—	8	17	0			—	5	1	1	0	0		兼3	
社会 分野		社会保障論Ⅰ	2前	2			○			1							
		保健医療サービス論	2前	2			○			1							
		福祉サービスの組織と運営	3後	2			○										兼1
		地域福祉論Ⅰ	2前		2		○					1					
		現代社会と福祉Ⅰ	1前		2		○				1						
		高齢者福祉論Ⅰ	1後		2		○						1				
小計（6科目）		—	6	6	0			—	2	1	2	0	0		兼1		
心理 分野		心理学概論	1前	2			○			1	1						共同
		社会心理学	3後	2			○			1							
		コミュニティ心理学	4後	2			○			1							
		ライフサイクルの心理学	1後		2		○				1						
		健康心理学	1後		2		○					1					
		老年心理学	2前		2		○						1				
		障害児者心理学	2前		2		○						1				
		リハビリテーション心理学	1後		2		○						1				
		臨床心理学概論	2前		2		○			1							
		精神医学Ⅰ	3前		2		○										兼2
精神医学Ⅱ	3後		2		○										兼1		
小計（11科目）		—	6	16	0			—	2	1	2	0	0		兼3		
チュ ート リアル 科目		チュートリアルⅠ	2後	2				○									
		チュートリアルⅡ	3前	1				○		8	6	5	3				
		チュートリアルⅢ	3後	2					○	8	6	5	3				
		チュートリアルⅣ	4後	1					○	8	6	5	3				
		小計（4科目）		—	6	0	0		—	8	6	5	3	0			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
理学療法コース専門科目	基礎系	理学療法概論	2前		2		○									
		義肢装具学	2後		2		○									
		小計（2科目）	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0		
	医学系	生理学Ⅱ	1後		2		○			1						
		解剖学Ⅱ	1後		2						1					
		運動学	2前		2		○									
		小計（3科目）	—	0	6	0	—			1	0	1	0	0	0	
	リハビリテーション分野系	理学療法評価学Ⅰ	2後		2		○			1						
		理学療法評価学Ⅱ	2後		2		○				1					
		運動療法学	2後		2		○									
		運動器系理学療法学	3前		2		○						1			
		神経系理学療法学	3前		2		○				1					
		脳血管障害理学療法学	3前		2		○				1					
	内部障害理学療法学	3前		2		○			1							
	発達系理学療法学	3前		2		○									兼1	
	老年期理学療法学	3前		2		○			1							
	神経難病理学療法学	3前		2		○										
	慢性疼痛と理学療法学	3後		1		○			1							
	物理療法学	3前		1		○			1							
	小計（12科目）	—	0	22	0	—			3	1	0	1	0	兼1		
基礎研究科目	理学療法学研究論	3前		2		○			5	2	1	1			オムニバス	
	理学療法学研究演習	4後		2			○		5	1		3			オムニバス	
	小計（2科目）	—	0	4	0	—			5	2	1	3	0	0		
実習系	生理学実習	1後		1				○	1							
	解剖学実習Ⅰ	1後		1				○			1					
	解剖学実習Ⅱ	1後		1				○			1					
	義肢装具学実習	2後		1				○							兼1	
	物理療法学実習	3前		1				○				1				
	基礎理学療法実習	3前		1				○	1			1				
	理学療法評価学実習	2後		1				○	1			1				
	運動器系理学療法学実習	3後		1				○				1				
	神経系理学療法学実習	3後		1				○		1						
	脳血管障害理学療法学実習	3後		1				○		1						
	内部障害理学療法学実習	3後		1				○	1			1				
	小計（11科目）	—	0	11	0	—			2	1	1	2	0	兼1		
臨床実習	基礎臨床実習Ⅰ（見学）	1後		1				○	2	1		3			集中	
	基礎臨床実習Ⅱ（計測）	2後		1				○	2	1		3			集中	
	臨床実習Ⅰ（アセスメント）	3後		3				○	2	1		3			集中	
	臨床実習Ⅱ	4前		6				○	1	1		3				
	臨床実習Ⅲ	4前		7				○	1	1		3			集中	
	小計（5科目）	—	0	18	0	—			2	1	0	3	0	0		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
社会福祉実践コース専門科目	概論系	現代社会と福祉Ⅱ	1後	2		○										
		社会調査の基礎	3前	2		○			1	1						
		小計（2科目）	—	0	4	0	—		1	1	0	0	0			
	制度政策系	福祉行政と福祉計画	2前	2		○										兼1
		社会保障論Ⅱ	2後	2		○			1							
		小計（2科目）	—	0	4	0	—		1	0	0	0	0			兼2
	社会福祉分野系	地域福祉論Ⅱ	2後	2		○					1					
		児童・家庭福祉論	2後	2		○			1							
		障害児者福祉論	2後	2		○					1					
		高齢者福祉論Ⅱ	2前	2		○					1					
		公的扶助論	2前	2		○				1						
		就労支援サービス	2後	1		○										兼1
		権利擁護と成年後見制度論	2前	2		○										兼1
		更生保護制度	2後	1		○										兼3
		スクールソーシャルワーク	3後	2		○										兼1
		小計（9科目）	—	0	16	0	—		1	1	3	0	0			兼6
相談援助技術系	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	1後	2		○			1								
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	2前	2		○			1								
	相談援助の理論と方法Ⅰ	2後	2		○			1								
	相談援助の理論と方法Ⅱ	3前	2		○			1								
	相談援助の理論と方法Ⅲ	3後	2		○			1								
	相談援助の理論と方法Ⅳ	4前	2		○			1								
	小計（6科目）	—	0	12	0	—		1	0	0	0	0	0			0
演習系	相談援助演習Ⅰ	3前	2			○		1		3						
	相談援助演習Ⅱ	3前	2			○		1		3						
	相談援助演習Ⅲ	3後	2			○				3						
	相談援助演習Ⅳ	3後	2			○				3						
	相談援助演習Ⅴ	4前	2			○				3						
	小計（5科目）	—	0	10	0	—		1	0	3	0	0	0			0
実習系	相談援助実習指導Ⅰ	2前	2		○					3						
	相談援助実習指導Ⅱ	3前	2		○					3						
	相談援助実習指導Ⅲ	3後	2		○					3						
	相談援助実習Ⅰ	2前	2				○	1		3					集中	
	相談援助実習Ⅱ	3前	4				○	1		3					集中	
	小計（5科目）	—	0	12	0	—		1	0	3	0	0	0			
基礎研究科目	卒業研究指導Ⅰ	3前	1			○		5	3	3						
	卒業研究指導Ⅱ	3後	1			○		5	3	3						
	卒業研究Ⅰ	4前	1			○		5	3	3						
	卒業研究Ⅱ	4後	1			○		5	3	3						
	小計（4科目）	—	0	4	0	—		5	3	3						
精神保健福祉系	精神保健学Ⅰ	3前	2		○										兼1	
	精神保健学Ⅱ	2後	2		○										兼1	
	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	2後	2		○										兼1	
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	2前	2		○										兼1	
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	3前	2		○					1						
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	3後	2		○										兼1	
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	4前	2		○					1						
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	3前	2		○					1						
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	3後	2		○					1						
	精神障害者の生活支援システム	3後	2		○										兼1	
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	3後	2			○				1						
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	4後	2			○				1						
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3後	2		○					1						
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4前	2		○					1						
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4後	2		○					1						
	精神保健福祉援助実習	4前	5					○		1						
小計（16科目）	—	0	35	0	—			0	1	0	0	0			兼3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
心理学コース専門科目	心理学研究法	2前		2		○			1								
	心理統計法	1後		2		○			1								
	心理学基礎実験実習	1後		2			○			1							
	心理検査実習Ⅰ	3前		2			○			1							
	心理検査実習Ⅱ	3後		2			○			1							
	心理面接実習	3後		2			○		1								
	小計（6科目）	—	0	12	0		—		2	2	0	0	0	0		0	
	神経心理学	3前		2		○				1							
	生理心理学	2前		2		○				1							
	行動分析学	2後		2		○										兼1	
	認知心理学	2後		2		○										兼1	
	小計（4科目）	—	0	8	0		—		0	1	0	0	0	0		兼2	
	発達と学習の心理学Ⅰ	1後		2		○										兼2	共同
	発達と学習の心理学Ⅱ	2前		2		○										兼2	共同
	小計（2科目）	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	0		兼2	
	環境心理学	1前		2		○										兼1	集中
	対人関係論	3前		2		○					1						
	小計（2科目）	—	0	4	0		—		1	0	1	0	0	0		兼1	
	臨床心理学系	臨床心理学実践論	2後		2		○			1							
	医療心理学	3後		2		○					1						
	人格心理学	2前		2		○					1						
	教育臨床心理学Ⅰ	3前		2		○			1								
	教育臨床心理学Ⅱ	3後		2		○			1	1							
	幼児理解と発達相談	3前		2		○										兼1	
	高齢者臨床心理学	2後		2		○					1						
	司法・矯正心理学	2後		2		○										兼1	
	産業臨床心理学	4前		2		○					1						
小計（9科目）	—	0	18	0		—		2	1	0	0	0	0		兼2		
隣接領域系	児童・家庭福祉論	2後		2		○			1								
障害児者福祉論	2後		2		○					1							
就労支援サービス	2後		1		○										兼1	集中	
更生保護制度	2後		1		○										兼3		
精神保健学Ⅰ	3前		2		○										兼1		
精神保健学Ⅱ	2後		2		○										兼1		
犯罪と法	2前		2		○										兼1		
福祉行財政と福祉計画	2前		2		○										兼1		
スクールソーシャルワーク	3後		2		○										兼1		
小計（9科目）	—	0	16	0		—		1	0	1	0	0	0		兼8		
実践職能系	臨床実践職能論	3前		2		○			1								
実践領域実習Ⅰ（福祉・医療）	2通		1						2	3	1						
実践領域実習Ⅱ（教育・司法）	3通		1						2	3	1						
小計（3科目）	—	0	4	0		—		2	3	1	0	0	0		0		
基礎研究科目	心理学特別研究	3後		1			○		3	3	2						
卒業課題研究Ⅰ	4前		1				○		3	3	2						
卒業課題研究Ⅱ	4後		1				○		3	3	2						
卒業研究	4後		4				○		3	3	2						
小計（4科目）	—	0	7	0		—		3	3	2	0	0	0		0		
合計（314科目）		—	41	556	6		—	13	9	6	3	0	0		兼163		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（福祉健康科学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（リハビリテーション関係）、社会学・社会福祉学関係、文学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<b>1. 教養教育科目</b> <u>14単位</u> (1) 導入・転換 2単位 「基礎ゼミ」を必修とする。 (2) 文化・国際 } (3) 社会・経済 } 2単位 (4) 自然・科学 } (5) 福祉・地域 6単位 理学療法コースは「医療倫理」を必修とする。 (6) 海外・語学 4単位 「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を必修とする。  <b>2. 共通基礎科目</b> <u>9単位</u>  <b>3. 共通展開科目</b> <b>【理学療法コース】</b> <u>38単位</u> 生体分野の24単位（言語聴覚療法学）を必修とし、社会分野、心理分野から2単位以上を履修する。（うち、「社会保障論Ⅰ」、「保健医療サービス論」、「福祉サービスの組織と運営」、「心理学概論」、「社会心理学」、「コミュニティ心理学」は必修とする。）  <b>【社会福祉実践コース】</b> <u>38単位以上</u> 社会分野の12単位を必修とし、生体分野、心理分野から2単位以上を履修する。（うち、「看護学概説」、「人体の構造と機能及び疾病」、「リハビリテーション医学・概論」、「地域リハビリテーション学」、「心理学概論」、「社会心理学」、「コミュニティ心理学」は必修とする。）  <b>【心理学コース】</b> <u>38単位</u> 心理分野の22単位を必修とし、生体分野、社会分野から2単位以上を履修する。（うち、「看護学概説」、「人体の構造と機能及び疾病」、「リハビリテーション医学・概論」、「地域リハビリテーション学」、「社会保障論Ⅰ」、「保健医療サービス論」、「福祉サービスの組織と運営」は必修とする。）  <b>4. チュートリアル科目</b> <u>6単位</u>  <b>5. コース専門科目</b> <b>【理学療法コース】</b> <u>65単位</u> (1) 基礎系 4単位 (2) 医学系 6単位 (3) リハビリテーション分野系 22単位 (4) 基礎研究科目 4単位 (5) 実習系 11単位 (6) 臨床実習 18単位						1学年の学期区分		2期						
						1学期の授業期間		15週						
						1時限の授業時間		90分						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	<p><b>【社会福祉実践コース】</b> 6 2 単位以上</p> <p>(1) 概論系 (2) 制度政策系 (3) 社会福祉分野系 (4) 相談援助技術系 (5) 演習系 (6) 実習系 (7) 精神保健福祉系 「精神保健福祉実習」の単位数は、「相談援助実習Ⅰ」及び「相談援助実習Ⅱ」の単位を取得した場合、4 単位となる。 (8) 基礎研究科目 4 単位</p> <p>5 8 単位以上</p> <p><b>【心理学コース】</b> 6 5 単位</p> <p>(1) 心理学基礎系 1 2 単位 (2) 生理認知心理学系 (3) 発達・教育心理学系 (4) 社会・産業心理学系 (5) 臨床心理学系 (6) 隣接領域系 (7) 実践職能系 (8) 基礎研究科目 7 単位</p> <p>4 6 単位</p> <p>7 単位</p> <p>◆登録履修上限単位数 2 8 単位 (1 セメスターあたり) ◆総単位数 1 3 2 単位</p>													

授 業 科 目 の 概 要			
(福祉健康科学部福祉健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	導入・転換		
	生涯学習論入門	大学生という時期は、学校教育を中心とした受動的学習スタイルの最後の時期であり、「自己主導的学習」や「成人教育」に向け学習スタイルを自発的・積極的なものに転換すべき時期でもある。しかし、一般的には、高校までと同じスタイルで学ぼうとし、卒業後は自主的に学べない人が多いのが実情である。この授業では、生涯学習の理論の基礎を知るとともに、ライフデザインと学習を関連づけ、身近な生活（家庭生活や社会生活、学校での生活など）の中で自分がどのような学習を行っていくかについて展望を持ってもらいたい。	
	スポーツと生活	スポーツを生活の中に取り入れることは、ストレスの解消、生活習慣病の予防、自然環境とのマッチング等の効果があり、生活を豊かにし心身の健康を向上するために有用である。本講義はスポーツや健康を多角的に捉え、QOL（生活の質）とは何かを考える。	共同 隔年
	大学開放論-社会人の学びと大学生の学び-	大学はかつて限られた層の人が学ぶ教育機関であったが、現在では、誰もが、生涯の中で必要となった時にいつでも、学ぶ機関へと変容しようとしている。 この授業では、このような大学の機能を社会に開放する「大学開放」という考え方・実践を紹介しつつ、自分が大学生として本学においてどのように学び、どのような力を身につけるかを考えてもらう。さらに、大学卒業後も、自分のライフデザインや課題の達成のためにどのように大学を利用するかについても考えてもらいたい。	
	学習ボランティア入門	少子高齢化が進む中、青少年の健全育成や団塊世代・高齢者の地域貢献などの活動の推進が大きな課題とされ、家庭や学校、地域住民等の相互の連携・協力を通じた、地域住民の積極的な関わりが求められている。そこで、こうした地域社会での活動について、自らが学んだ成果を、他の人々の学習や福祉活動に活用する学習ボランティアとして参加することを通して、地域社会への理解や自分自身のコミュニケーション能力・職業観などの学びを深める。そのために、ボランティアに関する基礎知識と、自分が選んだボランティア活動体験を組み合わせた学修を行う。	講義12時間 実習18時間
	中小企業の魅力の発見と発信 ～インターンシップセミナー～	本授業は、中堅、中小企業等と連携してインターンシップを行うものであり、講義・職場体験・取材活動・企業の魅力発信の4つで構成しています。事前・事中・事後も自主的な学びを行うなどしてインターンシップを効果的に行うことにより、進路選択等の視野を拡大し、自分自身の将来についてキャリアをデザインしていくための実践的な学びをするものです。未だ職業に関心の無い学生も含めて、単にインターンシップということではなく、4つの学びをとおしたキャリアデザインの基礎的な力を学ぶものです。	
木材加工の技術	木材の加工を通して、ものづくりと生活との関わりを考え、ものづくりの技術がわれわれの生活にどう生かされているかを学ぶ。また、生活者として、社会の中にある技術の機能と役割を知り、その有効な活用方法や生産の意義を学び、使用者として、技術を適切に評価し活用できる能力と、現代社会の一員として必要な実践的な態度を身に付ける。具体的には、講義において生活の中に利用されている技術を知り、利用方法を理解し、実習を通して基本的なものづくりのための木材の性質や加工法を習得し、それらを統合して循環型社会の構築に向けた考え方を身に付ける。	共同	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 導入・転換	コンピュータ科学入門	<p>我々の生活にはコンピュータは不可欠となっている。インターネットでの情報のやりとりや、音声や画像などの処理が手のひらの上のコンピュータで行われ、家庭内でも知能ロボットが使われ始めている。また、蓄積された情報の中から有用な情報を得る技術が企業経営における意思決定や社会システムの効率化などに応用されている。この講義では、背景にあるコンピュータの発展の歴史と、それらを支える技術を紹介する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(105 大竹 哲史／2回) コンピュータの歴史と基本的な構成を概観し、ハードウェア・ソフトウェアの役割とその設計技術を紹介する。</p> <p>(70 中島 誠／2回) インターネットの歴史と基本技術を概観し、WWW上での情報提供・取得に関する技術を紹介する。</p> <p>(169 佐藤 慶三／1回) 情報検索の歴史を概観し、テキスト検索などに関する基本的な技術を紹介する。</p> <p>(81 古家 賢一／2回) コンピュータ上での音の表現方法および基本的な処理方法を紹介する。</p> <p>(157 行天 啓二／2回) コンピュータ上での画像データの表現方法および基本的な処理方法を紹介する。</p> <p>(168 賀川 経夫／2回) 知能ロボットや仮想現実感・拡張現実感を実現するための技術を紹介する。</p> <p>(164 原 恭彦／2回) 確率と確率分布、期待値と分散、偏差値など、データのばらつきを扱う技術を紹介する。</p> <p>(45 越智 義道／2回) ばらつきを持って生じるデータの中から、意思決定に必要な情報を取り出すための技術を紹介する。</p>	オムニバス方式
	初等教育のためのICT活用	<p>近年、学校現場では教育の情報化等の施策を受け、教員はICTの特徴を最大限活用し、子どもたちに対して一斉指導だけでなく、個別指導、協働学習などの学びの場を提供することが求められる。しかし、単に授業でICT活用をすれば教育効果が期待できるものではないことは言うまでもない。本講義では、ICTの実践的指導力を身に付けることを目的とし、学校現場におけるICTの実態（タブレット端末、電子黒板、デジタル教科書等）を踏まえ、児童・生徒の情意を喚起するICT活用の方法や各教科の特性に応じた活用方法について概観し、試行的な授業づくりを通して、「学びを深めるICT活用」を考察する。</p>	共同
	人類の知的遺産と向き合う	<p>リメディアル教育として、高等学校までに学習した知識について、具体的な文献をもとに検討することで、人類の文化的遺産としての知識のあり方を考察し、大学での学び方を身につける授業である。受講生全員への課題として、題材として科学史の一場面を取り上げ、その内容を要約するとともにクリティカルな考察を加え発表する。この授業をすすめる鍵となる文献の選択には「授業ナビゲータ（パスファインダー）」を活用することで、初年次の学生でも適切に文献が検索できるよう配慮がされている。</p>	
	基礎ゼミ	<p>大学への新入生が、新しく始まる大学生活や、大学での自由度の高い学習方法に無理なく適応できるよう、コース単位で精神的にサポートすることとともに、学習に必要な基礎的な情報獲得することを目的とする。具体的には、各コースの資格取得に係る履修方法、レポートの書き方や提出方法、大学図書館の利用方法、情報リテラシー等について学習する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	導入・転換	<p>社会理論と社会システム</p> <p>目標；古典として確立された社会学理論を学ぶことで、社会を捉える様々な視点があることを理解させる。労働、生活、社会問題等を理解させることで、社会福祉士に必要な基礎的知識を獲得する。</p> <p>授業計画；ウェーバー、デュルケム、ジンメル、マルクス等の社会把握の特徴を講義する。社会学で蓄積されてきた集団理論、家族形態論、逸脱行動論等を理解させる。これらを踏まえて、家族の変容、男女共同参画、自殺等の現代社会が直面する課題を考えさせる。</p>	
	文化・国際	<p>西洋思想の源流</p> <p>西洋思想の源流としては、ヘレニズムとヘブライズムがあげられる。本講義では、まず古代ギリシア哲学について、ソクラテス以前の哲学（ミレトス、ピュタゴラス、ヘラクレイトス、エレア、多元論者）からソクラテス、プラトン、アリストテレスまでを、その問題意識と思考の連続性に注目しつつ検討する。次に、キリスト教について、その世界観と人間観の枠組み及びキリスト教の基本的教義を考察する。その上で、キリスト教とギリシア哲学との対立と融合の関係を踏まえ、中世哲学の問題意識と思考を検討する。</p>	隔年
		<p>大分美術史概論</p> <p>大分は石仏などの石の造形、それらを含む仏教美術、雪舟、大友宗麟時代のキリスト教文化、江戸時代の南画、朝倉文夫、福田平八郎、高山辰雄らの近現代美術、また鍍絵や石橋、竹工芸、小鹿田焼など豊かな美術を生んだ土地である。その美術の歴史的な流れを、先史時代から現代にいたるまで概観する。私たちの身近にある、さまざまな素材・技法で作られた豊かな造形表現に目を向けることで美術に親しむきっかけを作るとともに、地域と造形表現の関係や、歴史を語るという行為の構造にも関心を持ってもらえることを目指す。</p>	隔年
		<p>器楽の楽しみ</p> <p>音楽は、用いられる素材、表現手段、表現形式、表現内容の点で、きわめて多様で豊かである。本講義では、西洋音楽を中心とした器楽（オーケストラ、鍵盤楽器）の名曲を実際の鑑賞を通して紐解き、芸術としての器楽作品への理解を深めるとともに、音楽を楽しむ豊かな心を養うことを狙いとする。</p>	共同
		<p>国文学作品研究</p> <p>国文学作品研究では、主に近現代の日本文学作品を取り上げ、講義を通して基礎的な文学研究の手法を身につけていくことを目指している。初学者を対象とするということや、取り上げる作家や作品は、学生にとって親しみやすいものを選択するように配慮している。作品本文の校異や、典拠、同時代評や研究史などの調査の仕方を、分かりやすく伝えるようにしている。</p>	隔年
		<p>古典文学講読</p> <p>長い年月を経ても色あせず、多くの読者を有している日本古典文学を読み解いていく。なかでも、中世小説ともいわれる御伽草子をしていねいに読むことによって、その時代のユーモアや思想、社会的背景も探っていく。古典文学のおもしろさを味わっていききたい。</p> <p>到達目標は次の三点である。</p> <p>①日本古典文学のリズムを修得し、すらすらと朗読ができるようにする。</p> <p>②講義で扱う作品の現代語訳ができるようになる。</p> <p>③古典文学解読に必要な基礎知識、語彙、文法事項を修得する。</p>	
		<p>水彩画の魅力</p> <p>水彩絵具による絵画表現は、淡彩による薄くあっさりとした表現から油彩のように重厚で緻密な表現まで、幅広く多様な表現が可能である。他の表現方法と比較して画材の取り扱いも容易であることから、観察スケッチやアイデアスケッチ、風景スケッチ等、水彩画はこれまで様々な分野で活用され、常に人間生活と密接に結びつき発展してきた。本授業では、水彩画における混色方法や制作プロセスについての理解を深めるとともに作品制作の楽しさを味わい、表現のバリエーションを広げることをねらいとする。</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	文化・国際 手作り絵本の楽しみ	絵本の制作に必要な、考察、作画、製本などの体験をとおして表現することの楽しさを学ぶ。また、制作した作品の相互鑑賞を繰り返し行うことで、視覚表現によるコミュニケーション方法について考え、理解する。 授業では、絵本の起源から現在までの変容についての解説や各国の絵本におけるさまざまな表現の説明をはじめ、簡単な素材を使い実際に絵本作りの体験まで行う。後半には、絵本の製本でよく見られる「合紙製本」で綴じられたハードカバーの絵本を手作りし、受講者で鑑賞する。	隔年
	西洋音楽史入門	西洋音楽の歴史を中世から現代にいたるまでたどる。ただし、単に代表的な作曲家や音楽の様式的特徴を概観的に見ていくのではなく、むしろ、トピックを絞りつつ、政治や文化などの時代背景を説明したうえで、その背景の中に音楽を位置づけていきたい。それにより、異なる地域、時代、文化に対する理解の方法の基本を学ばせるとともに、そうした理解のうえになりたつ芸術の深みのある享受の仕方的一端を示し、音楽史研究の意義を伝える、というのが、本講義の目的である。	隔年
	文化人類学	交通網、情報網、通信網がグローバルに拡張した現在、私たちは直接的・間接的に「異文化」に触れながら日々を暮らしている。しかし私たちはこうした「異文化」をどのような視線で眺めているのだろうか。 この講義では親子などのあらゆる社会に見いだされ得るトピックに注目した文化人類学的研究を採り上げつつ、人間の行動、思考、判断と「文化」との関係とを探る。それを通して、我々とは異なる文化に生きる人びとについての情報を適切に理解する方法を学ぶとともに、その営みに必要不可欠な自文化の相対化という「構え」を身につけることが授業のねらいである。	隔年
	イギリス近代史	イギリスは近世以降、拡大・発展し、世界の中で政治、経済、社会、文化、国際関係等の面において重要な役割を果たしてきた。イギリス王室や教会も長い歴史がある。このようなイギリスの歴史を学ぶことは、現代の世界や社会を理解する上で必要である。この講義では16世紀から19世紀までを中心にイギリス近代史の概説を行う。映像を用いて講義を行い、イギリス史の基本的な知識を得ること、異文化理解を深めることを目的とする。さらに参考文献を授業中に紹介するので、講義内容やそれ以外の分野についても関心のある文献を読んでもらう。	隔年
	前近代日本の国家と社会	現代社会と前近代社会とでは、国家のあり方や社会のしくみ、また人々の考え方などは異なっていた。本講義では、日本史上の転換点となった戦国時代を対象に、当該期に起こった諸事象を様々な観点から取り上げていく。戦国時代は、メディアで取り上げられることも多いが、その実像とは異なる後世に創られたイメージで語られることも多い。講義では、支配者側である戦国大名の視点、被支配者側である民衆の視点、立場の異なる双方の視点から戦国時代の国家と社会のしくみについて検討していく。	隔年
	医学史のプロムナード	本講義では、西洋医学史の大きな潮流を考察する。また、大分に注目しながら、日本に西洋医学がどのように広がったかについて検討する。以上の内容に基づき、西洋医学の歴史的展開の特徴を把握すること、さらに、日本の西洋医学受容がいかなる意味を持っていたかについて考えられるようになることを目指す。本講義の到達目標は、西洋医学史を世界史の動きの中で捉えられること、大分で展開した西洋医学受容の歴史に関わる知識を身につけること等である。	隔年
	中国史学緒論	本講義では、現代中国の姿をビデオ資料等によって深く認識した上で、歴史的要素を検討しつつ、日本の隣国である中国の現在と将来について考える。政治・経済の分野については、光と影の側面を明らかにする。社会については、伝統社会と現代の若者社会との比較を通して、中国人・中国社会の将来に対する展望を検討する。さらに文化について、日中関係を視野に入れながら、アニメーションやファッションの歴史を題材にしつつ、中国文化の特徴を考察する。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	文化・国際 東アジアの諸相	14世紀～20世紀初頭に、中国を統治した明・清両王朝の時代を講義する。明朝は、最後の漢民族王朝であり、その時代には漢民族の文化が大いに発展した。その後満州族のたてた清朝の時代には、ほぼ今日の中国の領域が形成されるとともに、独自の文化が生まれた。以上のことから、本講義では、具体的な人・もの・事件を提示しながら、明・清両王朝とその時代の特徴をとらえ、現代中国も視野に入れつつ、中国とは何かを考える。本講義の到達目標は、明清時代を中国史、東アジア史、さらには世界史の中に位置づけることができるようになること等である。	隔年
	国際関係入門	国際関係論は二度にわたる大戦への反省として、いかに戦争を防止するかということの問題意識として発展した。この講義では、国際関係理論の基礎から振り返って、現代国際関係の課題までを学習する。理論は、リアリズム、リベラリズム、マルクス主義、などの主要理論を学び、そのうえで、国際政治の仕組みと、現在の課題を検討する。課題としては、平和と軍縮、安全保障、国際連合、地域主義を取り上げる。	隔年
	英語ゼミナールA	狙いは、TOEICのスコアで600点程度の運用能力をつけることにある。昨年は映画を題材にして、リスニング、スピーキング、リーディング、字幕の訳の作成などを試みたが、例年、TOEICに特化した内容で授業をしており、その時には、本学学生が苦手とするリーディングのパートに焦点を合わせ、文法の復習、速読と文章理解などの練習を行っている。と同時に、手紙・履歴書の書き方や、文章の構成、記事・広告の構成など、語学を越えた知識も習得できるように心がけている。	
	英語ゼミナールB	デリケートな話題について自分の意見を論理的に述べるができる能力を培うことを目的とする。グループで議論し意見をまとめ、代表者が発表する、という活動を通して、自分の考えを明確にして人前で発表したり、お互いの意見を評価し合い、その中から結論を導き出したりすることができるようにする。ディスカッションの前提として背景となる関連記事を英語で読み、必要な語彙や表現を習得し、学期末には、一人ひとり社会の重要な問題についてプレゼンテーションを行うことでその成果を確認する。	
	英語ゼミナールC	本講義においては「イギリス文学と思想研究」を主題とし、18世紀から20世紀までの代表的イギリス文学作品の文学的テーマとイギリス社会、政治、思想の関係を分析する。18世紀イギリス文学においてはヨーロッパ啓蒙主義思想と国民意識の関係を中心に18世紀イギリス社会における文学の役割について検証する。19世紀イギリス文学においてはイギリスとヨーロッパ間の緊張関係と国民意識形成との関係、また宗教的影響力の変化と文学的テーマについて社会的歴史的に分析する。20世紀イギリス文学においては宗教的テーマへの回帰と戦争などの国家的危機との関係を検証する。	
	英語ゼミナールD	一年次からの学習内容をもとに、様々なジャンルの英文の精読や問題演習を継続していくことによって、英語力を一層向上させることを目的とする。英語を構造と意味の面から分析的に考察する力と、言語表現を文脈の中で適切に解釈できる言語感覚を養い、言語についての理解を深める。また、TOEICなどの各種検定試験問題に対応できる基本的な文法運用能力と英文読解力を養成する。	
	英語ゼミナールE ：英語運用力養成訓練 I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本気で英語の運用力をつけたい人のために開講します。</li> <li>・ねらいは、文章を読んで、型（発音、構文）を身に付け、口から出せるまで練習して、それを話す、書くという「運用力」へつなげる「手続き的知識」の養成です。毎回次の活動をおこないます。</li> </ul> (1)音読（個人指名）, (2)日英翻訳（小テスト）, (3)口頭要約, (4)会話	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 文化・国際	英語ゼミナールF ：英語運用力養成訓練Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本気で英語の運用力をつけたい人のために開講します。</li> <li>・ねらいは、文章を読んで、型（発音、構文）を身に付け、口から出せるまで練習して、それを話す、書くという「運用力」へつなげる「手続きの知識」の養成です。毎回の活動をおこないます。</li> </ul> (1)音読（個人指名）、(2)日英翻訳（小テスト）、(3)口頭要約、(4)会話	
	応用中国語Ⅰ	基礎中国語または教養中国語の修了者を対象に開講する。基礎中国語で学んだ力を基礎に語学力をブラッシュアップすること、同時に中国に対する理解を深めることを目標にする。中国語検定を受験してもヒアリングで落ちる学生が多いので、この授業では会話とともにヒアリングに力を入れる。中国留学希望者および中国語検定試験受験希望者も対象となる。『楽しい中国語コミュニケーション』を教科書とし、「読み、聞き」及び話す能力などに力を入れる授業である。	
	応用中国語Ⅱ	基礎中国語または教養中国語の修了者を対象に開講する。基礎中国語と応用中国語Ⅰで学んだ力を基礎に語学力をブラッシュアップすること。語学だけでなく、中国事情など適宜アップデートな問題も取り上げ、中国に幅広い理解を持たせたい。後期なので、中国語検定4級合格を最低目標にし、3級や準2級にも、さらに1級や通訳試験を目指して頑張ってもらいたい。『楽しい中国語コミュニケーション』を教科書とし、「書き、読み、聞き」及び話す能力などに力を入れる授業である。	
	応用ドイツ語Ⅰ	1年次に学習した内容をさらに発展・定着させていく。その際、文法・語彙を単に理解するのではなく、それらを用いて自己表現できる能力、つまり運用能力をつけることを目標とする。運用能力とは、究極的には「話す」能力であるが、話すためにはまず「書け」なければならない。そのために、多くの作文練習を行う。	
	応用ドイツ語Ⅱ	1年次と2年次前期に学習した内容をさらに発展・定着させていく。その際、文法・語彙を単に理解するのではなく、それらを用いて自己表現できる能力、つまり運用能力をつけることを目標とする。運用能力とは、究極的には「話す」能力であるが、話すためにはまず「書け」なければならない。そのために、多くの作文練習を行う。	
	応用フランス語Ⅰ	このクラスでは、一年次にフランス語を履修した学生を対象として、現在のフランス社会や文化を紹介したフランス語による教材を輪読しながら、さらにフランス語の総合的な運用能力（リーディング、ライティング、ヒアリング、スピーキング）をブラッシュアップすることを目指す。また近年、本校ではフランスの協定校への留学を希望する学生が増加していることを踏まえ、フランスで実際に生活していくうえで必要な情報やノウハウ等を出来るだけ具体的に伝えるよう心掛けている。	
	応用フランス語Ⅱ	このクラスでは、前期開講の応用フランス語Ⅰの授業内容とその理解を前提にして（ただしこの授業は選択科目ですので、後期のみでも受講可能です）、前期と同じくフランス社会や文化を紹介したフランス語による教材を輪読しながら、フランス語の総合的な運用能力（リーディング、ライティング、ヒアリング、スピーキング）をいっそう高めていくことを目指す。また基礎的なフランス語文法の理解度を確認するために、配布資料を用いたチェックを毎回行うように心掛けている。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 文化・国際	海外短期語学研修	<p>韓国／ドイツ／台湾／中国／イギリスの協定大学で行われる短期語学研修に参加し、語学と歴史、文化を集中的に学び、国際交流と国際理解を推進する。到達目標は、1. 語学の習得（各人の実力に合ったレベル別のクラスが提供され、会話に重点が置かれている。）2. 韓国／ドイツ／台湾／中国／イギリス事情の授業や、研修旅行・文化体験学習等を通じて、研修先の国について理解を深める。3. チューター等現地の学生との交流を行うことである。また、日本各地や各国の学生とともに学生寮で生活し、交流を深めることも目標の一つである。</p>	
	ソーシャルネットワークと大分からの発信Ⅰ	<p>このコースの大きな目的は、大分の都市部、別府における地域越し運動（花火ファンタジア、オンパク）がどのような形で実現しているのかを学び、その学んだ内容を、インターネット上で効果的にオンライン読者に伝達する方法を学ぶことである。使用するオンラインプラットフォームはブログとホームページ。またこのコースではソーシャルメディアプラットフォームの特性についても学ぶ。なお、このコースは留学生と本学日本人学部生がチームを作りディスカッションを通して国際理解を深めることも念頭において構成されているコースでもある。</p>	
	ソーシャルネットワークと大分からの発信Ⅱ	<p>このコースの大きな目的は、大分における中山間部、並びに山間部における環境保全運動がどのような形で進んでいるのかを、過疎化の問題と絡めて、学んだ内容を、インターネット上で効果的にオンライン読者に伝達する方法を学ぶことである。使用するオンラインプラットフォームはブログとホームページ。なお、このコースは留学生と本学日本人学部生がチームを作りディスカッションを通して国際理解を深めることも念頭において構成されているコースでもある。</p>	
	日本語学Ⅰ	<p>日本語の音声、語彙、文法、方言、位相などの各分野について、詳しく観察を進め基本的なしくみを理解することと、興味のある分野について自ら調査し、結果について分析及び考察ができる力を養い、日本語に対する知識と興味を深めることを目的とする。日本語超級レベルの留学生と、日本語を客観的に学びたい日本人学生を対象とした授業で、留学生と日本人学生が協働学習できるように授業を行う。</p>	
	表現技術（口頭発表）	<p>口頭発表の技術を磨き積極的な聞き方の基礎を築くことを第一の目標とする。そして日本人学生と留学生が現代社会の様々な問題について意見を述べ合い互いへの理解を深めることを第二の目標とする。</p> <p>まず全員がスピーチをし、ハンドアウトの作り方や発表方法等を学生同士で評価し学び合う。さらにグループに分かれ二つの課題をこなす。一つ目はパワーポイントを効果的に使ったプレゼンテーション、二つ目はパネルディスカッションあるいはディベートである。これらのグループ発表では授業時間外にグループで集まって発表の準備をするよう促す。また発表の後、発表内容に関する質疑応答に加え、発表を改善するための方法をクラス全員で考える。</p>	
	言語と社会	<p>現代日本社会における日本語の使用について知識を深めることを目的とする。待遇表現、配慮表現、文体・話体等に焦点をあて、実際の使用状況から使用された言語・表現、使用意図・目的、話し手・聞き手の意識等を探る。この目的遂行のため様々な参考文献を読み、ミニ調査を行い、結果を分析・考察できる能力を養う。実社会における日本語の使用に関心がある日本語超級レベルの留学生と日本人学生の協働学習を可能とする授業を行う。</p>	
	海外研修	<p>福祉健康科学についてのグローバルな視点と実践方法を身につけるため、海外研修を設ける。具体的には、大分大学の協定校があるスウェーデン、韓国を中心として、医療・福祉・心理の実践に関わるフィールドワークを3週間実施する。ただし、履修に際しては一定の語学能力が必要とされるため、「英語Ⅰ～Ⅳ」の評定が「A」以上であること、また事前の面接試験を合格したものが履修できるものとする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	社会・経済		
	現代国際政治と日本	現代の国際政治の理解を促すために、理論的枠組みと個別諸問題の背景とを関連付けて説明する。歴史的には、主権国家システムの形成やナショナリズムの問題を扱うが、今日的なテーマとしては、グローバリゼーション、安全保障、人権、地域統合などを取り上げる。この縦軸と横軸が織りなす、国際社会の諸問題を理解し、自分なりの分析枠組みを獲得するのが本授業の目的である。	隔年
	現代社会と法	本講義では、各回毎に身近な事例(トラブル・裁判)を取り上げる。①まず、前提となる法律や制度について解説する。②次に、当事者の主張を整理した後、③裁判所の判断(判決)を紹介する。④最後に、その妥当性を検討することにより、より良い解決を模索させる。『法律学』の一般的なイメージである「無機質な条文を暗記し、機械的に事件に適用する学問である」ということが、現実には妥当しないことを確認し、社会の中の「生きた」法に触れることが、本講義の目的である。	隔年
	税金入門	租税は、国民の経済活動や生活に密接に関連しており、様々な影響を与えている。各種租税は、法律や条例で定められており、今日において租税法は法学の一分野として成熟しているところである。「税金入門」においては、各種租税に関する基礎知識や制度の概要及びその時点で話題になっているニュース等について解説を行う予定であり、法律知識は特に必要とはしない。	隔年
	日本国憲法	実際に起きた事件や裁判例を踏まえながら、日本国憲法が保障する人権とその保障のシステムについての理解を深めていく。そのことを通じて、民主的な決定に相反する価値観をもつ個人の権利主張を日本国憲法がどこまで認めているかを学ぶ。主に人権の私人間適用問題、法律上の別異取り扱いと法の下での平等、信教の自由と政教分離、表現の自由と社会的に問題がある表現の規制、営業の自由と規制緩和、生存権と生活保護制度の見直し、死刑制度、情報化社会とプライバシー保護、グローバル化と外国人の人権保障、平和主義と安全保障政策の変容、憲法改正論などを講義する。	
	日本のマネジメント	日本のマネジメントの基本的な知識とその実際について、海外からの視点を加え、グローバルな考え方を含めた理解をすることを目的とする。日本企業で行われているマネジメントについて、その特徴や概要を日本語と英語双方で理解し、簡単な説明をすることができる。主な内容は、カイゼンとTQM、HR(人材)マネジメント、生産マネジメント、ナレッジマネジメント、日本市場への参入、企業文化、マーケティングなどである。	隔年
	会社組織のしくみ	現代社会における会社組織のしくみについて理解をすることが本講義のねらいです。人々の毎日の生活に大きな影響を与える会社・企業というものを、組織の側面から捉えることで、会社の考え方や活動についてさらに深く知ることができます。具体的には、組織の構造やそのデザイン、組織を構成する人々のとらえ方、組織を構成する人々を導くリーダーのあり方、組織の価値観の形成などについて、これまでの研究成果や会社の事例などから学びます。	隔年
	会社法入門	本講義では、会社法の基礎について解説する。企業活動に関する法領域のうち、会社法を学習することによって、会社とは何なのか、なぜ会社が作られるのかを理解する。多くの学生は、大学卒業後、企業や地方公共団体等に就職し組織に属することになる。典型的な組織である会社を規制する会社法を理解することにより、会社の内部構成や、会社に関わる者の利害調整の手法を、他の組織に準用して理解できるようになる。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	社会・経済 革新的企業経営	イノベーションとはなにか、イノベーションを生み出す方法および原理に付いて、具体的な企業事例を示しながら、各企業の土台となるビジネスモデルの違い、イノベーションにつながる製品開発やサービス開発の方法の特徴を分析的視点で考察していく。特に近年、実業界で重視されているオープンサービスイノベーションとはどのようなものであるか、モノとサービスの集合体としての新しい価値創出の方法や原理を基本的なところから理解してもらう事を狙いとしている。	隔年
	企業の価格戦略と消費者の行動	通常価格が上がると需要が低下する。売上も同時に低下するかもしれない。しかし、企業の売上は実は上がる可能性がある。経済学的には需要の価格弾力性という言葉で説明可能だ。それについてモノやサービスの値段はどう決まるのか？コーヒーショップや携帯電話の複雑な料金体系、DVDの値段が最初は高くて時間がたつと低くなる理由、ガンダムのプラモデルの値段の意味など企業の価格決定と消費者にとってトクなのかソンなのか？具体的にはコーヒーショップや携帯電話料金、DVDの価格がなぜ下がるのか？などの例をもとにして価格決定構造を理解してもらう。	隔年
	企業ファイナンス入門	今日、日本やアメリカをはじめとする先進諸国の経済は、グローバル化を続けている。その中で、わが国の企業は、どのような行動、特に財務戦略を執ろうとしているのであろうか。本講義では、この企業の財務行動を中心に企業の活動を講義する。この中では、必要な会計知識や統計学も講義する。講義に際しては、簿記・会計学や統計学の知識がない学生にも十分理解できるようにする。	隔年
	金融とわたしたちの生活	なぜ1万円札でモノやサービスを買うことができるのだろうか。銀行はどのようにして預金者に利息を支払っているのだろうか。将来もらえる年金が減ったら、老後の資金はどうしたらいいだろうか。日本銀行は何をしている銀行なのだろうか。金融は経済の中でもそれほどなじみのある分野ではないが、実は非常に身近なものであり、金融のしくみがわからないと経済全体の動きを理解することができない。この授業ではこうした疑問に答えられるよう、金融の基礎知識を学び、わたしたちの生活と金融の関係について考察する。	隔年
	グローバル経済入門	グローバル化の進展とともに、日本経済は世界各地との結びつきを強めている。この現実を理解するため、本講義ではいくつもの角度から「グローバル経済を見る眼」を養う。まずは、グローバル経済を理解するための基礎知識を習得し、その後、コーヒーやTシャツ、石油の世界的な取引、為替レートの変動が日本経済に与える影響など、様々な具体例を通じて日々の暮らしと世界経済とのつながりを学ぶ。最終的には、世界経済に関するニュースの意味を理解し、その事実の背景をも見通せるような見識を身につけることを目的とする。	隔年
	経営学の基礎	企業を中心とする組織を研究対象とする経営学の基礎的な知識を習得し、さまざまな組織を見る視点を養っていく。まず、現代社会において企業がなぜ重要な存在になっているのかを説明する。そのうえで、企業概念について経済学的な観点と法律的な観点から説明し、組織図を読み取るために必要な知識を講義する。また、人的資源管理に関わる基本的な概念も説明する。さらに、企業を含む組織の方向性を定める経営戦略についての基本的な理論も説明する。そして、グローバル展開をしている企業が多いことをふまえ、国際経営論の基礎も講義する。	隔年
	経済学で物事をみる	大学生に身近な幾つかのトピックスについて経済学の視点から説明を試みることで、基礎的な経済学の知識を学ぶ。取り扱うトピックスは、恋愛、アルバイトの仕事時間、大学祭での模擬店、ネットオークション、学割などである。また、経済学の基礎的な知識として、トレードオフ、パレート効率性、無差別曲線、所得効果、代替効果、ファーストプライスオークション、需要曲線、供給曲線、市場均衡、機会費用、限界費用、価格差別、比較優位などを教える。	隔年



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	社会・経済 経済学を学ぶ	本講義では、経済学の知識を持たない学生が、(1)経済学の基本的な概念、(2)現実の経済問題について各々の経済主体への影響、(3)需要曲線・供給曲線を用いた経済分析、および、(4)経済問題を評価する際に複数の観点からの効果を説明できるようなることを目標とし、個々の財・サービスの市場や家計・企業の行動などの分析対象を限定した状況と、経済全体の動きに注目した状況を検討する。具体的には、市場の存在意義と市場の失敗・限界や国全体の経済規模・所得の大きさを決める要因について、短期・長期の視点や需要・供給の視点から検討する。	隔年
	経済統計を読む	本講義の目的は、わが国における経済統計の主な分野について、いかなる種類の統計や指標があるかを学び、それらをもとに社会認識を深めることである。具体的には、国民経済計算（GDPなど）、個人消費（家計調査など）や投資（住宅、設備、民間在庫）に関する主な統計、貿易・国際収支、物価指数（消費者、企業）、雇用指標（労働力、有効求人倍率など）をとりあげ、それらの特徴や問題点を学ぶ。それとともに、それらの最新データにもとづき、わが国の社会経済の現状をできるかぎり幅広く理解させる。	隔年
	経済と倫理	この授業は、経済と倫理に関する諸問題の解決策について考える。まず講義では、倫理と密接につながっている経済的テーマを取り上げ、多様な素材の中から具体的問題を提示する。受講者は、その問題に対する解答を作成し、授業内で発表する。次に、講義ではその問題に対して経済学者や倫理学者ならばどのように考えるかを紹介する。最後に受講者は、授業前と授業後で自分の考え方がどのように変化したかについてレポートを作成する。この作業を繰り返すことで、経済問題に対して倫理的にどうすべきなのかを考えていく。	隔年
	資本市場論	本講義の目的は、様々な経済主体の資金調達と資金運用の場になっている資本市場の仕組みを学習することによって、国民経済における資本市場の役割と存在意義を理解することにある。具体的には、まず、株式市場、債券市場、投資信託に関する基礎知識を習得し、これらが国民経済においてどのような役割を果たしているのかを学んでいく。つぎには、これらを取り巻く資本市場の様々な問題を取り上げ、国民経済と資本市場がどのような関係をもっているのかを学習する。こうすることによって、資本市場の全体像を把握することを目指す。	隔年
	消費者と企業	この講義の目的は、消費者の行動と企業の様々な組織活動を分析することである。また、企業の諸活動が消費者に与える影響や相互作用も検討する。具体的には、企業が提供する商品・サービス、プロモーション、流通システムについてマーケティングの観点から説明する。さらに、消費者の商品購入活動や消費者の満足度については、心理学的なアプローチも取り入れて検討する。講義においては、理論の説明だけではなく、人気のある商品・サービス、ブランド、SNS等について事例研究を行い、その要因を説明する。	隔年
	食と農の地理学	私たちの食生活、世界の食料問題、日本の農業・農村問題。これらは全てが結びつき、さまざまな地域の社会や経済と深く関わりながら、人々の暮らしに大きなインパクトを与えている。本授業は、こうした問題を地理学的・経済学的視点から考察し、問題の構図を俯瞰できるようになることを目指している。まず、グローバル化に伴う食文化や食料消費の変容を説明したうえで、東アジア、ヨーロッパ、新大陸諸国の農業を俯瞰しそれらがもたらしている食料貿易を説明する。それを踏まえ、現在の日本の農業・農村問題を大局的に説明する。	隔年
	日本経済入門	この講義では、日本経済の現状と課題について考えていく。講義では、景気・物価・雇用・金融・財政・社会保障・人口など、日本経済を知るうえで重要となる指標やテーマについて、最新のデータを用いながら解説する。その上で、デフレ・非正規労働者・財政赤字・年金問題・少子高齢化など、日本経済が抱えている様々な課題について解説し、それらに対する解決策を検討する。また、戦後の日本経済の歴史を振り返り、どのような経緯をたどりながら現在に至ったのかについて解説する。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	社会・経済 日本の財政	日本の財政状況及び財政制度は大きく変わりつつあり、また、解決しなければならないさまざまな課題に直面している。そこで本講義では、日本の財政の特徴を理解し、財政の持続可能性などの課題について検証していくことを目的とする。そのためにまず、日本経済の現状について解説し、日本経済における財政の役割について検討する。その上で、予算や租税などの財政制度及びこれまでの財政運営の推移について解説を行い、その仕組みや特徴について理解を深め、直面するさまざまな課題への解決策を考察する。	隔年
	人間・労働と技術の現代史	技術と人間の問題を、人間の生活に機械が入り込んできた歴史過程に沿って考察してゆく。20世紀はアメリカ的生活様式でもいいうべき生活のひとつの型が確立した。これは、まず家事労働が、次に日常の隅々まで人間のすることが商品としての機械に置き換えられていく、特殊な生活の型であった。そのような生活の型を支えていたのは何であったのか、なぜアメリカで登場したのか。これには、需要と生産技術の両側面から考えてゆくことができるが、本講義では、主として後者に重点を置き、機械を対象とする大量生産技術の発展に着目し、その歴史を講じてゆくものである。	隔年
	経済発展と貧困削減	A. バナジーと E. デュフロ の『貧乏人の経済学』 みすず書房 2011年 を読む。この教科書は実証開発ミクロ経済学の第一人者が独特の親しみやすい語り口で最新の知見を紹介するもの。トピックは栄養、健康、教育、出産選択と人口、リスクシェアリング、マイクロファイナンス、マイクロビジネス、民主主義と経済発展、など。貧困が存在する原因や貧困削減の政策手段、それらに対する分析のアプローチについて学ぶ。	隔年
自然・科学	化学史	現在、「化学」に対する社会的な期待は、いかにしてエネルギーや資源を確保するか、公害の無い生産手段をどうするかなど、益々高まっており、これらの社会的諸問題が今正に解決を迫られている。「化学」こそ、物質探求の純粋科学としての一面と共に、社会的役割の重要性が認識されねばならない。したがって、まず初めに現代に至るまでの物質観の変遷の歴史について、大学人の一般教養として認識しておくことはきわめて重要であると考え。続いて現代化学における物質観について、物質の構成単位である「原子」の構造を正しく理解する。	
	確率と統計入門	社会の様々な問題の解決方法を考えるにあたり、確率や統計学に基づく思考力が要求される場面が近年増えてきている。すなわち、データを適切に収集・分析・解釈する能力である。本講義ではこのような思考力を養うための基本的事項を、なるべく具体例も取り入れながら概説する。高校数学レベルの確率の復習から入り、確率の応用、データの要約、正規分布や二項分布などの基本的な確率分布、統計的推測や仮説検定の考え方について理解することを目標とする。	
	環境と感染症	気候変動やその多様性、あるいは生活環境の変化は、感染症の伝播や食物生産に関与し、それを通して間接的に人間の健康に影響を与えている。新しい感染症として、2009年新型インフルエンザ、また鳥インフルエンザのヒトへの流行の脅威、デング熱の日本での発生などがあり、我々の身近な問題になっている。本講義では世界保健機構（WHO）がまとめている論文および本邦の感染症のデータ解析に関する論文を原文（英文）で読み、感染症への理解を深めることを目標とする。具体例として日本で観測されている感染症データについて、性年齢、地域および時間的な観点から考察する。また簡単な感染症の数理的モデルについても考える。	
	環境と生物	生物多様性の危機という地球（グローバル）な環境問題を地域（ローカル）な視点、生き物の視点、経済の視点など総合的、俯瞰的な視点で捉える力を身につけてもらうことをねらいとする。講義では、生態系、生物間相互作用、生態系サービス、生物多様性の理論とその現状を説明し、それらをもとに自分と環境のつながり、環境と生き物のつながりを認識してもらう。さらにその認識から、それらを保全するためには、また、持続的に利用するためには今どのようなことをすればいいのかを考える。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	自然・科学	幾何学	図形を通して空間認識の資質を養う。日常生活における数学的な自然現象を見出し、それを解明しようとする意欲を持たせる。タイム張り、折れ線、距離、色つき図形、一筆書き等日常生活に密着した題材を使い、数学では難しいとされる「できないことの証明(不可能性の証明)」を紹介する。	隔年
		ゲーム理論と社会	個人の意思決定、合理的選択について理解し、その上で組織としての意思決定、社会の制度や慣習などの構築をゲーム理論という手段を用いて見つめ直す。とりわけ、進化ゲーム理論、進化生物学を社会学、経済・社会システムへ適用することによって制度の成立を理論的、数値解析分析を活用して中心に講義する。本講義においては、確率微分方程式の知識はないことを前提にするため、初歩的な数値例と図表によって分析を進める。	隔年
		原子と分子	物質科学の基礎としての化学を、原子・分子という微視的観点から学ぶことによって物質の成り立ちについて理解することを目的とし、基本原理の理解に重点を置く。具体的には、原子構造の基本すなわち原子内に存在する電子の状態を理解し、それらがどのようにしてイオン結合、金属結合、共有結合などをつくるかがわかるようになること。そしてその知識に基づいて、イオン結晶、金属結晶、共有結合結晶等の物質の構造と性質を理解する。	共同
		現代天文学と生命	宇宙を舞台に、天体と生命としての人間の関係を理解するために、現代天文学を生命や地球外知的文明の探査を切り口として講義する。宇宙に存在する天体の階層構造とそのスケール、そしてその多様性についての理解を深めてもらうための本格的な天文学への導入部としたい。内容的には文系の学生でも理解できるレベルでの扱いとなる。似非科学ではない科学的な生命探査を手がかりに、その観点を広げてゆきたい。	
		栽培学習論	人間が生きていく上で必要なものを、作物を育てることを通じて効率よく生産することを学ぶ。また、栽培の目的と管理技術を理解し、より効率的な育成計画とその実施に向けた考えを身に付け、栽培技術を適切に評価し判断する能力と態度を養い、安全性や経済性、環境への配慮などの評価の視点を身に付ける。具体的には、講義において栽培の目的と管理技術を理解し、効率的な育成計画を作成し、実習を通して実施する。また、学校教育における栽培学習の意義と内容の取扱いを理解し、具体的な指導法を身につける。	共同
		進化と多様性の生物学	地球上には多種多様な生物が存在している。これらは進化の長い歴史の中で生じてきたものであるが、私たちはどうやってそれを知ることができるのだろうか。本講義では、生物多様性を認識する方法や進化のしくみについて解説する。	
		数学と文化	この講義は、主として西洋文明において数学がどのような役割を果たしてきたのかを再考することをねらいとしている。また、そのことを通じて、現実世界における数学の位置付けや役割についても考察する。数学は科学技術の振興に役割があると考えられがちであるが、それだけでなく、思想の方向、内容を変え、宗教や政治を再建し、経済、建築、文学の様式をつくってきたことを、歴史を見直すことで理解するとともに、人や宇宙の本質に関する根本的な問題について数学ならではの答えを探究する。	隔年
		数学入門	数学を通して思考方法の多様化と問題解決能力の育成をはかることが、この講義の目的である。異なった視点から物事を考察することにより、物事の本質が見えてくる。数学の素材を用いて柔軟な思考力を育成し、創造性豊かな発想力を開拓することを目標に、次の3点を重視して講義を進める。 (1) 数学に対する苦手意識や嫌悪感をなくす。 (2) 問題解決場面における数学的方法についての理解を深める。 (3) 数学的な見方・考え方の有用性を実感する。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	自然・科学 生活の化学	教養課程においては、現代の多彩な専門的で最先端の化学の分野を体系的で詳細に講義を進めていくことは、一般に困難である。そこで、新教育課程における高等学校の化学履修者のみならず、はじめて化学を学ぶ学生や、化学の基礎知識の少ない学生にも十分理解のできる内容を精選することが必要となる。本講義では物質の本質を化学的立場から無理なく理解することを目的とし計算や数式を極力省き、週ごとに学ぶテーマを設定し、生活に関係した現象を化学的に履修する。	隔年
	生命観の変遷	古代ギリシャ時代から現代に至るまでの生物学の変遷を単なる知識として修得するだけでなく、クリティカルな視点から捉え、現代の臓器移植についても多様な考察ができるよう、各時代の社会的背景も扱う。古代ギリシャ、ローマの科学がヨーロッパの暗黒時代を経てルネサンスとして復興し、科学として成立する過程のトピックを扱うが、中東の科学の取り上げられ方から、科学と社会との関連を考察する。全ての授業後に学修支援システムへの課題提出により知識の定着と考察の訓練をはかる授業である。	
	地生態学	近年、「山ガール」や中高年の登山ブームに伴って、山への関心が高まっている。その一方で、登山者過多による山の環境負荷が増大しており、自然景観や自然環境の保護・保全について問われ始めた。本講義では、特に世界および日本の山に焦点をあて、山の自然景観を構成している地因子（地形・土壌・地質・水・気候・植物など）の自然地理学的な相互関係および生物と自然、あるいは生物間の生態学的関係について理解し、自然景観や自然環境の保護・保全について考えていく。	隔年
	抽象化と代数学	因数分解、式の計算、二次方程式や高次方程式などの高校までの代数から、抽象化された演算や構造を調べることを目的とする大学での代数学への橋渡しを目指す。最初にあみだくじを題材にし、作りたいあみだくじを作るため、置換を使ってあみだくじを数学的に考える。次に整数の合同を定義し、これを利用して加法を持つ集合を作る。最後にあみだくじの合成、置換の積、整数から得られる集合の加法などから演算の概念を導入し、群の考え方と例を示す。	隔年
	微分法と数学	1変数関数の微分法について学びます。数学を勉強する場合の基礎の基礎である1変数の微分の計算能力を育成することを目指します。具体的には次のことを目標とします。数列と数列の極限の意味を理解し、その計算ができる。様々な関数の性質・法則を理解し、そのグラフを描くことができる。関数の連続性の意味を理解するとともに、関数の連続、不連続の判定ができる。微分法の意味を理解し、具体的な関数の微分が計算できる。微分法を用いて関数の変化の状態を調べることができる。	隔年
	物質の状態と変化	原子・分子の集合体としての物質という観点から、物質の状態と変化の背後にある原理について学ぶ。具体的には相図、状態方程式、固体と液体、溶液の性質、エントロピー、エンタルピー、ギブズ自由エネルギー、化学平衡、酸塩基、酸化還元、反応速度についての講義となり、状態図から物質の状態と相変化を読み取ることができ、熱力学第1、第2、第3法則を理解し、法則に基づいて、関連する自然現象を説明できるようになり、化学反応を支配する因子を理解し、反応機構が説明できるようになることを目指す。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 自然・科学	物理学への招待	<p>この講義では、物理学への興味を高めるために、力学の歴史、光の性質、リズム（振動）現象に関する話題を提供する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（159 近藤 隆司／5回） 力学の法則がどのような実験と考察から導かれたのか、アルキメデス、ケプラー、ガリレオ、ニュートンの業績を追いながら歴史的由来を学ぶ。</p> <p>（72 長屋 智之／5回） 光のスペクトル、波動性、偏光、複屈折などの基本事項を学び、光に関する自然現象、構造色、液晶表示器の仕組みを理解する。</p> <p>（57 末谷 大道／5回） 自然界の様々なスケールで現れるリズム現象に着目し、その普遍的特徴をどのように理解できるか数理モデルを用いて考察する。</p>	隔年 オムニバス方式
	身近な化学	<p>私たちの身の回りには多くの化学物質が存在し、これらなくして人間生活は成り立たない。そこで、講義内でいくつかの身近な科学の実験を通して物質や自然現象についての理解を深める。内容として、試薬や実験における安全性、固体・液体・気体の特性に基づいた身の回りの物質の科学的現象について講義を行う。また、実験・理論を通して、小学校や中学校でも実践可能な実験能力を身につけることができるようになる。</p>	隔年
	身近な物理学	<p>この講義では、難解と考えられている物理学がいかに関身近な現象を明快に説明できるかという点を話題として、演示実験を交えながらこれらの現象の基礎になっている物理法則へと展開する。例えば「空はなぜ青いのか」、「マジックミラーの原理は」などから光の本質へと話しを進めていく。物理に対する難しい、計算がめんどろといった固定観念を払拭し、物理が日常生活にどのように結びついているかについて知ることことを目的とする。テーマに関する自分の考えについてグループディスカッションを行い、必要に応じて発表をする。</p>	隔年
	生命科学と社会	<p>科学が進歩する中で、特に生命科学は著しく進展している。それに伴って一般社会も変化するが、人々の認識や対応は遅れがちで、認識も十分ではなく、軋轢が生じる場合も起きている。最新の生命科学の進展について理解を深め、その目的や社会への影響について認識することを目的としている。</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 自然・科学	エネルギー科学	<p>電気エネルギーに関して近い将来実用化が期待されている新技術について取り上げ、さらに将来のエネルギー利用に関する技術はどこへ向かおうとしているのか等の諸問題についても考える。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(76 濱本 誠／5回)            プラズマとその応用：雷（スプライト）、オーロラ、流れ星、太陽のような、自然界に様々な形で存在するプラズマを取り上げ、それらに共通する性質としてのプラズマ状態の特徴について学ぶ。次に、人工的にプラズマを生成する際の注意点や、プラズマを利用したエネルギー源開発と言える制御熱核融合反応の原理と課題、現在の核分裂を利用した原子力発電との違い等について学ぶ。更に、高温のプラズマをどのように計測するか、プラズマの様々な応用分野とその未来について紹介する。</p> <p>(119 後藤 雄次／5回)            原子力発電：核エネルギー、原子力発電所とその構造、安全管理、新しい原子力発電            我が国における原子力発電所の開発の歴史や電力エネルギー問題の歴史を踏まえる。また現在、我が国に設置・建造されている原子力発電所の発電原理や構造についての説明を行う。さらに、現在実施されている原子力発電プラントの検査方法や構造的な問題点を取り上げる。また、東日本大震災における原子力発電所の事故の経緯を説明するとともに、今後、原子力発電における解決しなくてはならない問題点や課題を列挙するとともに、これらの取り組みについての紹介を行う。</p> <p>(118 高坂 拓司／5回)            太陽光、風力、バイオマス等の自然エネルギーにより発電された電力は、グリーンエネルギーと呼ばれる。、地球温暖化に加え、東日本大震災後その重要性はますます増している。本講義では、エネルギーの歴史について学んだ後、いくつかのグリーンエネルギーを紹介する。</p>	オムニバス方式
	エレクトロニクスの世界 I	<p>エレクトロニクスの基礎から応用にわたる3つの分野を取り上げ、最近の話題を交えて解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(84 益子 洋治／5回)            LSI(半導体集積回路)の製造技術、構造、機能そして応用までを、現在取り組まれている最先端技術を含めて解説する。また、シリコンウェーハやLSIチップなどを回覧する。</p> <p>(52 古賀 正文／5回)            光ファイバの発明によって可能になった“光”による大容量通信技術を解説し、それが可能にしているインターネットの“光と影”について考える。また、光ファイバ・半導体レーザー・フォトダイオードの回覧、可視光によるファイバ伝送実験、He-Neレーザーを使った干渉実験などを実施する。</p> <p>(114 工藤 孝人／5回)            電磁波の歴史を振り返るとともに、電磁波を利用したいくつかの科学技術について、その基本概念や原理について解説する。また、マイクロ波の偏波に関する簡単な実験を行う。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 自然・科学	エレクトロニクスの世界Ⅱ	<p>エレクトロニクスの基礎から応用まで、最近のトピックスを交えた講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(73 鍋島 隆／5回) 「情報」、「シミュレーション」という言葉を工学的な立場から考え、一般的な事例をあげて定量的に評価する方法を、難しい数式などをできるだけ使わずに概説する。</p> <p>(124 佐藤 輝被／5回) 近年の情報化社会に不可欠な電子計算機に関する基礎知識とその基本となるデジタル回路について理解を深める。</p> <p>(117 厨川 明／5回) エレクトロニクスの基礎である電気磁気に関する法則の体系(電磁気学)を、簡単なデモンストレーションを交えて概説する。</p>	オムニバス方式
	暮らしの化学	<p>身の回りで利用されている化学物質・材料および化学製品について理解するとともに、その性質および役割について学ぶ。また、暮らしに密接する重要な危害物質として、放射性物質をとりあげ、その人体に及ぼす影響と安全利用について理解を深めるとともに、将来のエネルギー構想について概観する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(40 氏家 誠司／8回) 界面活性剤、プラスチック、ゴム、繊維、染料、セラミック、生体材料、光学材料などと、それらが関係する化学製品についての理解を深める。また、化学物質と環境問題について考える。</p> <p>(46 甲斐 徳久／7回) 放射線の発見の歴史、放射線とは？放射線の種類、放射線の発生と検出、被爆、人体への影響、利用と安全管理、原子力発電について学ぶ。</p> <p>以上により、日々の暮らしの中にかに「化学」が関係しているかを理解する。</p>	オムニバス方式
	クルマと社会の関わり	<p>現代社会に暮らす我々の身の回りでは、様々な機械が活躍し、自動車や携帯電話など、生活する上で必要不可欠なものも少なくない。この講義では、身近な自動車を主な題材として、自動車と社会との関わりや自動車を構成する技術の原理・仕組みについて授業を展開する。諸外国を含めた自動車の歴史的背景についても触れる。自動車を取り巻く社会的背景と共に、これまでに学生諸君が学んできた基礎的な数学や物理等が機械を構成する技術と密接にかかわっていることを学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 自然・科学	建築構造工学	<p>建築物はその使用性や安全性に関して目標性能を確保できるよう、耐用年限中に建物に作用する各種の荷重や建物の環境条件を考慮して設計・施工されなければならない。例えば、世界有数の地震国である我が国では、地震に対して建物が安全であるように設計することが重要である。また、21世紀は地球環境問題に対応して、建設資源の有効活用やリサイクル、既存建築物の改修による持続使用、耐久性に富む建築物の建設などが求められている。本授業では、このような建築構造設計や材料・施工の基礎から最新技術まで学習する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(38 井上 正文／3回) 地球環境と木材利用について理解し、木造建築物の事例を学ぶ。</p> <p>(54 佐藤 嘉昭／3回) コンクリート構造物の耐久性、耐久性診断技術、補修・補強技術の現状、建設廃材のリサイクルについて理解する。</p> <p>(47 菊池 健児／4回) 建築構造設計の流れ、建築形態と構造、建築物の地震被害とその教訓、身近な構造物の耐震性と防災対策について理解する。</p> <p>(106 大谷 俊浩／4回) 主要な建築材料の力学特性と耐久性、機能性材料について理解する。</p> <p>(170 田中 圭／1回) 住宅の建設から解体について理解する。</p>	オムニバス方式
	食品材料概説	<p>私たちは食品から栄養素を摂取している。生きるために食べる。よい食事をするためには、食品に含まれる栄養素の組成を知らなければならない。一方、おいしい食べ物を食べることは人生の楽しみの一つである。食べ物のおいしさは食べる人の主観・体調・価値観や調理加工によって大きく変化する。いろいろな食品について、どのような特徴をもっているか、おいしく食べるためにはどのようなことに気をつけたらよいかといった観点を中心にして講述する。</p>	隔年
	植物細胞工学	<p>高等植物のバイオテクノロジーに関連する基礎的研究を解説する。植物バイオテクノロジーには、組織培養、人工種子の作成、半数体・倍数体植物の育成、プロトプラストの単離・培養、細胞融合、遺伝子導入など様々なテクニックが実用化されてきたが、それらの生物学的成果と応用例（農学的・薬学的成果）を解説し、それらの将来性や問題点を考えていく。その他、動物のバイオテクノロジーの分野で話題となった事例についても簡単に解説する。</p>	隔年



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 自然・科学	情報科学の世界	<p>我々の周りにはさまざまな情報が渦巻いている。これらの情報は、数値や文字であったり、音声や画像で表現されたりとその形態が一律ではない。また、その内容も広範囲で多岐に渡っている。情報科学は情報を取り扱うときの基礎となる理論の体系であり、20世紀後半に生まれた新しい科学である。この講義では、我々の身近にある情報を取り上げ、その特徴ならびに使い方にかかわる基礎的な考え方を紹介する。さらに、コンピュータによる情報処理についても言及する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(164 原 恭彦/2回) データのばらつきを科学するというテーマで、確率と確率分布、期待値と分散、偏差値などについて、身近な例を取り上げながら講義する。</p> <p>(45 越智 義道/2回) ばらつきを持って生じるデータの中から、意思決定に必要な情報を取り出すために、どのようなことを考えなければならないのかを考察する。</p> <p>(105 大竹 哲史/2回) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの構成やその設計方法、信頼できるコンピュータシステムを作るための技術を紹介する。</p> <p>(168 賀川 経夫/2回) 知能ロボットや仮想現実感・拡張現実感技術の応用事例を挙げながら、人間とコンピュータとの間のインタラクションについて説明する。</p> <p>(81 古家 賢一/2回) 計算機の中で音はどう表現されているかを取り上げ、音メディア処理について紹介する。</p> <p>(70 中島 誠/2回) インターネットの歴史と基本技術を概観し、WWW上から必要な情報を取得するのに有用かつ信頼性の高いサービスとその特性について紹介する。</p> <p>(169 佐藤 慶三/1回) テキスト検索から始まる、現在に至るまでの種々の情報検索技術について具体例を交えて紹介する。</p> <p>(157 行天 啓二/2回) コンピュータ上における画像データの表現と処理、および、画像データから取得された特徴からパターン認識を実現する原理を紹介する。</p>	オムニバス方式
	初等教育のためのものづくり	<p>本講義では、小学校の各教科において、実践的・体験的な学習活動として展開されているものづくり活動を円滑に実践するための基礎的な知識・技能・技術を習得し、ものづくり教育の理論と方法について学ぶ。また、構想・設計・製作・評価という一連の活動プロセスや、ものづくり活動の題材開発等の実習を通して、児童に技術リテラシーを育むものづくり教育の内容について考察する。現地演習として、大分県内で開催されているものづくり教室等に指導者として参加し、実際に子どもたちを対象にものづくり活動を行い、実践的指導力を身に付ける。</p>	共同
	数理の世界	<p>複素数の登場は、数学の発展の歴史において転換点と呼べるもののひとつである。複素数が広く認識され利用されるようになったことは、数学自身はもとより科学技術全般の発展に多大な影響を及ぼしている。この講義では、複素数の性質を深く鑑賞することにより、先人がなぜそのような数の拡張に思い至ったに思いをはせる。代数学・幾何学・解析学における個々の問題には、複素数の世界にまで拡張して考えることにより、その普遍的な意義を理解できるものが多い。そのような事例に触れることを通して数学の醍醐味を実感してもらう。</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	福祉・地域 地域における仕事と社会	現在構築されている雇用社会の仕組みを理解し、社会問題となっている非正規雇用や低賃金・長時間労働問題の解決策について考えていく。まず、産業発展がもたらしてきた雇用社会の形成をふまえ、雇用社会の枠組みを規定している雇用政策、人事管理、労働組合の役割について検討する。その上で、雇用社会における仕事の内容や分業がいかなる方向へ進んでいるのか、主要業種を例にとり解説を行う。背景にある技術革新の影響や生活スタイルの変化、あるいは地域経済衰退の影響についても、それぞれ考察を行い、仕事について多角的な理解を涵養し、課題の解決を展望する。	隔年
	子育て支援の地理学	近年、「ワーク・ライフ・バランス」の実現が社会的な課題とされている。この講義では、主に地理学的な視点から「ワーク・ライフ・バランス」の実現について考える。たとえば、通勤や送迎・通所のための移動時間や移動距離は、都市空間構造によって規定される。また、保育所などの子育て支援サービスの供給は自治体や地域によって差があり、その要因も多様である。保育ニーズやサービス供給の地域差を知り、そのような地域差が生じた背景、子育て世帯の対応について学ぶことで、身近な社会問題を冷静かつ多面的に理解し考える視角の修得をめざす。	隔年
	地域の住まい論	超少子高齢化、人口・世帯の減少がすすむなかで、持続可能な住まい・まちづくりやコミュニティの再生が大きな課題になっている。本講義では、現在・これからの住まい・まちづくりの地域課題について検討するとともに、歴史や文化、自然環境、ひと、社会資本、産業といった様々な地域資源を活かした住まい・まちづくりのあり方について探る。県内外の実践事例などもとりあげる。教員の作成した資料を用いた講義形式に加えて、グループワークやディスカッションを行う。	隔年 講義 16 時間 演習 14 時間
	自然災害と防災の科学	日本は、古くより様々な自然災害を経験してきた世界有数の「災害大国」である。つまり、我々は日本にいる限り、この先も自然災害と共に生きていかなければならない。本講義の前半では、自然災害の発生メカニズムや過去の被害、さらには防災技術やこれからの防災対策について理解を深めていく。また、種々の学問分野と自然災害との関連性について学び、多角的視点で自然災害を捉えていく。後半は、防災ゲーム・ツールといったソフト面での防災対策をテーマに、実際にグループ単位で実践しながらその活用方法について学んでいく。  (オムニバス方式/全15回)  (158 小山 拓志/6回) 自然災害の発生メカニズムや過去の被害、さらには防災技術やこれからの防災対策について学ぶ。  (120 小林 祐司/6回) 防災ゲーム・ツールといったソフト面での防災対策をテーマに、実際にグループ単位で実践しながらその活用方法について学ぶ。  (146 松岡 菜穂子/1回) 多角的視点で自然災害を捉えることをテーマに、住居学の観点から、「住まいと自然災害」について学ぶ。  (68 土居 晴洋/1回) 多角的視点で自然災害を捉えることをテーマに、人文地理学の観点から、「土地利用と自然災害」について学ぶ。  (37 市原 靖士/1回) 多角的視点で自然災害を捉えることをテーマに、情報通信技術の観点から、「デジタルコンテンツと自然災害」について学ぶ。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 福祉・地域	建築環境計画	<p>建築学は、人類の福祉のために、学術・技術・芸術の結晶たる建築・都市環境の創造とそれらの持続可能な発展を目指している。本講義では、建築環境工学、建築計画学、都市計画学の立場から以下の3項を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建築と生活環境、都市と地球環境との関係性及び重要性を理解する。</li> <li>2. 建築と都市の背後にある理論や理念、技術、歴史などを知り、理解する力を培う。</li> <li>3. 建築の専門家でない市民として、生活価値を高めると共に、安全で快適な社会を創造していく上で必要とされる基礎知識と考える力を培う。</li> </ol> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(43 大鶴 徹／3回)            建築学の体系と建築環境工学の位置づけ建築音響学の歴史と基礎理論、室内音響理論の概要と音響設計例などについて理解する。</p> <p>(88 真鍋 正規／2回)            体を感じる快・不快という観点から熱環境評価手法、自然光・人工光源の役割や照明と建築の関係を理解する。</p> <p>(58 鈴木 義弘／2回)            福祉的住生活環境、近代日本住宅の変遷と課題について理解する。</p> <p>(120 小林 祐司／3回)            都市・地域の緑地環境、防災・減災、安全安心の都市計画・まちづくりについて理解する。</p> <p>(134 富来 礼次／3回)            建築・都市における騒音問題、測定、評価、関連法規について理解する。</p> <p>(172 姫野 由香／2回)            都市・地域における景観について理解する。</p>	オムニバス方式
	カラダの見方・考え方	<p>現代社会での生命観や科学観を相対化するために、様々な地域や時代での人体の扱われ方、特に死体の処理方法から考察を深める。題材として、古代エジプトのミイラ、ギリシャの医師、ルネサンスの画家と解剖学、遺体衛生保存術、仏教思想の絵巻、江戸時代の処刑方法、漢方医学と蘭学の比較、現代の臓器移植、死体の展示等を扱い、それらの行為の原因について社会背景や宗教観等から多様な解釈を導き出す。さらに、毎回の授業から課題を提出させ、知識の定着と考察を深める授業である。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 福祉・地域	地球環境とエネルギー入門	<p>地球環境問題の現状やその対策を説明し、地球環境問題の全体像を理解することにより、エネルギーと環境問題について自ら考え、くらしの中で対応・行動するための基礎を培うことを目的としている。</p> <p>(オムニバス形式／全15回)</p> <p>(92 山田 英巳・100 岩本 光生／1回) (共同) 導入</p> <p>(92 山田 英巳／7回)</p> <p>地球を太陽系の一惑星としてとらえ現在の地球の環境がどのように形成されてきたかを歴史的に概観し、地球規模の観点から大気と海洋の大循環が大気中に放出された大量の炭酸ガス等の移動や貯蔵に果たす役割を客観的に理解することを目的としている。</p> <p>また、近代から現代にかけて急速に拡大するエネルギーの消費が人類の経済活動と密接にリンクし、同時に環境破壊をも引き起こすこと、およびそれらが我々の身近な生活様式とも密に関係していることを学ぶ。</p> <p>(100 岩本 光生／7回)</p> <p>先の授業に引き続き、生活水準を落とすことなくCO2削減が可能かを説明する。まず、現在のエネルギー消費の現状(原子力、化石燃料、再生可能エネルギーなどの利用割合と、分野別のエネルギー消費割合)を説明し、省エネルギーによるCO2削減(運輸、家庭、産業)はどこまで可能か、非化石エネルギー(原子力、再生可能エネルギー)の利用の現状と将来、核融合などの新技術の展望について述べることにより、エネルギー問題を理解することを目的としている。</p>	オムニバス方式 共同(一部)
	社会福祉と自立思想	<p>近代市民社会の構造的問題としての「排除」の事象を取り扱いながら、それに対応する社会的実践としての「社会福祉」のあり方を取り上げつつ、その社会福祉が目指す「自立した生活」とは何か、についての問題点を明らかにし、「多様な存在を認める関係性の媒介」としての福祉の理念を具象化するソーシャルワーク実践の可能性について考察を深める。</p>	
	障がい者福祉入門	<p>本講義は、障害者福祉の基礎知識を得ることを目的として展開される。とりわけ専門科目の障害者福祉論(社会福祉士受験科目)が制度を網羅することに力点を置いているのに対して、この科目では通常そうした科目では、あまり注目されない、あるいは時間の都合上、簡単に触れて終わりにせざるを得ない点を中心にとりあつていいる。たとえば、障がい者の日常生活や余暇などである。</p>	隔年
	アルコール関連問題入門	<p>アルコールは、われわれの生活に豊かさや潤いを与えるとともに、酒類に関する伝統と文化は生活に深く浸透している。その一方で、不適切な飲酒が健康障害の原因となり、それは飲酒者本人のみならず、家族への深刻な影響や重大な社会問題を生じさせる危険性が高い。この授業では酔いのメカニズムと酔いが及ぼす影響、健康な酒とのつきあい方について学ぶ。さらに、一気飲み等による急性アルコール中毒、アルコール依存症、飲酒運転など、アルコール関連問題の予防や問題解決方法について考える。</p>	隔年
	現代の福祉政策	<p>この科目のねらいは、国民生活にとっての福祉政策の役割や課題を考える視点や枠組みを学ぶことにある。そのために、福祉政策を構成する社会保障や社会福祉の制度の仕組みを分かりやすく説明するとともに、福祉政策のあり方や制度改革等に関する最新トピックを取り上げて、その争点や課題について具体的な事実や材料にもとづいて考える。</p> <p>この科目をとおして、現代の福祉政策を「温かい心 warm hearts」で捉えるのみでなく、その実態や課題を「冷静な頭 cool heads」で考える視点を養うことを到達目標としている。</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	福祉・地域 市民参加と現代社会	本講義は、社会学の観点から、市民(社会)参加の社会的意義および基本理念を理解し、日本のNPO/ボランティア、地域活動の活動事例を基に、現代社会が直面している問題・課題(福祉、災害支援、まちづくり等)に取り組むにはどのような方策やシステムが必要なのか、を考えることが本講義のねらいである。内容としては、①NPOやボランティアに代表される社会参加の社会的意義、基本理念、歴史的背景、②現代日本の社会参加に関する社会的状況(統計資料や具体的事例を基に)、そして③実践・政策の双方の観点から福祉や人権、災害支援等の社会参加に基づく社会問題の解決の重要性について理解を深める。	隔年
	福祉専門職の来し方	いわゆる「挫折」は、職業人人生において極めて重要なものである。なぜならば、それが自らを成長させる糧となるからである。一方で最近では、挫折を過度に恐れる学生が散見させる。そこで本講義では、福祉専門職(周辺領域含む)の来し方を知ることを通じて、挫折の有用性を理解する。	隔年
	福祉テクノロジー入門	この講義では福祉に関する工学技術・電子情報製品・機械製品に関する話題を提供し、これらへの理解を深めるとともに、福祉分野における機器利用・工学的手法の役割や重要性を講義する。バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方や身近に応用されている福祉的工学技術を紹介し理解を深め、このような分野の話題を理解するために必要な用語や分野の内容、研究概要なども紹介する。さらに、障害者や高齢者の生活を支援する機器や支援技術(Assistive Technology)について学び、これらを普及していくために産業との関連や制度・政策に関連する項目も紹介する。	
	地域と財政	現在、中央・地方を問わず財政状況は厳しい状況にある。さらに、高齢化社会の到来により、今後はその傾向が益々悪化すると予想される。その中で、特に地方財政については、我々の生活に密接しているにも拘らず、その実態に関する知識は一般的には乏しく、それへの関心も依然として低い。このような認識のもとに、本講義では単なる地方財政の制度解説や概要紹介に留まらず、現実の具体事例を用いて、地方自治体で生じている諸課題、および地方財政に関する政策・制度の問題点の解説を行い、そのあり方を識者見解も交えて考察する。	隔年
	東南アジアの社会と教育	東南アジアの社会と教育にスポットを当て、東南アジアの社会および教育の特質を明らかにすることを目的としている。さらに、比較教育学観点から、東南アジアの教育に関する理解を通して、わが国の社会と教育についても考察する。講義の具体的な到達目標としては、東南アジアの社会と教育が理解でき、各国の社会と教育について、資料(レジュメ)を作成して、プレゼンテーションができるようになることである。	隔年
	保育学基礎論	現代社会における子育てや就学前の子どもの育ちを支える社会の仕組み、保育領域における現代的な課題などに関する講義によって、「子どもが育つ・子どもを育てる」という人間の基本的な営みについての関心を深めることをねらいとする。また、アクティブラーニングとして、保育制度をめぐる改革の動向について、「選挙権をもって投票するならば、どちらの改革の方向性に賛成するか」ということを考え、支持する方向性の論拠となる研究についてグループによる調べ学習をし、発表・討論会を行う。	隔年 講義14時間 演習16時間
	学びと生活の探求	現代における教育や子育ての諸問題を取り上げ、そこから教育や子育てがどのような役割を果たしているかについて考察する。具体的には、教育・子育てに関する文献を発表・議論するとともに、身近な事例についての知見を広めることで学習を進める。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	福祉・地域 地域社会へのまなざし	地域社会への多面的理解を獲得させることを狙いとしている。まず老人介護を例に専門社会資源とネットワーク、住民自身のアンペイドワークを構成部分として捉え、それらのバランスが課題と説明する。住民参加のための先進的ツールの紹介と住民の相互理解についての課題をバリアフリー等を例に説明。住民参加で地域資源の高度活用を実践する柳川市事例、受益圏・受苦圏を通じた民意反映の課題を論じて、住民主体の環境管理の現状と課題を説明している。	隔年
	交通から見た地域社会	地域・社会の問題としても身近な交通の問題を話題に、(1) 地域で起きている交通問題の実態を正確に把握し、(2) 他の社会問題・政策との関係などについても理解するための、地域・社会に問題の考え方に関する基礎情報と、交通の問題に関する基礎情報を提供したうえで、交通問題の地域における重要性と、地域における交通に関連した問題を考えるひとつのきっかけを作り、(3) 地域・交通問題に関心を持って自身に関連する問題として自らの考えを持つことができるような講義を行う。	隔年
	世界・日本・大分の農業経済論	農業経済学についての基礎的な理論を講義する。同時にTPP加盟や農協改革、米価下落等の世界、日本、大分の農業についての最新のトピックスを取り上げ、その実態や背景、歴史を、各種統計データ分析、実態調査に基づき解説する。あわせて半年のうち1-2回は、生産者、流通業者、行政職員等の関係者をゲストとして招聘し、生の声を直接学生に届ける。もしくは大学を出て現地を訪問し、生産、流通の実態を実際に体験してもらう可能性もある。	隔年
	大分の水I	大分県内の水辺を題材として、その自然環境や実際にそこで生活する人々との交流、教室での講義を通じて、環境や地域づくりについて実態的に理解を深める。集団学習の体験活動を通じて、学生相互さらには地域の人々と共に学びあう。自然と他者との共生、循環型社会、持続可能な社会など基礎的知識を習得するとともに、専門学習を深めるきっかけとし、グループでの学習など大学における基盤的な勉強法と、地域の人々との交流による社会生活上の基本的な関係の構築を到達目標とする。	共同
	大分の水II	地域の水辺から大分県、さらにアジア・太平洋地域にまで視野を広げ、地球規模での共生社会について実態的に理解を深める。地域社会で実際に生業に携わる人々との交流、地場生業や環境保全活動での体験と、教室での授業を通じて、地域環境や地域づくりについての考察も深める。また、地域環境NPOによる諸行事への参加による集団学習を通じて、学生相互さらには地域の人々と共に学びあいます。これらをつうじて、専門学習へのきっかけとし、社会性の涵養を到達目標とする。	共同
	環境の化学入門	原発利用、資源循環利用、地球温暖化、大気汚染等の環境に関連する内容についての講義である。  (オムニバス方式／全15回)  (34 石川 雄一／8回) 1. 現在の原発の状況について議論できるようになることを目指して、核分裂・核融合について学ぶ。 2. 未利用のまま廃棄される資源について学び、それら資源を経済循環につなげる方策について考える。  (42 大賀 恭／7回) 主な環境問題として、オゾン層の破壊、地球温暖化、大気汚染、水質汚染、土壌汚染、をテーマに取り上げ、それぞれの現状を、種々の観測データを読むことによって理解する。次いで各環境問題の発生メカニズムを化学の視点から解説し、それらの解決には各自がそれぞれの立場でどのような取り組みをすべきかを考えることができるようになることを目的とする。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養 教育科目	福祉・ 地域	自然体験活動の理論と実践	<p>地域資産としてのキャンパスの豊かな自然を活用し、自然認識の過程を実地に学ぶとともに、自然認識の体系化が科学を成立させていること、多様な自然認識がESD（持続可能な開発のための教育）に必要であることを学ぶ。自然体験の過程は、ネイチャーゲームの理論であるフローラーニングにより系統的・組織的に設計されている。また危機管理をKYT訓練により具体的に修得する。これらが一過性の自然体験とならぬよう、個人の体験を受講生全員で共有するとともに、個々に自然体験指導を課している。</p>	講義20時間 実習10時間
		地域ガバナンスとグローバルガバナンスを考える	<p>この講義の目的は、国々が協同し、形の違った機関を地方またはグローバルレベルで構成する過程を学ぶことである。特に、国際連合、世界銀行、国際通貨基金を始め、EU（国際連合）、ASEAN（東南アジア諸国連合）に焦点をあてる。これらの機関の重要な役割や存在意義を、政治、経済、安全保障の観点から検証し、さらに、このような国を超えた活動が民主主義にどのような影響を与えるのか、その変化に国内の政党や市民社会はどうか対応しようとしているのかを探る。なお、この講義は英語で行われる。</p>	隔年
		地域と情報	<p>この講義では、市町村合併によって地域で力点が置かれている情報化について、現状と問題点について考察し、デジタルデバイドや情報のセキュリティなどの問題点への多くの取り組みを紹介すると共に、国策としてすすめられようとしている情報化の方針を紹介しながら、望ましい情報化について考えていくことを目的とする。WebClassを使用して、適宜自分の考えを提出させ共有して、深めていく。</p>	隔年
		現代における青年の心理	<p>10代～20代は現代のライフサイクルでは青年期にあたる。現代に至るまでの時代の変遷、青年期という区分の成り立ちを提示することで、青年期の視点から現代という時代の特徴を捉え直す。また、身体の変化、親子関係の変化、友人関係の変化など青年期におけるさまざまな発達過程を知ることによって、自己理解や他者理解を深めることを目的とする。加えて、現代の青年期の人々が抱えやすい困難と具体的なサポート体制を伝えることを目的とする。</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 福祉・地域	現代社会と心理学	<p>近年我が国では虐待，不登校，うつ病といった心と行動の問題が急増している。本講義では，こうした諸問題の解決に向けて心理学の知見がどのように活かされているのか概観し，理解を深めることを目指す。具体的には，子育て支援や乳幼児臨床，学校教育や教育臨床，障害児者臨床，青少年自立支援といった現場で直面している諸問題について概説し，心理支援のあり方について考える。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(⑦ 武内 珠美／3回)            家族形成や家族の発達過程，親になる過程・親をしていく過程で生じやすい心理的問題などを取り上げ，地域における子育て支援や家庭支援の実際について概説する。</p> <p>(24 池永 恵美／2回)            地域で暮らす肢体不自由児者や発達障害児等を対象とした発達臨床的支援の実際について，また，そうした子どもを持つ親の会の意義・役割等について概説する。</p> <p>(8 古城 和敬／2回)            教師との人間関係が児童生徒の学級適応に及ぼす影響などについて解説し，学校における教師－児童生徒の関係のあり方とその支援について概説する。</p> <p>(⑧ 渡辺 亘／3回)            不登校やいじめなど教育現場で生じるさまざまな教育臨床的問題について解説し，総合的支援のあり方について概説する。</p> <p>(⑫ 溝口 剛／3回)            教育・福祉・医療・司法・就労といった諸領域の狭間に位置するひきこもり問題について解説し，多職種協働による領域横断的かつ重層的な支援のあり方について概説する。</p> <p>(25 岩野 卓／2回)            薬物依存，アルコール依存，喫煙といった嗜癖行動や依存症とその支援について解説し，アディクション臨床の実際について概説する。</p>	隔年 オムニバス方式
	人体の構造と生理	<p>疾病の発症メカニズムを学ぶための基礎的知識として学ぶことを目的とする。人体を構成する細胞，組織，骨，筋，脈管，神経について機能解剖と生理機能を学び，体液，血液の生理機能についても学ぶ。さらに健常に生活するための基本的な神経，呼吸，循環，消化・吸収，肝代謝・腎排泄，膀胱機能，筋活動，骨代謝についても学習する。これら正常の解剖・生理を理解し，人体は，種々の構成要素や機能単位の寄せ集めではなく，それらが相互に関連した有機体であることを再確認させる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(⑰ 紀 瑞成／5回)            解剖学と組織学</p> <p>(③ 河上 敬介／5回)            機能解剖 マクロから分子レベルまで</p> <p>(12 徳丸 治／5回)            各器官の生理機能とホメオスタシス</p>	隔年 オムニバス方式



科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 教育科目	福祉・ 地域  高齢者の身体機能と疾病の 特徴	<p>超高齢化社会を迎えた日本においては、高齢者の医療問題は切実である。したがって高齢者の疾病の特徴を熟知したうえで、対応することが重要となる。この講義では高齢者の身体機能の特徴として脱水、低栄養、排泄障害、易転倒などを学ぶ。さらに日本人の主たる死亡原因となっている心疾患、脳卒中、がん、肺炎についての問題を挙げ、緩和ケアについても学習する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(30 田中 健一朗／3回) 高齢者と心臓病</p> <p>(9 浅海 靖恵／3回) 高齢者と認知症</p> <p>(5 兒玉 雅明／3回) 高齢者とがん</p> <p>(2 朝井 政治／3回) 高齢者と呼吸器疾患</p> <p>(5 片岡 晶志／3回) 高齢者と運動器疾患</p>	隔年 オムニバス方式
	生活習慣病とその予防	<p>厚生労働省によると生活習慣病は、「食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒等の生活習慣が、その発症・進行に関与する疾患群」と定義されている。具体的には、高血圧、糖尿病、脂質異常症など、以前、成人病と呼ばれていた主に中年期以降に発症するありふれた疾患群であり、ここでは生活習慣病と予防について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(5 兒玉 雅明／3回) 糖尿病、高血圧、高脂血症などいわゆる一般的な内科的な生活習慣病について概説する</p> <p>( / 3回) 生活習慣病における生活機能評価と運動実践プログラム</p> <p>(13 宮崎 伊久子／3回) 看護学からみた生活習慣病と予防</p> <p>( / 3回) 運動習慣と肥満、さらに小児の肥満予防についても学ぶ</p> <p>(2 朝井 政治／3回) 慢性閉塞性肺疾患の病態と予防</p>	隔年 オムニバス方式
	運動器疾患と治療・予防	<p>運動器疾患は小児から高齢者まですべての年齢で起こり、日常生活に大きく影響を及ぼす。この講義では各年齢層で起こりやすい疾患にフォーカスをあてて解説する。小児では成長発達障害の問題を取り上げる。さらに青年期では野球肘、膝靭帯損傷や疲労骨折などのスポーツ傷害を取り上げる。成人では脊髄損傷、切断、多発外傷をとりあげ、高齢者では、変形性関節症、骨粗鬆症性骨折、がんの骨転移を取り上げる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(5 片岡 晶志／8回) 小児期の運動器における成長発達障害、成人の脊髄損傷、切断、高齢者の骨折、がんの骨転位について病態、治療、予後、今後抱える問題について学習する。</p> <p>( / 7回) 青年期におけるスポーツ傷害について解説する。特に野球、サッカー、バレーボール、バスケットボール、ラグビーなど各種スポーツにおける特性、治療、予防について学習する。</p>	隔年 オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	福祉・地域	共生社会論	年齢、性別、国籍、障害の有無など、様々な立場の異なる人々が生活する現代社会において、共生社会の実現は重要な課題である。本講義では、直接現代社会の問題を取り上げるのではなく、日本の歴史を振り返り、各時代における共生社会のあり方を検討していく。具体的には、古代・中世・近世・近代における高齢者、子ども、女性、単身労働者、母子家庭などの社会的弱者への対応と公的な保障に関する事例を取り上げていく。過去の社会を検討することにより、現代社会を相対化し、現代の諸問題を考えるヒントを得ることが本講義の目標である。	
		医療倫理	人々に適切な医療・福祉サービスを提供して自立を支え、尊厳を守るためには、専門職としての倫理的な態度と判断力を身につける必要がある。そのために、医療倫理・生命倫理の基本原則と倫理的意思決定の基本を学ぶ。さらに、社会や臨床実践の場面において、対象者の権利を保護・促進し、倫理的な判断を的確に行うことができるよう、事例演習を通じて、医療・福祉における倫理課題の分析と意思決定のあり方を学ぶ。	集中
		子どもにとっての福祉とは：社会的養護と家族支援	児童福祉は、子どもだけを支援するのではなく、家族支援を切り離して考えることのできないものである。特に、実親とともに生活することのできない社会的養護におかれている子どもは、子どもの意見と親の意見が異なることが少なからずある。本科目は、子どもにとっての福祉とは何かということを社会的養護だけではなく、在宅の家族支援、近接領域から考えていく。	隔年
		運動学習の科学	バスケットボールの実践を通して、自己の技能を高めるとともにコミュニケーション能力や安全管理、健康管理の仕方について学習する。生涯スポーツの観点から、ストレッチ、準備運動からゲームの運営等までを自らが主体的に実践できるよう、段階的な学習内容で構成している。また、講義ではスポーツを愛好する立場と批判的に観る力を養うために、近代オリンピックに代表されるスポーツの現代的課題や文化的意義について触れ、それらの理解を図る内容である。	講義12時間 実技18時間
		エクササイズ理論と実践	「エクササイズは身体に良い。」という大前提から、授業を展開する。単に健康志向ではなく、運動することが楽しい、いつの間にか運動習慣が体得されていた、そんなエクササイズのあり方を追求し実践する。 この授業では、縄跳び、Gボール、ボール、ダンスなどを通して、様々な知識を体得するとともに、身体運動に対する教養を高め、爽快感を体験し、その検証を試みる。	講義12時間 実技18時間
		スポーツと健康づくりの科学	スポーツと健康づくりの科学をめぐって、とくに受講対象の女子学生の特性と密接に関わる内容に焦点を当て、女性のライフスタイルと健康についてスポーツと健康科学の視点から講義と実技を実施する。	講義12時間 実技18時間
		バラエティスポーツの実践	複数のスポーツ種目（卓球、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール）を経験・実践することで、スポーツの多様性を実感し、生涯スポーツに対する意識を高めることをねらいとする。さらに、最後の二時間は、講義（生涯スポーツと健康、健康のためのエクササイズ）を実施し、ここで学習した運動種目を健康づくりに繋げるための方法論を教授する。	講義12時間 実技18時間
		レクリエショナル・スポーツの科学	本科目（演習）においては、レクリエーション協会加盟団体種目を主に実践し、新しいスポーツ文化である「ニュースポーツ」を体験する。ニュースポーツの体験を踏まえ、計4回の講義を受講させることにより、スポーツ文化の理解を促す。スポーツの文化性とはすなわち、創意工夫の中で、多くの人々が「楽しむ」ための仕組み（ルール変更等）が生じる点、さらには、心身両面にわたる効用を有している点に見出される。	講義12時間 実技18時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 海外・語学	英語 I	大学生として適切な基本的英語力（語彙、表現、読解等）を養成し、以降の学習や研究活動に必要な英語運用能力の基礎を強化する。多様なトピックの英文の精読や問題演習、英文作成により、英文読解力の向上、既習の文法事項の定着、語彙の補強、とくに医療や福祉分野の英語能力についての知識の充実と拡大を図る。	
	英語 II	大学生として適切な基本的英語力（発音、聴解等）を養成し、以降の学習や研究活動に必要な英語運用能力の基礎を強化する。主にグループディスカッション等の実践により、既習の文法事項の定着、論理的思考に基づいた発信力の育成、語彙の補強、また医療や福祉分野についての知識の充実と拡大を図る。	
	英語 III	「主題別」を旨とし、原則として受講生の選択に基づき可能な限り少人数のクラス編成を行う。「英語 I」の発展としての英語の応用力（運用力）の向上を目指す。以下は、各主題の項目。それぞれの主題に応じ、英語の構造と表現法について修得することを目的とする。（1）時事情報英語（2）福祉医療実践英語（3）異文化理解（4）医療・福祉分野の関連文献など（5）英語表現法（英語論文作成）。	
	英語 IV	英語コミュニケーション力を伸ばすため、以下の内容を扱う。1つ目は英語の母音、子音の発音の仕方とその聞き取りの練習を行う。2つ目は必要な語彙力を500語程度の英文を毎回読ませながら身につけさせると同時に英語の文章の中身を読み取る訓練を行う。3つ目は英作文等を通じてアウトプットの力をつける練習を行うと共に、文の構造についても意識させ、正確な英語を扱えるようにすることである。	
	基礎中国語 I	言語はその国を理解するための有効な手段の一つである。とりわけ中国と歴史的に深いかかわりを持ってきた日本人にとって、中国語を学ぶことの意義は大きい。この授業を通じて、今まであまり中国に馴染みのなかった受講生諸君にも、中国の奥深さと中国語を学ぶ楽しさを伝えて行きたい。中国語はもちろん漢字で表記されているが、発音はローマ字（ピンイン）で表されている。その発音方法は必ずしも英語やローマ字と一致しない。前期には発音方法を学び、拼音字母を見て中国語の発音ができるようになることと、基礎的な文法を理解することを目標とする。	
	基礎中国語 II	後期は前期で培った基礎の上に、さらに新しい文法事項や会話などを付け加えたい。発音も完璧とまでは行かなくても、せめて中国の人が聞いて理解できる程度にまではマスターさせたい。後期は最低でも中国語検定準4級の合格を目指したい。後期は前期のように『初級 中国語課本』を使用するが、発音練習中心ということはない。程度が高くなるので、努力する必要がある。後期も出来るだけ中国を立体的に紹介して、中国に興味を持ってもらえるようにしたい。	
	基礎ドイツ語 I	基礎的なドイツ語力を養成する。発音の規則を習得し、初歩的な文法を理解し、基本的な会話表現を覚える。具体的には、アルファベット、発音から始まり、規則動詞や不規則動詞の現在人称変化、名詞の性と冠詞、定冠詞・不定冠詞の格変化、定冠詞類dieserの格変化、および数詞を学ぶ。また並行して、統計資料や図や画像などを用いてドイツの社会や文化への理解を深める。さらに、ドイツ語と他の言語の違いについて考えることで、言語に対する感性を涵養する。	
	基礎ドイツ語 II	基礎ドイツ語 I に引き続いて、基礎的なドイツ語力を養成する。初歩的な文法理解を深め、多様な会話表現を学ぶ。具体的には、不定冠詞類（所有冠詞・否定冠詞kein）、人称代名詞、前置詞、命令形、分離動詞と非分離動詞、話法の助動詞（können, müssen, dürfen, mögen, wollen, sollen）およびmögenなどを学習する。また並行して、統計資料や図や画像などを用いてドイツの社会や文化への理解を深める。さらに、ドイツ語と他の言語の違いについて考えることで、言語に対する感性を涵養する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	海外・語学		
	基礎フランス語Ⅰ	このクラスでは、初修外国語としてのフランス語の理解に不可欠な基礎文法を中心に学んでいきます。とりわけ英語との相違点に注意を促しながら、フランス語を通じてフランスの文化や社会に関心を抱いてもらうこと、そして日本の文化や社会のありかたとの違いに気づいてもらうことがこの授業の目的です。	
	基礎フランス語Ⅱ	このクラスでは、基礎フランス語Ⅰの学習内容を踏まえ、さらにフランス語の理解を深めていくことを目指します。同時に平易なフランス語の文章を理解する能力と、フランス語によるコミュニケーション能力（特にヒアリングとスピーキングの能力）の涵養を目指します。最終的な到達目標としては、フランス語検定試験（仏検）の4級の能力の獲得を設定しています。	
共通基礎科目	福祉健康科学概論	本授業は、福祉健康科学部において習得する「生活の包括的な支援」の基礎となる、「健康で自立した生活」とはどのようなものか、について授業を行う。具体的には、「健康で自立した生活」を、就労し、安定した経済状態を確保できる「経済的自立」、日常生活動作（ADL）及び「心の健康」が安定して担保されている「心身の自立」、そしてその人の置かれている生活環境との関係性において、安定して社会との関わりが担保されている「社会関係的自立」の三つの要因が具備された状態として措定し、疾患や障害によってどのように具体的にこの生活の安定が損なわれるのかを事例を用いて解説しながら、「健康で自立した生活」の再構築に向けた支援者のあり方と必要性について授業する。	
	地域包括ケア概論	今後の社会保障・社会福祉の基本的な枠組みとなる「地域包括ケアシステム」の制度設計と実践の枠組みについて、とくに医療と福祉の連携の必要性に焦点を当てた講義を行う。具体的には、地域包括ケアシステムが登場してきた社会保障システムの経過と背景、制度設計に当たって目指されている「医学モデル」から「生活モデル」への移行を中心としながら、「生きづらさを抱えた人々の自立を保障するシステム」の制度の枠組みと実践のあり方について解説する。	
	地域マネジメント論	現代の福祉問題の多くは、家族や地域コミュニティの「場」で発生している。また、これらの福祉問題を地域コミュニティにおいて総合的に解決する政策や具体的な方法が求められている。超高齢・少子化・人口減少社会に向けた地域再生のシナリオ、居住福祉のまちづくり、ローカル・ガバナンス、地域包括ケアシステム、「制度の狭間」問題、家族やジェンダー等の解決方策を中心に講義を組み立てる。また、各地の地域活動やソーシャルワークの実践事例に学びながら、地域独自の政策や実践を計画化し、地域社会におけるセーフティネットの構築に関する地域マネジメントの理論と手法を追究する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基礎科目	ライフサポート論	<p>本科目は、「バイオ・サイコ・ソーシャル」に渡る生活の包括的な支援のあり方について、それぞれの領域における具体的な方法論を学ぶ科目である。「地域包括ケア論」において学んだ政策・制度的な枠組みの中で、「バイオ・サイコ・ソーシャル」の各領域がどのように機能し、かつ連携・協働することができるのか、またそれらを包括的にマネジメントする方法とその必要性を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(④ 衣笠 一茂/5回) 「生活モデル」の概要と地域におけるソーシャルワーク</p> <p>(⑱ 井手 知恵子/5回) 地域づくりを推進する保健師活動</p> <p>(⑦ 武内 珠美/2回) 親と子育てをめぐるライフサポート</p> <p>(⑧ 渡辺 亘/2回) 子どもと青年をめぐるライフサポート</p> <p>(⑫ 溝口 剛/1回) ひきこもりと自立をめぐるライフサポート</p>	オムニバス方式
	アーリー・エクスポージャー	<p>全コースの学生を対象として、入学して間もない時期に行う。急性期病院、回復期病院、障害者施設、障害者授産施設など医療関連職種が多くが勤務する医療機関の現場を見学し、医療の流れと医療に携わる各職種の業務を見学して、その専門性の理解を深める。さらに地域包括ケアセンターについても事前学習をおこなったうえで、現場見学をおこなう。専門職（医療人）としてのプロフェッショナルリズムを共感し、モチベーション向上の機会とする。医療人としてのモラル教育は、事前学習で学習する。</p>	
共通展開科目	生体分野 看護学概説	<p>保健医療福祉分野の専門職として、看護が健康に資する役割について学び、看護学の基本概念である人間・健康・環境・看護に関する概要を理解し、看護実践を中心に看護に共通する骨格を理解することを目的とする。その方法として、看護の役割と看護観の育成に関しては、看護を受ける立場・看護をする立場などの模擬体験や実際の看護場面のVTRを視聴することにより、そこに包含される看護の概念を学生間で討論しながら学習の動機と自己の課題を明確化してくさらに、看護の基本概念に関しては、看護の歴史の変遷、看護活動の場や看護の対象者の理解、看護教育、看護活動を展開する場と協働する他職種との連携や課題について学ぶ。</p>	
		<p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑰ 紀 瑞成/4回) 人体の構造として発生学、骨系、関節・靭帯系、筋系、神経・血管系、内臓、循環器系について各組織・器官の名称、働き、共通性、特徴を総論的に理解する。</p> <p>(12 徳丸 治/4回) 人体がはたらく機能を把握し、生命を維持する仕組みについて学習する。発生、発育、体温調節、呼吸、循環、内分泌、骨・筋運動、神経系、感覚系、消化吸収、泌尿・排泄、生殖、造血などの項目について、解剖学的知識の上に、機能的内容を総論的に理解する。</p> <p>(⑤ 兒玉 雅明7回) 人の身体各器官系統に起こる代表的な健康障害について、疾病のメカニズム・主要症状と病態・診断・治療・合併症・予後を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	人体の構造と機能及び疾病		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通展開科目	生体分野 リハビリテーション医学・概論	リハビリテーションの概念および具体的な方法、患者へのアプローチの方法を理解することを目的とする。具体的な教育内容として、リハビリテーションの概念、医学的、心理的、教育的、職業的分野のリハビリテーションについて、対象者が家庭復帰・社会復帰を目的とするにあたり、その支援のあり方、社会的資源の活用について学習する。さらに機能障害とこれに基づく能力障害や社会的不利を理解し、これらの障害に対する医学的リハビリテーションについて理解することを目的とする。具体的な教育内容として、脳卒中後片麻痺、脊髄損傷及び骨折、脱臼その他の関節障害、末梢神経損傷、関節リウマチ、進行性神経・筋疾患、切断等のリハビリテーションについて学習する。	
	地域リハビリテーション学	地域リハビリテーションに関わる理念と定義を理解し、地域在住の障害者や高齢者を取り巻く制度的環境や支援ネットワークの現状を学習する。また、地域リハビリテーションにおいて現状の課題・問題についてディスカッション等を実施することにより、理学療法士が果たすべき役割について理解を深める。さらに、地域リハビリテーションと密接な関係がある介護保険制度や高齢者施策について、学生が在住する地域における違い等を把握することにより地域に適したリハビリテーションのビジョンを構築する。	
	生理学 I	疾病を理解してそのリハビリテーションを図るためには、人体の正常機能を理解することが不可欠である。生体の正常機能についての科学である生理学は、理学療法を支える基礎科学として位置付けられる。生体の機能は大きく植物機能と動物機能とに分けて考えることが出来る。生理学Iでは、人体と細胞の生命を維持するはたらくきである植物機能（呼吸機能、循環機能、消化機能、体液・血液、内分泌機能、生殖機能）の理解を目指す。	
	解剖学 I	発生学、骨系、関節・靭帯系、筋系、神経・血管系、内臓、循環器系について各組織・器官の名称、働き、共通性、特徴を理解する。理学療法における基礎であり、得に重要となる骨系、関節・靭帯系、筋系については、上肢、下肢、体幹の各部位ごとに構造・働き、特徴を理解し、他の部位との共通性も含め理解する。さらに、機能的、臨床的な関連性も含め講義することで、理学療法における解剖学の重要性を理解する。解剖学で学習した知識を解剖学実習で応用する。	
	病理学	臨床でさまざまな病気をもつ人々に関わるためにはその人と共にある病気についての理解が必須である。病気はさまざまであっても病気の成り立ちには共通する仕組みがある。本授業はさまざまな病気に共通する仕組みを理解することが第一の目的である。また、病気の成り立ちによっては予防可能な病気もあり、病気にならないための方策について考えることが第2の目的である。本授業では、さまざまな病気の共通の仕組みについて分かりやすく総論的、系統的に教授する。	
	人間発達学	生物的・心理的・社会的存在としての人間を発達という観点から全体として学際的に教授する。そして人間という種の発達に共通する一般法則を探求すると共に、人間個人としてのユニークさについても講ずる。具体的には、人の一生を、胎生期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、成熟期、老年期の発達段階別に理解する。  (オムニバス方式/全15回)  (⑩ 紀 瑞成/7回) 発生学・解剖学的側面から講義。  (12 徳丸 治/8回) 発生学・生理学的側面から講義。  ライフサイクルから見た生涯にわたる発達課題と人間を総合的に理解するための基本的知識を学ぶ。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通展開科目	生体分野 内部障害とリハビリテーション	内科領域における主要疾患の概念、病因、症状、診断法、治療法などを概説する。理学療法学・心理学・社会福祉学の専門科目を学ぶ上で必要な疾病に対する医学的な知識を理解し、多面的視野と総合的判断力を身につけることを目標とする。消化器疾患・循環器疾患・呼吸器疾患・神経疾患・内分泌異常・糖代謝異常・膠原病・泌尿器科疾患・救急医療の主な疾患について病態、症状、治療、予後などを学習する。	
	運動器疾患とリハビリテーション	整形外科が対象とするものは四肢や体幹などの運動、支持器官の疾患や外傷である。整形外科学は、小児の身体の変形に対する予防や治療から発展し、外傷や変性疾患など、その対象を広げている。現在では高齢化社会到来という時代的背景もあり、乳児から超高齢者まで整形外科の担当する分野はますます拡大し、その分野も細分化されつつある。本授業では整形外科学の入門、解説の意味で形態学、生理学、解剖学などの基礎的な知識から、各種疾患の病理、病態、診断・治療などに関する総合的な知識まで整形外科の総論を教授する。	
	がん和リハビリテーション	平成24年6月厚労省ががん対策推進基本計画において、がん患者のADL、QOLが著しく低下することが多くみられる。そのためがん領域での質の高いリハビリテーションの重要性が指摘された。この講義ではがんリハビリテーションの実際の臨床症例を提示しながら講義を進める。  (オムニバス方式/全15回)  (5 片岡 晶志/5回) がんリハビリテーション目的・概論、骨転移・病的骨折の病理と臨床、脊椎転移と治療・予後、脊髄損傷  (5 児玉 雅明/4回) がん臓器別の特徴：消化器・腎泌尿器・造血器・脳・頭頸部・呼吸器  (2 朝井 政治/3回) 誤嚥性肺炎とリハビリテーション  (20 寺町 芳子/2回) がん患者への看護的アプローチ  (6 隅田 好美/1回) がん和口腔ケア	オムニバス方式
	神経疾患とリハビリテーション	各種神経疾患に対し病理、症候、診断について理解することを目的とする。具体的にはリハビリテーションで対象となる可能性の高い 1) 脳血管障害(脳卒中など) 2) 神経変性疾患(パーキンソン病・脊髄小脳変性症など) 3) 脱髄性疾患(多発性硬化症) 4) 末梢神経疾患(ニューロパチー) 5) 筋疾患(筋ジストロフィー・重症筋無力症) 6) 感染症(脳炎) 7) 認知症 について学ぶ。さらにこれらの知識を基本として意識障害、運動麻痺、高次脳機能障害の病態を理解する。	
	言語聴覚療法学	言語聴覚療法は医療、介護、福祉、学校教育の分野において、発声発語機能障害、言語機能障害、聴覚機能障害、高次脳機能障害、摂食・嚥下機能障害に対して、検査、訓練および助言、指導その他の援助などの専門的にかかわりによって、対象者の失った機能の再獲得や維持・向上を図り、生活の質の向上を目的とする。その基本となる言語聴覚療法学について学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通展開科目	社会分野 社会保障論 I	社会保障は、今日の経済構造の変化や少子・高齢化、家族の多様化、地域社会の変容などの下で大きな転換点に立っており、その見直しが検討されている。この講義は、社会保障論の総論として、まず社会保障の歴史とともにその理念や体系について講義し、理解を深める。そのうえで福祉国家がどのように発展し、変化したのか、福祉国家の国際比較を通じて検討する。そして、今日の社会経済構造の変化の下で社会保障・福祉の改革をめぐる基本的な論点、社会保障政策の課題がどこにあるのかを考える。	
	保健医療サービス論	保健医療福祉領域の援助を展開していくために必要な制度や保健医療サービスを理解し、多職種と協同で包括ケアを行うための理論と知識、技術を理解することを目標とする。DVDを用いることでさまざまな疾患や障害を有する対象者の課題（心理的課題を含む）の理解を深め、医療ソーシャルワーカーとしての援助の実践について教授する。授業は講義が中心であるが、グループディスカッションを取り入れることで実践方法を考える力を身に付ける。	
	福祉サービスの組織と運営	近年、社会福祉士がアドミニストレーションに関与することが顕著に増えている。こうした実践背景を前提に、社会福祉法人や特定非営利活動法人の規定や役割、組織の基礎理論、集団力学やリーダーシップ論などを含めた効果的・効率的な組織運営の方法、サービスマネジメント、リスクマネジメント、コンプライアンス、キャリアパス、財務諸表の仕組みなどを取り扱う。	
	地域福祉論 I	本講義では、地域福祉の対象として、地域住民の抱える生活問題やその背景・構造を把握するとともに、課題意識を養う。次に、地域福祉の理念を実現するための方法および主体として、地域福祉の役割を社会保障制度の体系に位置づけて理解し、関連政策との動向と合わせて問題状況を把握する視角を習得する。さらに、地域福祉が直面する課題と展望を具体的に認識するために、生活問題の様々な姿を実証的に把握し、地域福祉のあり方と実践の条件を考える。	
	現代社会と福祉 I	複雑化する現代社会の中で社会福祉がその社会の中でどのような機能を果たすことを求められているのかを理解することが講義の目的である。社会福祉の思想と歴史について学び、社会福祉がいかなる社会的要請をうけているのかを学び、その政策の内容、社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）との関係、関連する政策との関係、国際的に見て日本の社会福祉にどのような特徴があるのかを検討し、以上を通じて、社会福祉の形成過程と概要についての知識を習得し、自分なりの見解をもてるようになることを目指す。	
	高齢者福祉論 I	少子高齢社会や要介護高齢者の増加などの社会情勢を背景とし、①高齢者の生活実態、②高齢者福祉制度の発展過程、③介護の概念や対象、④介護予防、⑤介護過程、⑥認知症ケア、⑦終末期ケア、⑧高齢者に適した住環境などを取り扱う。そしてこれらの学習を通して、少子化（結果としての高齢社会）を克服することの重要性や高齢者への支援方法などへの理解を深める。	
	心理分野 心理学概論	心理学は、人間の行動の背後には「こころ」が存在すると仮定し、客観的な手法を用いて、行動と心理の関係について科学的な説明を試みるものである。この講義では、心理学の基本的な考え方や伝統的な研究知見について学ぶことをねらいとする。特に、日常的な人間の行動や生活、社会の特徴について、経験的・直観的に解釈するのではなく、心理学的な観点から、分析・考察できるようにするための基本的な知識を学ぶ。	共同



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通展開科目	心理分野 社会心理学	日常生活で体験する社会的事例を引き合いに出しながら、対人認知・対人魅力、対人的コミュニケーション、リーダーシップ、ソーシャル・サポートなど、社会心理学の体系に依拠して研究法、理論・モデルの考察を試みる。とくに、福祉健康科学部が目指す、福祉社会のリーダー人材の養成を踏まえ、リーダーシップの理論については、本講義の中心的な課題として位置づける。さらに、社会心理学的な実験や実習も随時行う。具体的な到達目標は、①社会心理学の意義と研究方法を理解できる。②社会心理学の理論やモデルに基づいて、日常の自身の社会的行動を考察できる。③より効果的なリーダーシップのあり方を追究できる。	
	コミュニティ心理学	コミュニティ心理学は、個人と環境との相互作用や社会システム間の複雑な関係における事実や法則性を明らかにするとともに、そこで発生する個人、集団、及び社会システムの心理社会的な諸問題の効果的な解決・予防を目指す実証・実践科学である。本授業では、コミュニティ心理学の理論を踏まえ、コミュニティ心理学的アプローチの特徴やソーシャル・サポート・ネットワークを中心に、学校、企業、地域社会における実践例を取り上げながら考察を進める。具体的な到達目標は、①コミュニティ心理学の理論を理解する、②心理社会的な問題の諸相を理解する、③心理社会的な問題にコミュニティ心理学アプローチをどう適用するか検討できる、である。	
	ライフサイクルの心理学	授業概要：人間の一生における発達段階的な諸問題について、発達と人生、世代間交流など人生の時間軸に関わる諸問題について、発達心理学的な観点から解説する。 具体的な到達目標：1. ライフサイクルの視点を持ち、受講生が自分の発達の過程をたどること、将来を考えることを通じて、自己理解や他者との関係性の理解を深める。2. 人間の各発達段階における発達の特徴、周囲との関係性の様相、その時期明らかになりやすい障害等に関する専門的知識を獲得する。3. 現代における様々な問題に対して、人間の発達過程と関係性の視点から考察する力をつけ、必要な援助や問題解決のための手段を知る。授業形式は講義形式。	
	健康心理学	ストレスや普段の生活習慣が心身にどう影響するのか、病気を患っているときそれとどのようにつきあったらいいのか、など将来対人援助職として働く時の一つのツールとして応用できるよう理解する。具体的には、健康と病気の定義、ストレスの定義や理論、ストレス関連疾患やうつ病等の精神疾患の理解とストレスマネジメント、ライフスタイルと健康増進、生活習慣病と予防行動などを取り上げ、ポジティブ心理学によるアプローチやCBT、心理教育といった健康心理カウンセリングについても概説する。	
	老年心理学	老年期の心理の特徴や変化について理解を深め、特に、老年期を旧来の「喪失」「幸福感の低下」という負のイメージで捉えるのではなく、老年期なりの成長や自己実現を支えるという「サクセスフル・エイジング」のための基礎的視点を養うことを目的とする。具体的には、まず老年心理学の歴史と発展について概説し、その後、老年期における心理的機能の変化（知能・記憶・感情・感覚知覚・パーソナリティの特徴とそのメカニズム）、ライフサイクル上の主たるテーマ、高齢者をとりまく家族や社会の状況等について具体的にとりあげる。最後に、高齢者の社会参加や孤独死等、今日的なテーマについても考える。	
	障害児者心理学	この講義は、さまざまな障害に関する基本的概念について学習する。具体的には、障害とは何かについて解説し、特に知的障害、発達障害（自閉症スペクトラム障害、ADHD、LD）、肢体不自由を取り上げ、これらの障害のある子ども（成人）の心理や行動特性、生涯発達について学ぶことにより、障害のある子どもや成人が人生のそれぞれの時期において抱える困難性を理解し、有効な支援を行うための基本的知識を習得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通展開科目	心理分野 リハビリテーション心理学	この講義は、リハビリテーションや障害の基本的概念について学習する。具体的には、リハビリテーションの基本理念や歴史、生活機能分類（ICF）による障害観、障害のある人の心理、リハビリテーションにおいて心理学が果たす役割、合理的配慮、について学習することにより、障害のある人へのリハビリテーションや心理学的支援についての基本的知識を習得する。	
	臨床心理学概論	臨床心理学とはなにか、その機能や臨床領域、今日の日本社会における役割や課題について、まず概説する。そのうち、臨床心理学的な理解と支援の流れについて説明する。特に、臨床心理学的支援が対象とするところの健康や問題について、発達段階ごとに（乳幼児期、児童期、思春期青年期、成人期、老年期）概説を行い、医療や福祉、教育、家庭生活や社会生活との関係についても理解する。加えて、病気や事故など喪失体験の際の心理についても説明を行う。	
	精神医学Ⅰ	本講では、精神医学の歴史や診断法・症状評価、主たる精神障害に関する内容を学ぶ。 まず、精神医学の総論を理解するために、精神医学・精神医療の歴史や、脳および神経系の生理と解剖、精神医学の概念を学ぶ。その上で、精神症状・状態像の理解と診断法について学び、精神科における代表的な疾患である、認知症およびその他の器質性精神障害、アルコールおよび薬物乱用による精神障害、統合失調症、気分障害、神経系の疾患（てんかんを含む）を理解する。	共同
	精神医学Ⅱ	本講では、精神疾患別の症状・治療法に関する内容を理解するために、神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害、摂食障害、睡眠障害、パーソナリティ障害、精神遅滞、心理的発達の障害、小児期および青年期の精神障害について学ぶ。その上で、精神科薬物療法、精神療法、精神科リハビリテーション、身体療法、環境・社会療法などの治療法を学ぶ。さらに、精神科医療機関の治療構造や専門病棟、精神科治療における人権擁護、連携の重要性の理解を通して、精神医療の実状やチーム医療について学ぶ。	
チュートリアル科目	チュートリアルⅠ	チュートリアル科目全体を通して、具体的なケース検討を行うことで、座学で学んだ知識が実際に現場でどのように役立つかを学び、課題解決に必要な専門職間の連携と生活を包括的に支援するマネジメントとリーダーシップの能力を涵養することを目的とする。 チュートリアルⅠでは、まず各コース毎にグループを編成して地域包括ケアに関する実践事例の検討・発表を行う。また、授業後半ではコース混合での発表を行う。 これにより、専門職としての考え方や問題解決についてのアプローチの方法を学び、さらには、生活を包括的に支援するための基礎的手法を修得する。	
	チュートリアルⅡ	個別のケース検討を行うことで、座学で学んだ知識が実際に現場でどのように役立つかを学び、課題解決に必要な専門職間の連携と生活を包括的に支援するマネジメント能力を涵養することを目的とする。 チュートリアルⅡでは、2コースにまたがりグループ編成を行い、検討・発表を行う。それにより、他職種を知り、自らの専門性を理解し、専門職間での連携の基礎的手法を修得する。	
	チュートリアルⅢ	個別のケース検討を行うことで、座学で学んだ知識が実際に現場でどのように役立つかを学び、課題解決に必要な専門職間の連携と生活を包括的に支援するマネジメント及びリーダーシップの能力を涵養することを目的とする。 チュートリアルⅢでは、3コースにまたがりグループを編成し、検討・発表を行う。具体的には、より「地域ケア会議」の実際に近い状況での検討を行うことで、生活を包括的に支援できるチームアプローチの全体性を理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
チュートリアル科目	チュートリアルⅣ	<p>個別のケース検討を行うことで、座学で学んだ知識が実際に現場でどのように役立つかを学び、課題解決に必要な専門職間の連携と生活を包括的に支援するマネジメントとリーダーシップ能力を涵養することを目的とする。</p> <p>チュートリアルⅣでは、福祉健康科学部と医学部を含めたチーム編成を行い、総合的に模擬的な地域ケア会議のシミュレートを実施することで、各専門職種への役割分担と、その連携による生活の全体性への支援の実際を学ぶ。</p>	
理学療法コース専門科目	基礎系		
	理学療法概論	<p>理学療法の歴史、法律、社会における理学療法士の役割と職域など、理学療法全般について学習する。理学療法を科学的に説明・理解するために必要な基礎科学を習得し、臨床思考過程における規範や根拠となる事項を理解する。さらに本講座では臨床での経験をふまえ、医学的リハビリテーションの中の理学療法分野にとどまらず、介護保険、福祉分野において理学療法士に期待されている役割について学習することで、地域包括ケアシステムの中でリーダー的役割を担うことができる意識付けを行う。</p>	
	義肢装具学	<p>義肢に関しては、義足装着時に起きる静的姿勢への影響、歩行動作時など動的变化への影響に関してそのメカニズムを学ぶ。また、適合チェックの仕方、ADL自立に向けた取扱い方法および訓練方法について学ぶ。装具に関しては、上肢、下肢、体幹、頸部それぞれの装具が、どういった疾患の時に使用されるのかを学ぶ。さらに適合チェックの仕方、使用者が装具を使いこなすための取り扱い方法を学ぶ。また、義肢装具が障害者の生活をどのように向上させるのか、課題はどこにあるのか等リハビリテーションの視点から学習する。</p>	
	医学系		
	生理学Ⅱ	<p>生理学Ⅱでは、生体の機能のうち動物機能について学習する。動物機能とは、生理学Ⅰで学習した植物機能によって維持される生命を活用して、「見て聞いて、考えて、行動する」はたらきである。即ち、情報を受容し（感覚）、伝えて処理し（神経系）、出力する（運動）機能を学習する。生理学Ⅰと生理学Ⅱを履修することにより、外部環境が変化しても内部環境の恒常性（ホメオスタシス）を保つ生体のはたらきの理解を目指す。</p>	
解剖学Ⅱ	<p>人体を構成する組織、器官を系統ごとに理解することを目的とする。具体的な教育内容として、発生について概説した後、骨格、筋、脈管、消化器、呼吸器、循環器、泌尿器、内分泌器、中枢神経、末梢神経、感覚器の諸系統に分けて、系統ごとに示す。人体を機能的側面からとらえ、運動学的機能を学習することを目的とする。上下肢および頸部、肩甲帯部について、各部の構造として、形態、配置と組立、材料という3つの要素から、各要素が持つ機能を解説していく。</p>		
運動学	<p>運動学は、人間の身体運動を科学的に分析する学問であり、リハビリテーションの領域の基礎的知識として重要な学問である。身体運動は一見単純にみえるが、極めて精緻・巧妙に制御されている。これらの原理を理解するには、解剖学や力学、生理学などの広い分野に関する知識が要求される。この授業では人間の運動を構成する、関節や骨格筋の構造-機能連関、基礎的な力学などを学習する。また、運動に関する神経学的、生理学的な基礎知識についても学習する。そして、これらの学習を基盤とした歩行や姿勢などの制御について学習する。</p>		
リハビリテーション分野系	理学療法評価学Ⅰ	<p>運動機能の基本的評価を学習する。問診等の情報収集、身体観察、身体計測について、各検査のもつ意義と評価の方法を学習する。さらに、関節可動域検査と筋力検査（徒手筋力検査、筋持久力検査）について検査の意義と目的、実施する上での注意点や禁忌、評価していくプロセスについて学ぶ。さらにそれぞれの評価のつながりについて理解を深める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
理学療法コース専門科目 リハビリテーション分野系	理学療法評価学Ⅱ	神経・生理機能の基本的評価を学習する。全身状態や局所状態を知るために、バイタルサインや意識の評価を理解した後、種々の反射や筋緊張、認知・高次脳検査、感覚検査、脳神経検査について解説する。各検査の意義と目的、方法と手順、留意点、さらにそれぞれの評価のつながりについて理解を深める。	
	運動療法学	身体を動かすことを主な方法とした治療法である運動療法について学ぶ。関節可動域の改善、運動麻痺の改善、基本動作能力の改善、筋力の改善等に用いられる各運動療法の実際と、その身体応答のメカニズムについて学ぶことを目的とする。また、臨床で用いられている理学療法の事例を通して、脊柱、上下肢の関節運動の基礎を臨床に応用するための生活機能分類やエビデンスに照らし合わせた運動学的分析を理解することを目的とする。運動時のアライメント変化や筋活動などを臨床推論により導き出せるように実際に演習を通して学習し、運動学的分析の臨床的意義について理解を深める。	
	運動器系理学療法学	主要な運動器系疾患の病態および整形外科的治療方針などを理解し、根拠に基づいた理学療法プログラムの立案に必要な知識を学習する。具体的には骨折、変形性関節症、腰痛、靭帯損傷、外傷、整形外科的手術後についてのリハビリテーションの観点から解釈する方法を述べる。運動器やスポーツにおける障害の病態を明らかにするための検査方法を解説し、リハビリテーションとのつながりについて概説する。	
	神経系理学療法学	神経に起因する疾患のうち、脊髄損傷と末梢神経障害について、病態や動作の特徴を理解し、理学療法評価・プログラム立案ができるように学習する。また、認知症について原因や症状を理解し、その予防・対策・支援におけるリハビリテーション専門職の役割を学ぶ。	
	脳血管障害理学療法学	脳の構造と機能について学習し、脳血管障害の病態や症状について理解を深める。脳血管障害の病型とそれぞれの特徴・各時期における治療やリハビリテーションの進め方、リスク管理について理解する。特に理学療法士として、急性期、回復期などの病期にわけた関わり方を学ぶ。	
	内部障害理学療法学	内部障害を循環、呼吸、代謝分野に大別し、各々の分野における疾患とそれに伴って生じる障害像を学習し、治療および内部障害リハビリテーションの現状を学習する。目に見えない内部疾患を理解するための病態解剖生理を再学習するとともに病態機能面も学習し、内部疾患の障害について論じる。さらにがんについての理解を深めるために疾患特異性とリハビリテーションの現状について概説する。	
	発達系理学療法学	小児疾患の理学療法を実施する上で前提となる、正常発達（運動発達を中心に）や疾患像について学ぶ。小児期は成長・発達過程であり、その過程を理解することが患者の示す症状や発達過程の考察を助け、治療的示唆を齎すことに繋がる。また、成長・発達における神経学や運動学も交え学習することで、発達過程のより深い理解を促す。具体的な教育内容として、講義のみでなく実技演習を多く行うことで、新生児・乳児の正常発達過程や小児疾患の臨床像を理解し、必要な検査・評価方法及び治療方法について学習する。また、ライフサイクルに応じた家族支援・社会的支援についても学ぶ。	
	老年期理学療法学	加齢に伴う身体、精神機能の変化を理解した上で、高齢者で問題となる廃用症候群、骨粗鬆症、認知症、肺炎を主とする呼吸器疾患について学習する。さらに、これらの代表的な疾患を通して急性期、回復期、維持期・生活期の理学療法介入について学習する。維持期・生活期については、介護、福祉サービスとの連携も含めて学習し、理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
理学療法コース専門科目	リハビリテーション分野系 神経難病理学療法学	脊髄小脳変性症、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症に代表される神経筋疾患について、その病態や障害像を理解し、これらの疾患に対するリハビリテーションアプローチ、生活支援や社会資源について学習する。筋萎縮性側索硬化症については、安定期、増悪期、終末期の病期に分けたかかわり方を解説する。	共同
	慢性疼痛と理学療法学	日本慢性疼痛学会によれば、わが国での慢性疼痛保有者は約1,700万人であり、65.5%の人は治療を受けることをあきらめたり、受診をしていないという報告があり、痛みが和らいでいる人はわずかに22.4%といわれている。慢性疼痛の特徴としては 1) 痛みの強さと病状の程度や進行度とは比例しない 2) 痛みのために食欲不振、活力低下、睡眠障害、慢性疲労感などを中心とした自律神経失調症状を訴えることが多い 3) 精神的にうつ状態に陥りやすい 4) 治療に難渋することが多い とされている。治療に有効な方法が見つからない状況で内服、神経ブロック療法と併用したリハビリテーションの有効性を学習する。	
	物理療法学	物理療法では、より高い効果を求めて強い強度で行われたり、様々な種類のエネルギーを利用したりすることになるが、同時に身体に対する危険性も高くなる。安全で効果の高い治療を実施するためには、与えられたエネルギーに対して身体がどのような反応を示すかを基礎知識として学習する必要がある。また、物理療法には極超短波療法、超短波療法、超音波療法などがあるが、使用される物理的エネルギーの多くは目に見えないものであり、理解することが困難な場合が多い。本授業では、これらを可能な限り単純化して各自がイメージとして理解できるように心がけながら行う。	
基礎研究科目	理学療法学研究論	基礎的知識の確認と、科学的かつ臨床的理学療法思考能力を高めることを目的とした研究に関する授業を行う。  (オムニバス方式/全15回)  (③ 河上 敬介/2回) 運動器障害研究・人体解剖研究  (⑨ 浅海 靖恵/2回) 脳血管障害研究  (② 朝井 政治/2回) 内部障害研究・地域理学療法研究  (12 徳丸 治/2回) 宇宙飛行士とリハビリテーション  (5 片岡 晶志/1回) 義肢装具研究  (⑤ 兒玉 雅明/1回) 消化器疾患による栄養吸収障害  (⑬ 宮崎 伊久子/2回) 医療安全教育  (⑰ 紀 瑞成/2回) 組織学的研究  (⑳ 菅田 陽怜/1回) ブレイン・マシン・インターフェース	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
理学療法コース専門科目	基礎研究科目	<p>科学的かつ臨床的理学療法思考能力を高めることを目的とした研究に関する演習をおこなう。具体的には、学生に各領域における課題を課し、それに対するレポートを提出させる。また優れたレポートに対しては発表形式で、全体討議を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(③ 河上 敬介/2回) 運動器変性疾患の課題とレポート</p> <p>(⑨ 浅海 靖恵/2回) 脳血管障害の課題とレポート</p> <p>(② 朝井 政治/2回) 呼吸器障害の課題とレポート</p> <p>(⑱ 川上 健二/2回) スポーツ傷害の課題とレポート</p> <p>(⑳ 菅田 陽怜/2回) 末梢神経(脊髄含む)障害の課題とレポート</p> <p>(㉑ 田中 健一郎/2回) 循環器障害の課題とレポート</p> <p>(5 片岡 晶志/1回) 義肢装具研究に関連した課題とレポート</p> <p>(⑤ 兒玉 雅明/1回) 消化器疾患による栄養吸収障害に関連した課題とレポート</p> <p>(12 徳丸 治/1回) 宇宙飛行士とリハビリテーションに関連した課題とレポート</p>	オムニバス方式
	実習系	<p>動物の組織および人体を用いて、生体の刺激に対する応答を観察し、人体の正常な機能を理解する。観察された現象の正確な測定、適切なデータ解析、結果の分かり易い提示、結果に基づいた論理的な考察を行う能力の涵養を目指す。上記目標を達成するために、グループ単位のレポートを課しその添削指導を繰り返す。また、実習の最後には実習成果報告会を行い、口演によるプレゼンテーションも課す。</p>	
	解剖学実習 I	<p>解剖学の中でも表面解剖に重点を置き、解剖学で習得した骨、関節・靭帯、筋の知識を基に、人体・人体模型を利用して各組織の位置の確認、触診を学習する。骨では主にランドマークとなる部位の理解と触診、関節では、関節の位置の理解、一部ではあるが可動性を含めた触診を行うことで理解を深める。筋では骨ランドマークを基に起始、停止を理解し筋の走行を確認する。さらに、表面から深層にかけて筋がどのように層を形成しているのか学習する。上記について上肢、下肢、体幹の各部位について学習する。</p>	
	解剖学実習 II	<p>解剖学のなかでも、筋のマクロ所見、筋の起始、走行、停止、脳・脊髄の解剖、脈管の走行を実際に確認し、機能のメカニズムを理解する。授業で習得した知識をもとに、医学部解剖学教室の協力のもと、医学部解剖学実習室にて、高度な解剖学実習を行う。具体的には、標本を用いての骨学実習、御献体の解剖学実習である。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
理学療法コース専門科目	実習系		
	義肢装具学実習	<p>義肢装具学で学習したことを基に、義肢装具の構造と使用されるパーツについて学習する。また装具については学生自身が相互にモデルとなり、疾病と装具の特殊性を学習する。義肢については、体験用義足を用い、装着時の問題点やアライメント調整の技術を理解し、義肢の適合判定の知識について学習する。</p> <p>1) 義肢装具の構造について理解できる。 2) 基本的な装具のチェックアウトができる。 3) 基本的な義肢のアライメント調整が理解できる。</p>	
	物理療法学実習	<p>実際に物理療法がおこなえるよう、各療法についての目的、効果と適応、手技、リスク管理などを整理しながら教授する。物理療法の主な目的は疼痛の緩和、循環の改善等であり、臨床においては運動療法と組み合わせて実施される場合が多い。本授業では物理療法を実施する場面を想定して、物理療法機器の取り扱い、リスク管理などを実習する。この時に物理療法の授業で学んだ知識を復習しながら、その効果も体験できるように行う。</p>	
	基礎理学療法実習	<p>理学療法全般における広範囲な知識について演習を行う。授業で学習した理学療法を科学的に説明・理解するための必要な基礎科学を体験し、臨床思考過程における規範や根拠となる事項を演習する。特に、運動・動作障害に対する評価や治療に必要な応用科学を学ぶ。グループ学習による発表・レポート提出を課題として行い、理学療法の基礎的知識について自ら考える機会を作り、調査・発表の能力と記述力を養う。</p>	
	理学療法評価学実習	<p>種々の運動機能検査で使用する機器の説明をする。学生同士で関節可動域検査、筋力検査、形態測定、感覚検査、反射検査を主体とした実習を実施する。また、筋緊張検査、協調性機能検査、平衡機能検査は模擬的にこれらの機能に障害があることを想定した実習を実施しながら検査の意義について理解する。意識、知能、注意、失認・失行などの高次脳検査は検査表を使用して理解する。</p>	
	運動器系理学療法学実習	<p>運動器障害理学療法学で学習した骨・筋障害に対して実施される理学療法について演習を通して学習する。骨折や筋力低下などの運動器障害の病態解剖、機能解剖を理解し、基本的な関節可動域訓練法や筋力増強法を主体とした演習を学生同士のチーム学習やグループ学習を通して実施する。また、運動器障害に対する持久力訓練や協調性訓練などの運動方法や具体的指導についても演習し、理解を深める。</p>	
	神経系理学療法学実習	<p>脊髄損傷、Duchenne型筋ジストロフィー、多発筋炎、多発性神経炎、ギラン・バレー症候群、筋無力症、筋萎縮性側索硬化症、脳血管障害、ワレンベルグ症候群、ブラウン・セカール症候群、脊髄小脳変性症、パーキンソン病、アルツハイマー病、多発性硬化症、てんかんを理解する。次のステップとして</p> <p>1) 運動障害に応じた運動療法の特徴を述べることができる。 2) 理学療法評価から治療計画を立案できる。 3) 治療目標を立案できる。 4) 基本的な理学療法プログラムを実施できる</p> <p>を目標に実習を行う。</p>	
脳血管障害理学療法学実習	<p>脳血管障害による片麻痺は有病率が非常に高く、理学療法士が最も接することが多い疾患の一つである。脳血管障害では運動機能だけでなく、感覚系や、高次脳機能などの障害も呈するため、ADLが制限される。この授業では疾患に対する知識を基本として、脳血管障害による片麻痺に対する理学療法の基礎について実習を行う。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
理学療法コース専門科目	実習系	内部障害理学療法実習		
	臨床実習	基礎臨床実習Ⅰ（見学）	<p>実習指導者の指導の下、理学療法業務を見学し、理学療法士の役割について学ぶ。さらに、対象者を取り巻く様々な職種（循環器系、呼吸器系、代謝系）に分け、グループごとにガイドラインや文献から最新の知見を収集し、根拠に基づいた理学療法プログラム立案の手順を学ぶ。最終的には提示された症例に対する理学療法プログラム立案を行い、全体で検討する。</p> <p>本実習の目標（ゴール）は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 内部障害理学療法における基本的考え方、評価から治療、効果判定までの流れが説明できる。</li> <li>2) 循環器系、呼吸器系、代謝系の代表的な疾患に対する適切な評価、および治療手技の抽出、実施ができる。</li> <li>3) 内部障害理学療法を行う上でのリスクが抽出できる。</li> </ol> <p>とする。</p>	
		基礎臨床実習Ⅱ（計測）	<p>実習指導者の指導の下、これまでに学習した知識・技能を活用し、対象者の既往歴、現病歴、家族歴などの問診と、簡単な検査・測定を学習する。</p> <p>（行動目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象者とのコミュニケーションの取り方について説明できる。</li> <li>2) 理学療法士の役割について説明できる。</li> <li>3) 対象者を取り巻く職種とその役割について説明できる。</li> <li>4) 理学療法士以外の職種との協力体制と、その重要性について説明できる。</li> </ol>	集中
		基礎臨床実習Ⅲ（アセスメント）	<p>実習指導者の指導の下、これまでに学習した知識・技能を活用し、実際の症例を通して、必要な検査・測定を実施する。さらに、得られた結果を統合・解釈して問題点を抽出する。これらを通して、対象者の障害像・全体像を捉える能力を養う。</p> <p>（行動目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) カルテより情報収集ができる。</li> <li>2) 対象者に対して問診ができる。</li> <li>3) 対象者に対して形態測定、MMTおよびROM testができる。</li> </ol>	集中
		臨床実習Ⅰ（アセスメント）	<p>実習指導者の指導の下、これまでに学習した知識・技能を活用し、実際の症例を通して、必要な検査・測定を実施する。さらに、得られた結果を統合・解釈して問題点を抽出する。これらを通して、対象者の障害像・全体像を捉える能力を養う。</p> <p>（行動目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象者の情報収集ができる。</li> <li>2) 対象者の検査・測定ができる。</li> <li>3) 対象者の問題点を列挙することができる。</li> <li>4) 対象者のゴール設定を経験する。</li> </ol>	集中
		臨床実習Ⅱ	<p>実習指導者の指導の下、対象者の評価から、その問題点の抽出、ゴール設定、治療プログラムの立案を通して、臨床思考過程能力を養う。</p> <p>（行動目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象者のゴール設定ができる。</li> <li>2) 対象者の理学療法プログラムを立案することができる。</li> <li>3) 可能であれば、理学療法の一部を経験する。</li> </ol>	
臨床実習Ⅲ	<p>実習指導者の指導の下、代表的な疾患に対する理学療法を通して、理学療法の知識と技術を統合する能力を養う。</p> <p>（行動目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象者のゴール設定ができる。</li> <li>2) 対象者の理学療法プログラムを立案することができる。</li> <li>3) 必要に応じて理学療法プログラムを修正することができる。</li> <li>4) 治療内容、経過等について報告ができる。</li> <li>5) 可能であれば、理学療法を実施することができる。</li> </ol>	集中		



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
社会福祉実践コース専門科目	概論系	現代社会と福祉Ⅱ	<p>複雑化する現代社会の中で社会福祉の位置づけがどのように変化しているかを理解することがこの講義の目的である。具体的には従来のいわゆる福祉6法体制と呼ばれている社会福祉の構造がいかなる点で限界をもっているのか。今日の社会問題がいかなる特質をもっているのかを検討する。さらに、政策の決定過程においてどのような力学が働いているのかを検討し、社会福祉について、他の社会システムとの関連において理解することを目指す。</p>	
		社会調査の基礎	<p>本授業は、質的調査と量的調査の区別、それらの目的と方法の概要を説明し、調査において留意すべき点を理解させることを目的とする。</p> <p>授業計画としては、個人情報保護、データの利用方法等、調査における倫理を踏まえさせ、サンプリングの取り方等の技法についても理解させる。また、質問項目の作成方法の留意点を実際に質問紙を作成させることで理解させる。さらに、量的調査の集計と分析方法について学ばせる。クロス集計、相関と回帰等の基本を理解させる。</p>	
	制度政策系	福祉行財政と福祉計画	<p>本講義では最初に行政と財政の一般的基本事項について教示したうえで、社会保障・社会福祉に関連する行政システム（国・都道府県・地方自治体の機能と役割なお）、並びに保険方式、税方式別の財源と会計システム（特別会計など）を扱う。また福祉計画については、ゴールドプランを端緒とするこれまでの行政計画の展開とその意義や方法について教授する。これらを通して福祉行財政や福祉計画を俯瞰できる能力を涵養することを目的とする。</p>	
		社会保障論Ⅱ	<p>今日、社会構造や経済構造の変動の下で、新しい生活課題や社会的リスクが生じており、社会保障へのニーズは高まるとともに多様化している。その一方、財政問題や効率性の問題、あるいは市場原理の導入などの諸点から社会保障制度の見直しが求められており、その改革をめぐるさまざまな議論が行われている。この講義では、まず、日本の社会保障の発展過程とそれに規定された社会保障の体系と特徴について理解させる。そして、社会保障の諸制度を解説するとともにその現状を講義する。そのうえで、人口変動や家族、生活構造の変化、社会経済構造の変化を踏まえて、日本の社会保障、公的扶助、社会福祉サービスの改革課題を議論する。</p>	
	社会福祉分野系	地域福祉論Ⅱ	<p>本授業では、地域福祉の理念を具象化する方法について講義を行う。具体的には、住民参加に基づいた福祉コミュニティを形成して行くための「コミュニティ・ワーク」あるいは、地域住民の持つ主体性を引き出し、地域社会の持つ可能性を最大限に発揮して行くための「コミュニティ・エンパワメント」の具体的方法について解説する。また、近年ミクロからマクロまでを包摂する地域福祉実践方法として注目されている「コミュニティ・ソーシャルワーク」について実践事例を元に解説し、受講生が具体的な地域福祉実践方法を習得することを目指す。</p>	
		児童・家庭福祉論	<p>近年、家族や地域状況の変化により、子どもの権利に基づいた「子どもの育ち」を保障することが困難となってきた。本講は児童福祉全般の共通基盤とも言える価値観を柱に、実践に必要な子ども観、子育て観、家族観などに関する論議を中心に構成している。児童虐待やDV、一人親家庭など近年家庭内の福祉需要が多様化する中で、どういった価値観をもって子どもや、その親にかかわっていくかについて考えることを目的とする。また、児童福祉に関連する法律、児童福祉関連機関、子育て支援・保育サービスに関する基本的知識の学習と実践について学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会福祉実践コース専門科目	社会福祉分野系		
	障害児者福祉論	本講義は障害者福祉の全体像を理解することが目的である。中でも障害者がおかれてきた歴史的・社会的背景を把握することが重要である。そして、様々なニーズをもつ障害者にどのような制度的サービスが用意されているのかを検討する。さらに障害者の支援は制度によっておこなわれるわけではないので、支援者同士のネットワークや、支援者に課せられる資格などについて検討する。最近、日本の障害者の権利条約の批准をはじめとして大きな変化がもたらされている分野であり、そうした最新の状況を理解することも重要となる。	
	高齢者福祉論Ⅱ	本講義では「介護」を中心素材とし、これに関係する法制度の知識の理解促進を図ることにより、社会福祉士としての実践力を高めることをねらいとする。具体的な講義内容は、①介護保険法の概要、②介護報酬の仕組み（価格つけによる政策誘導含む）、③介護保険法における組織及び団体の役割と実際、④各専門職の役割、⑤ネットワーク、⑥地域包括支援センターの機能などである。	
	公的扶助論	本講義では、福祉諸制度のなかで「最後のセーフティネット」と呼ばれる公的扶助（生活保護）について、制度の仕組みを分かりやすく説明するとともに、実際の運用場面における具体的な問題を取り上げる。基礎的な知識の習得にとどまらず、生活保護の対象である貧困の実態や、生活保護を取り巻く社会保障行財政の動向にも目を向けることによって、今日の日本の生活保護が抱える課題や今後のあり方について、リアルかつ分析的に検討する視点と能力を身に付けさせる。	
	就労支援サービス	クライアントの自立の観点だけでなく、社会保障費の効率化の上でも就労支援は重要なものとなる。本講義では、就労支援の制度システムと具体的な援助方法をふたつの柱として、①雇用・就労の動向、②生活保護法・障害者関連法・一般雇用関連法の内容、③各組織・団体の役割と連携、④職業リハビリテーションの内容、⑤働きやすい環境整備、⑥就労能力の向上の方法などを教示する。	
	権利擁護と成年後見制度論	相談援助と法（憲法・民法・行政など）の関わりの基本的な理解を土台に、成年後見制度の仕組みと実際について習得する。また、認知症高齢者や知的・精神障害者など、日常生活上の権利擁護が必要な人々に対する権利擁護活動の実際を理解することをねらいとする。講義内容は、相談援助活動において想定される法律問題、憲法の基本的原理、民法・行政法の理解、成年後見制度、日常生活自立支援事業、権利擁護活動の実際などである。	
	更生保護制度	相談援助において必要となる更生保護制度について理解するとともに、刑事司法・少年司法分野で活動する組織や団体、連携のあり方などについて習得する。講義内容は、保護観察や仮釈放、更生緊急保護など更生保護法の概要、保護観察官並びに保護司、更生保護施設など担い手についての理解、検察庁・裁判所や矯正施設、福祉団体などとの連携の方法、生活環境調整や精神保護観察などの医療観察法の概要などである。	集中
スクールソーシャルワーク	現代社会における児童・家庭の生活問題についての理解を促すとともに、地域社会において今後必要となる「開かれた学校」のあり方を示し、地域社会と学校とを繋ぐ役割を担うスクールソーシャルワークの理論と実際について学ぶ。とくに関係機関との連携においてソーシャルワーカーが果たすべき機能について学習し、地域社会において活躍するソーシャルワーカーの具体的なあり方を示す。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会福祉実践コース専門科目	相談援助技術系 相談援助の基盤と専門職Ⅰ	本授業では、総合的かつ包括的な相談援助（ソーシャルワーク）の理念と方法に関する知識と技術の基礎を、相談援助（ソーシャルワーク）の基盤である価値と倫理、日本のソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義の現状に焦点をあてて講義する。ソーシャルワークをその基盤から学び、ソーシャルワーカーである社会福祉士・精神保健福祉士が相談援助（ソーシャルワーク）を実践するための重要な課題について理解を深める。	
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	本授業では、ソーシャルワークの歴史的背景、日本におけるソーシャルワーク専門職の資格である社会福祉士資格に関する歴史的経緯、倫理綱領の内容を理解する。ソーシャルワークの歴史的背景については救貧法、慈善事業から専門職が形成されていく背景を学ぶ。また、専門職に必要な要件の1つである倫理綱領を取り上げて、どのようなことが定められているかを検討する。また国際的なソーシャルワークの定義としてIFSWやNASWも紹介する。以上のような学びによって将来専門職として活躍する基礎を固めることを目指す。	
	相談援助の理論と方法Ⅰ	相談援助に必要な理論と知識を理解することを目標とする。援助の対象の現状と課題を明らかにし、総合的・包括的な援助を展開していくための基礎的理論として、ジェネラルソーシャルワークの理論を用いる。特に本講義では人と環境の相互作用、相談援助の対象、相談援助における援助関係について教授する。授業は講義形式で実施するが、学生の理解を深めるためにDVDによる事例を用いて、グループディスカッションを取り入れる。	
	相談援助の理論と方法Ⅱ	相談援助に必要な理論と知識および技術について理解することを目標とする。総合的・包括的な援助を展開していく観点から対象者の発見、ニーズ把握、効果的援助方法およびその評価法等の相談援助過程の知識と技術について教授する。また、相談援助の関係性を形成するための面接技術について教授する。授業は講義形式で実施するが、学生の理解を深めるためにDVDによる事例を用いてグループディスカッションを取り入れる。	
	相談援助の理論と方法Ⅲ	本講義では相談援助様々な実践モデルとアプローチについて知識と理解を深め、臨床場面においてその技法を活用できることを目標とする。取り扱うモデル・アプローチは、①治療モデル、②生活モデル、③ストレングスモデル、④心理社会的アプローチ、⑤問題解決アプローチ、⑦課題中心アプローチ、⑧解決志向アプローチなどである。	
	相談援助の理論と方法Ⅳ	本講義では集団援助技術やネットワーキング、相談援助の関連領域などの知識と理解を深め、実践適用できる能力を育むことを目標とする。内容は、集団援助の意義や方法、ケアマネジメント（ケースマネジメント）、アウトリーチ、スーパービジョン、情報保護などである。	
演習系	相談援助演習Ⅰ	本授業では、社会福祉援助に必要な技術や知識を、実際に行うロールプレイング等を通じて体得することが目的となる。そのうち、このⅠでは、自己覚知、基本的なコミュニケーション技術の習得といった基本的な部分の学習を行う。自己覚知を促進するための様々なグループワークや個別課題を課す。また、基本的なコミュニケーション技術とは、話し方や話す時の姿勢、相手の話を聞く時の姿勢や表情などであり、模擬面接等を通じて望ましいありかたを学んでいく。	
	相談援助演習Ⅱ	本授業では、社会福祉援助に必要な技術や知識を、実際に行うロールプレイング等を通じて体得することが目的となる。そのうち、このⅡでは、基本的な面接技術の習得を目的としている。具体的には、社会福祉の面接で必要な傾聴について学ぶ。また、相手の話を適切に要約すること、相手の視点を変えるような受け答え（リフレーミング）、問題の中核に焦点を当てること（焦点化）等の技法を学ぶ。またどんな面接が望ましくないかを通じて面接における避けるべきことについても学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
社会福祉実践コース専門科目	演習系	相談援助演習Ⅲ	本授業では、社会福祉援助に必要な技術や知識を、実際に行うロールプレイング等を通じて体得することが目的となる。そのうち、このⅢでは、具体的な課題別の相談援助事例を素材としながら、総合的、包括的な相談援助技術を習得することを目指す。取り上げる事例は、社会的排除、虐待（児童・高齢者）、家庭内暴力（DV）、低所得者、ホームレス等である。これらの事例についてどのような支援の方法が望ましいのかをグループワークや個別課題を通じて学ぶ。	
		相談援助演習Ⅳ	本授業では、社会福祉援助に必要な技術や知識を、実際に行うロールプレイング等を通じて体得することが目的となる。そのうちこのⅣでは、Ⅲで提示された事例に即しながら、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結とアフターケアという相談援助のプロセスを学ぶ。なお、その際には、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワークキング。社会資源の活用・調整・開発といった援助技術の内容を含む。	
		相談援助演習Ⅴ	本授業では、社会福祉援助に必要な技術や知識を、実際に行うロールプレイング等を通じて体得することが目的となる。そのうちこのⅤでは、地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、必要な援助技術の体得を目指す。具体的には、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価である。他の援助技術演習と同じくグループワークや個別課題を通して、実践的な技術の習得を目指す。	
	実習系	相談援助実習指導Ⅰ	本科目は相談援助実習の導入科目にあたる。実習の全体イメージや流れを把握し、また、各分野の社会福祉実践の基本的な知識を得ることを通して、事前学習の内容や方法などの理解を深めることをねらいとする。講義内容は、①相談援助実習の意義と目的、②各実習分野の基本的理解、③見学実習、④実習機関の選定などである。	
		相談援助実習指導Ⅱ	相談援助実習の実務的・実践的な事前学習が中心となる。具体的には、①当該実習分野・機関に係る社会情勢、②法制度的理解、③機関の機能と役割、④社会福祉士の業務とこれを遂行するために必要な知識と技術、④価値・倫理、並びに守秘義務、⑤①～④を踏まえた上での実習計画の作成、⑥ケース記録の方法、⑦実習記録の方法などである。これらの学習を通して、実習に必要な知識や技術とともに、実習生に求められる社会性や積極性などを涵養することを目的とする。	
		相談援助実習指導Ⅲ	事後学習が中心となる。自らを省察するとともに、理論と実践を往還することにより実践者としての力量を向上させることをねらいとする。特に問題解決能力の向上に焦点をあてる。学生は「実習総括レポート」並びに「福祉課題解決レポート」の2つを作成し、これを報告する（ディスカッションする）ことで毎回の講義を展開する。後者のレポートの構成は次の通りである。①福祉実践・福祉現場の課題、②それが課題である理由、③課題の原因、④課題を改善・解決する方策、⑤課題が解決すること（方策を実施したこと）によって生じるおそれがある新たな課題	
相談援助実習Ⅰ	ソーシャルワーク援助の出発点は「利用者を知る」ことにある。本科目はこれをキーワードに実習の学びを深めるとともに、実習カリキュラムのメインである「相談援助実習Ⅱ」の教育効果を高めるための予行演習的な意味合いも含む。具体的内容は、①障害種別などに応じた利用者の特性を理解する、②利用者の特性から派生する生活課題を理解する、③利用者や家族などとのコミュニケーション能力を涵養するなどである。	集中		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
社会福祉実践コース専門科目	実習系	相談援助実習Ⅱ	相談援助実習Ⅰで習得した利用者理解をベースにして、本科目は「専門職を知る」ことを主たるねらいとする。プログラム構成は、①情報収集の方法、②アセスメントの内容と分析技術、③支援計画の作成、④介入の実施、⑤モニタリングの技法、⑦連携とチームアプローチの実践、⑧組織理解、⑨権利擁護と職業倫理、⑩管理運営の実践などである。	集中
	基礎研究科目	卒業研究指導Ⅰ	卒業研究への導入として、まず「科学的に実践すること」の基礎的な知見を養う。具体的には、「研究をするとはどういうことか」についての基礎的な理解、すなわち視点・対象・方法の設定の必要性について理解するとともに、福祉健康科学分野の先行研究例を参照しながら、実際に学生が自分自身の卒業研究を行っていく具体的なイメージを構築する。	
		卒業研究指導Ⅱ	卒業研究指導Ⅰを受けて、本科目では学生が取り組む具体的な研究テーマの設定を行う。具体的には、学生が関心のある領域や、実習における臨床場面での経験を踏まえて、卒業研究のテーマを絞り込み、卒業研究の枠組みを作成する。学生には自分自身の関心明確化するためのプレゼンテーションを求めるとともに、バズセッションやブレインストーミングを用いた小集団討議の方法を活用し、卒業研究の枠組みを完成させることを目指す。	
		卒業研究Ⅰ	3年次の卒業研究指導Ⅰ・Ⅱを受けて、実際にテーマを明らかにするための卒業研究に着手する。具体的には、先行研究を踏まえた研究設問の設定、研究設問に答えるための調査方法の選定に基づいて、フィールドワークを用いた調査研究を実施し、実証的なデータの収集を分析を目指す。これら一連のプロセスは、各教員の十分な指導の元に置いて行われる。	
		卒業研究Ⅱ	ここまでの卒業研究への準備段階を経て、卒業研究Ⅱでは卒業研究論文の完成を目指す。研究の関心の明確化、研究テーマの設定、先行研究の調査、仮説の構築、仮説の実証、実証結果の考察と言った一連の研究プロセスに則った卒業研究論文を作成することで、科学的に実践することを可能にする論理的な思考能力の涵養を目指す。	
		精神保健福祉系	精神保健学Ⅰ	精神保健では、「心の健康の維持」と「心の病気の予防」に関する内容を学ぶ。本講では、「心の健康」と「心の危機」についての心理社会的側面をみていくことにする。具体的には、精神保健の概要や歴史・課題を学ぶことを通して、「心の健康」「心の危機」「心の病気」について理解する。そして、乳幼児期・学童期、思春期・青年期、成人期・老年期(高齢者)とライフサイクルごとの「心の問題」について学ぶ。その上で、家庭や職場などの環境ごとの「心の問題」について学ぶ。
	精神保健学Ⅱ		精神保健では、「心の健康の維持」と「心の病気の予防」に関する内容を学ぶ。本講では、心の病気の予防やケアについて検討する。具体的には、「統合失調症」「アルコール依存症」「認知症」などの精神障害について理解する。また、薬物依存対策や、うつ病と自殺予防、社会的ひきこもり、ニート、ホームレス、災害時やターミナルケア、地域における精神保健の課題など、精神障害の予防やケアについて学ぶ。さらに、国内外の精神医療や精神保健について学ぶ。	
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)		精神保健福祉士に期待される役割や、相談援助の定義・理念・形成過程・体系などについて解説し、他職種の専門性、多職種との連携についての理解を促進する。具体的には、精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要、精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について学ぶ。また、精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。さらに、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携(チームアプローチを含む)の意義と内容について理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会福祉実践コース専門科目	精神保健福祉系 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	精神保健福祉士の業務内容及び支援対象を知り、精神障害者の人権について正しく理解する。また、障害者福祉の基本理念と意義および障害者総合支援法における精神障害者の福祉について理解する。具体的には、精神障害の特質、定義及び特徴（障害概念、障害分類）、障害者福祉の基本施策、精神保健福祉の歴史と理念、精神障害者を取り巻く社会的障壁、精神保健福祉士の活動の意義、障害者総合支援法と精神保健福祉、諸外国の精神保健福祉、精神障害者の権利擁護、精神医療における権利擁護、インフォームドコンセントについて学ぶ。	
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	精神障害者を対象とした相談援助技術について、精神障害者の支援モデル、相談援助の対象者との援助関係について理解した上で、個別援助および集団援助の過程および技術を学ぶ。その際、個別援助では危機介入アプローチや生活支援、集団援助では、デイケアやSST（生活技能訓練）、セルフヘルプグループ等の事例を用いて、実際の援助場面を想定して学習する。加えて、精神障害者と家族の調整及び家族支援の意義を理解し、その援助方法について学ぶ。さらに、スーパービジョンとコンサルテーションの意義と方法について理解する。	
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	精神障害者リハビリテーションの概念、構成、プロセス、実践現場についての理論と知識を身につける。また、精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解するとともに、リハビリテーションにおける連携と統合について理解する。リハビリテーションのアプローチの方法として、精神専門療法、家族教育プログラム（心理教育）、精神科デイ・ケア、アウトリーチ、チーム医療、地域移行支援の対象・体制、精神保健福祉士の役割と多職種との連携、地域移行に係る組織や機関（自立支援協議会）や制度・施策等について学ぶ。	
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	本科目においては、精神保健福祉士が利用者の生活を地域において支援して行く必要性について述べる。具体的には、精神科病院からの退院によって生活の地域移行支援の際に求められる多職種間の連携、ネットワークの組み方、ケアマネジメントの実際について学ぶ。また、地域住民の参加による「共助」の地域づくりに向けて、精神保健福祉士が地域の中でどのように社会環境を整備して行くことができるか、どの具体的な方法について学ぶ。	
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	精神保健福祉に関する制度とサービスを理解することを目的として展開する。具体的には、まず、最近の精神保健福祉改革を取り上げ、地域移行の流れと現状、認知症や自殺、ひきこもりといった注目されている現象がどのような問題の課を理解する。次に精神保健福祉を取り巻く社会的状況の変化について、所得保障のあり方について、税制上の優遇措置、障害年金、生活保護の加算や高額療養費等を実際に算定することを通じて理解することを目指す。	
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	精神保健福祉に関する制度とサービスを理解することを目的として展開する。具体的には、精神保健福祉制度の中核ともいえる精神保健福祉法の概要と重要点について解説する。特に重要なのは、精神科の入院制度および精神障害者保健福祉手帳に関する規定である。次に更生保護の概要である。犯罪を防ぐ、あるいは犯罪や非行をなした者への更生のための制度を学ぶ。そして、精神耗弱または精神喪失時に重大な他害行為を行った者に対する医療観察法について学ぶ。	
	精神障害者の生活支援システム	精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解するために、精神障害者の概念、精神障害者の生活の実際、精神障害者の生活と人権について学ぶ。その上で、精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。また、職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動（その他の日中活動支援を含む）について理解する。さらに、行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会福祉実践コース専門科目	精神保健福祉系		
	精神保健福祉援助演習 I	精神保健福祉援助実習前の段階である本授業では、講義科目で習得した理論や技術などを関連づけながら、精神保健福祉士に必要な専門知識や職業倫理について理解を深める。そのために、総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を用いて、ロールプレイング等の実技指導を中心とした演習を通して、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得する。	
	精神保健福祉援助演習 II	インテークから始まる一連の援助プロセスについて、段階ごとに必要とされる知識や技術を配属実習での学習と照合し、かつロールプレイを行うことで、知識と体験を統合し理解を深め、段階ごとの方法の理論化を図る。その際、ケアマネジメント事例や、社会資源の活用やネットワーク事例、チームアプローチ事例など具体的な事例を用いることで、アセスメントやプランニングなど精神保健福祉士に必要な不可欠な基礎的技法の習得を目指す。	
	精神保健福祉援助実習指導 I	本科目では、次年度に精神科医療機関とそれ以外の2機関で実習を行うために必要な事前指導を通して、各機関の機能や求められる専門性を体得する。そこで、精神保健福祉援助実習と実習指導の内容と展開の説明および意義を理解し、精神保健福祉の現状や精神保健福祉士の職業倫理と法的責務について、講義および精神科医療機関と精神保健福祉センターの見学実習を通して学ぶ。学生の実習目標と照合した上で、実習先を選定し、実習計画書の個別・集団指導を行う。ならびに個人情報保護法の理解を含む守秘義務について指導する。	
	精神保健福祉援助実習指導 II	本科目では、精神科医療機関と精神科医療機関以外の2機関での実習の事前指導・実習指導・事後指導を行う。とくに実習期間中は、実習を振り返り、直面した課題に効果的に取り組めるように、帰校による個別指導（実習日誌への指導・個別相談）と集団指導（実習の振り返りとSSTなどロールプレイをもちいた課題解決）を行う。また実習機関での巡回指導では、実習生への指導とともに、実習指導者と実習指導に関する協議等を行う。各機関の実習終了後には直ちに実習のまとめを行う（個別指導）。	
	精神保健福祉援助実習指導 III	本科目では、精神科医療機関と精神科医療機関以外の2機関での実習の事後指導を行う。事後指導の内容は、①実習中に行った事例研究を用いた事例の発表とディスカッションを通して、利用者・環境・精神保健福祉士の専門性の深化を図る。②実習報告会に向けての発表準備（実習報告会での発表資料の作成および個別指導）、③実習報告書の作成（個別指導）、④実習成果の検証を通じた、実習評価（個別指導・集団指導）、⑤実習および実習指導を通じた学生自身の学習成果・成長の評価（集団指導）である。	
精神保健福祉援助実習	精神科医療機関と障害福祉サービス事業を行う施設等の2施設での実習を通して、精神保健福祉援助と障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について理解し実践的な技術等を体得する。また、精神障害者のおかれている現状を理解し、生活実態や生活上の課題を把握する。精神科医療機関では、入院・退院、日常生活等に関する相談援助や院内・関係機関との連携等について習得する。障害福祉サービス事業を行う施設等では、総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学 コース 専門科目	心理学基礎系		
	心理学研究法	心理学的な問題意識を起点として、それを研究ベースとしての「問題・目的」の設定に向けてどのように論理構成するか、それにふさわしいデータ収集法・分析法は何か、といった心理学研究の方法論全般について体系的に解説し考察を進める。授業の過程では、文献の活用法、尺度構成法、コンピュータによるデータ処理法なども取り入れる。具体的な到達目標は以下のとおりである。①心理学的な問題意識を研究ベースに高めることができる、②研究目的にふさわしいデータ収集法を選択できる、③データ収集法に対応したデータ処理法を選択できる、④コンピュータによる統計処理ができる。	
	心理統計法	心理・福祉に関する身近な事象を統計的に処理する方法（基礎統計量、標本理論、相関係数、 $\chi^2$ 検定、t検定、分散分析など）を体系的に解説し、データの性質に合わせて適切な統計法を活用できることが目的である。具体的な目標としては、①データの性質（名義尺度、間隔尺度など）の違いを理解できる、②データの性質に応じて適切な統計法を選択できる、③統計学的な視点から事象を見つめる姿勢を身につける、である。	
	心理学基礎実験実習	心理学の基礎的な実験としてよく知られているものを取り上げる。知覚・認知・社会等の領域を中心に、実験・観察・調査等の方法について、実験・実習の実験者および研究対象者（実験参加者、調査協力者等）として参加体験することで、こころのメカニズムについて研究する方法・技術を習得する。さらに、実験によって得られた結果について、科学的報告書の形式に従ったレポートにまとめる方法について学習する。	
	心理検査実習 I	この授業では学生が検査者・被検査者となって実際に心理検査を実施し、自分の検査データに基づいて所見（レポート）を作成することを通して、心理検査の施行法や結果の整理、解釈の基礎を体験的に学ぶ。その中で心理検査の効用と限界、倫理的諸問題についても考えを深めていく。具体的にはまず、心理検査の概要、倫理、報告書の書き方等について概説し、樹木画テスト、文章完成法テスト、YG性格検査、ロールシャッハ・テスト、ウェクスラー式知能検査などを実習し、最後に事例研究を行う。	
	心理検査実習 II	実際に臨床の現場で使用されている神経心理学検査や認知機能検査について学習し、各検査を実施するとともに被検査者を実際に体験する。このような体験を通して心理検査の実施法について学び、検査を受検すること、施行することがいかなることなのかを学ぶ。実習後にレポートを作成することで、各検査実施の技法・態度を習得するとともに、検査法に対する理解を深める。	
	心理面接実習	すべての心理支援の基礎である心理面接の理論と技法（他者への配慮、関心、傾聴、共感、感情の理解、応答等）を体験的に学ぶ。まず、その理論、考え方、意義、技法を具体例や映像を通して具体的に理解するとともに、演習やロールプレイを通じた体得を目指す。さらに、ディスカッションやレポートによる自己省察を進め、理解の深化を促す。	
	生理認知心理学系		
	神経心理学	脳の損傷によってもたらされる認知・行動・感情などの障害（高次脳機能障害）について紹介し、さらに人の脳活動を非侵襲的に測定することができる技術を用いたニューロイメージングにおける最新の知見についても紹介する。このような知見について学習することで、脳とこころの関連性について理解を深める。また、神経心理学的障害に関する評価方法や認知リハビリテーションなどの介入方法について紹介する。	
	生理心理学	緊張した場面では、手に汗を握ったり心臓がドクドクするといった経験をしたことはないでしょうか。ここまで意識できなくとも日々、我々のこころの活動と共に身体の反応は引き起こされています。この授業では、認知・感情の機能と生理反応との関連性について学習することで、こころのメカニズムについての理解を深め、さらにそれらの生理的挙動の個人差に着目することで、さまざまな精神疾患に対する理解を促進する。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学コース専門科目	生理認知心理学系 行動分析学	行動分析学の原理と技法、並びに、対人援助に適用する際に留意すべき事柄について学ぶ。具体的には、①強化、弱化、消去の原理と応用、②オペラント条件付けとレスポナント条件付け、③シェイピング技法、プロンプトフェイディング技法、チェイニング技法とその応用、④機能的アセスメントとその応用、⑤ルール支配行動、刺激等価性とその応用、⑥行動分析学と倫理、について説明し、実生活に適用できることを目標とする。	
	認知心理学	人が学習や問題解決などの情報処理活動を行う際の感覚・知覚・記憶・認知・思考の働きと仕組みについて、認知心理学的な視点から理解を深めていく。特に、環境との相互作用を通して、知識（記憶）が形成されていく過程と学習の成立過程の関係を学ぶ。また、認知に関わる心理過程を客観的に観察・記録・分析するための実験的な手法や、認知心理学が日常生活、社会的行動、臨床的問題の理解にどのように役立つのかについても考える。	
発達・教育心理学系	発達と学習の心理学Ⅰ	発達心理学の理論をベースとして、子どもの誕生から児童期前期（小学校低学年）までの身体的、心理的発達の過程と発達上の障害について学ぶ。また、各発達の過程において、家庭や保育・教育環境から受ける影響とその役割について理解する。さらに、学習心理学や教育心理学の理論を踏まえながら、子どもの発達や学習を支援するための幼児教育、初等教育、特別支援教育の基本的な考え方や方法、現状と課題に関しても理解を深める。	共同
	発達と学習の心理学Ⅱ	児童期後期（小学校高学年）から青年期に至る子どもたちの心身の発達と学習の過程を理解し、心理的側面に対して求められる教育的支援のあり方について考える。特に、子どもが自我を確立し、社会的に自立していくまでの発達過程と、そこで生じる心理的な課題を整理し、学校における子どもの学習や社会的な経験の意義、学習環境や生活環境の構成の仕方、子どもの個性に応じた個別の学習支援や教育相談の考え方や実際について学ぶ。	共同
社会・産業心理学系	環境心理学	ここで取り扱う「環境」は、家や学校、地域など、日常的生活環境である。人の心理・行動と物理的環境とが相互に関係し合っていることを具体的な例から学ぶ。それにより、自分を含む人間を理解する際に「環境」という視点を取り入れられるようになる。また、心理学的な視点から環境をとらえ直し、快適な環境セッティングの構築にいかせるようになる。	集中
	対人関係論	我々は様々な人間関係や集団の中で生きており、本講義では人と人との相互作用や個人と集団との関係について学習とする。具体的には、前半は講義を中心に行い、対人場面における人間行動や人と人とのコミュニケーション、集団力学の諸相について学び、後半は集団の機能や過程、ダイナミクス、特性を用いたグループワークの理論と方法について学ぶことにより、対人関係（二者関係～集団）において起こる様々な心理的現象を理解するための基本的知識を習得する。	
臨床心理学系	臨床心理学実践論	実践的な臨床心理学的支援法について学ぶ。臨床心理学的支援法は、医療・保健、福祉、教育、産業、司法矯正などさまざまな領域で実践される。対象とする問題や領域によって用いられる支援法もさまざまである。カウンセリングや相談などのことばを用いる臨床心理学的支援法を中心に、からだに働きかける支援法（ボディワーク、動作法、自律訓練法など）、認知行動に働きかける支援法（認知行動療法など）、イメージを用いる支援法（プレイセラピー、箱庭療法、夢分析など）について、理論と実践について概説したり、体験を取り入れながら学んでいく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学コース専門科目	臨床心理学系		
	医療心理学	医療領域における心理職の仕事、役割、課題などについて学ぶ。医療現場に特有の多様な問題に対応する上で、心理職が身につけておくべき姿勢や視点、知識、技能などについて、文献・映画・事例などを通して学ぶ。具体的には、医療をめぐる現実的問題、医療現場における心理臨床の可能性、精神科領域、周産期・新生児医療、小児科、心療内科、対象喪失と喪の仕事、糖尿病患者、がん患者、高齢者医療などを取り上げ、各領域における心理職の役割や課題について概説する。	
	人格心理学	この授業では、心理学におけるさまざまなパーソナリティの捉え方について紹介し、パーソナリティを理解する方法について概説する。その上で、さまざまな心理臨床的問題をパーソナリティという観点から理解していく力を身につける。具体的には、類型論と特性論、フロイト、ユング、ロジャーズらのパーソナリティ理論、パーソナリティを理解する方法としての面接法・観察法・検査法、パーソナリティの発達的理解、パーソナリティ障害などについて取り上げ、概説する。	
	教育臨床心理学 I	臨床心理学の領域の中でも、特に小学生や幼児といった子どもを対象とした教育臨床領域について、理論と実際について学ぶ。特に、不登校や、いじめ、心身症、被虐待と愛着障害、発達障害と二次障害、事件災害後の反応へのケアなどの、今日の日本の学校現場において問題・課題となっている内容を取り上げる。幼児や小学生の場合、特に家庭背景が大きく影響し、子育て支援といった意味も含まれてくるので、保護者との連携や、医療・保健・福祉など専門機関との連携についても事例から実践的に学ぶ。	
	教育臨床心理学 II	中学生を中心とした思春期の諸問題について、学校における心理支援（スクールカウンセリング等）の基礎を学ぶ。具体的には、中学校における教育臨床をめぐる現状、思春期心性の理解、問題のアセスメントと支援の技法（連携等を含む）、思春期に生じやすいいくつかの問題（不登校、いじめ、摂食障害、自傷行為、発達障害と二次障害、非行）の理解と対応についてとりあげる。	
	幼児理解と発達相談	幼児理解と発達相談は、乳幼児期から学童期において生じるさまざまな発達上の問題に対処する上で必要とされる基礎的な理論および知識を与えるものである。この講義では、子どもの発達上の諸問題に関する基礎的な理解とそれらに対する支援や相談のあり方について学習する。さらに、社会的養護の基礎的な理解の上に、子どもの発達臨床の実際と課題について、実践的な視点を身につける。	
	高齢者臨床心理学	高齢者の抱えやすい心理的問題（職業や役割の喪失、疾患や体の痛みに伴う苦痛、死への不安、社会的孤立や閉じこもり等）、精神医学的問題（うつ、認知症、せん妄等）、あるいは老人虐待等の現代的課題をとりあげ、その背景やメカニズムについて学ぶとともに、高齢者個人の心理的状況や体験・感情に迫る。また、老人保健施設、デイケアサービス、地域サービス等の領域における心理職の役割として、心理・身体・社会の総合的アセスメント、回想法等の心理支援プログラム、家族支援、ケースワーカーや地域包括ケアセンター等との連携などについても考える。	
司法・矯正心理学	司法矯正領域における法制度・仕組みについての知識を習得しながら、非行・犯罪臨床の特異性についての理解を促し、非行・犯罪理論、各種非行の理解の仕方、発達障害との関連性、虐待との関連と被害者性の取り扱い方、心理教育的アプローチの方法、学校における非行相談、保護者面接の在り方、学校の生徒指導体制及び教師へのコンサルテーションの在り方、更には犯罪被害者支援の在り方等についての理解を深める。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
心理学コース専門科目	臨床心理学系	産業臨床心理学		
	隣接領域系	児童・家庭福祉論	近年、家族や地域状況の変化により、子どもの権利に基づいた「子どもの育ち」を保障することが困難となってきた。本講は児童福祉全般の共通基盤とも言える価値観を柱に、実践に必要な子ども観、子育て観、家族観などに関する論議を中心に構成している。児童虐待やDV、一人親家庭など近年家庭内の福祉需要が多様化する中で、どういった価値観をもって子どもや、その親にかかわっていくかについて考えることを目的とする。また、児童福祉に関連する法律、児童福祉関連機関、子育て支援・保育サービスに関する基本的知識の学習と実践について学ぶ。	
		障害児者福祉論	本講義は障害者福祉の全体像を理解することが目的である。中でも障害者がおかれてきた歴史的・社会的背景を把握することが重要である。そして、様々なニーズをもつ障害者にどのような制度的サービスが用意されているのかを検討する。さらに障害者の支援は制度によっておこなわれるわけではないので、支援者同士のネットワークや、支援者に課せられる資格などについて検討する。最近、日本の障害者の権利条約の批准をはじめとして大きな変化がもたらされている分野であり、そうした最新の状況を理解することも重要となる。	
		就労支援サービス	クライアントの自立の観点だけでなく、社会保障費の効率化の上でも就労支援は重要なものとなる。本講義では、就労支援の制度システムと具体的な援助方法をふたつの柱として、①雇用・就労の動向、②生活保護法・障害者関連法・一般雇用関連法の内容、③各組織・団体の役割と連携、④職業リハビリテーションの内容、⑤働きやすい環境整備、⑥就労能力の向上の方法などを教示する。	
		更生保護制度	相談援助において必要となる更生保護制度について理解するとともに、刑事司法・少年司法分野で活動する組織や団体、連携のあり方などについて習得する。講義内容は、保護観察や仮釈放、更生緊急保護など更生保護法の概要、保護観察官並びに保護司、更生保護施設など担い手についての理解、検察庁・裁判所や矯正施設、福祉団体などとの連携の方法、生活環境調整や精神保護観察などの医療観察法の概要などである。	集中
		精神保健学Ⅰ	精神保健では、「心の健康の維持」と「心の病気の予防」に関する内容を学ぶ。本講では、「心の健康」と「心の危機」についての心理社会的側面をみていくことにする。具体的には、精神保健の概要や歴史・課題を学ぶことを通して、「心の健康」「心の危機」「心の病気」について理解する。そして、乳幼児期・学童期、思春期・青年期、成人期・老年期(高齢者)とライフサイクルごとの「心の問題」について学ぶ。その上で、家庭や職場などの環境ごとの「心の問題」について学ぶ。	
		精神保健学Ⅱ	精神保健では、「心の健康の維持」と「心の病気の予防」に関する内容を学ぶ。本講では、心の病気の予防やケアについて検討する。具体的には、「統合失調症」「アルコール依存症」「認知症」などの精神障害について理解する。また、薬物依存対策や、うつ病と自殺予防、社会的ひきこもり、ニート、ホームレス、災害時やターミナルケア、地域における精神保健の課題など、精神障害の予防やケアについて学ぶ。さらに、国内外の精神医療や精神保健について学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学コース専門科目	隣接領域系 犯罪と法	司法分野における基本的な理念を学ぶとともに、具体的な事案にも触れることで、司法・矯正領域での心理専門職として実務に携わる場合に必要となる基本的な人権感覚を身につけるとともに、刑法、刑事訴訟法、少年法、少年鑑別所法、刑事収容施設及び被収容者等の処遇に関する法律、医療観察法等の刑事司法・矯正領域で必要となる法律の基礎知識を取得し、理解を深める。	
	福祉行財政と福祉計画	本講義では最初に行政と財政の一般的基本事項について教示したうえで、社会保障・社会福祉に関連する行政システム（国・都道府県・地方自治体の機能と役割なお）、並びに保険方式、税方式別の財源と会計システム（特別会計など）を扱う。また福祉計画については、ゴールドプランを端緒とするこれまでの行政計画の展開とその意義や方法について教授する。これらを通して福祉行財政や福祉計画を俯瞰できる能力を涵養することを目的とする。	
	スクールソーシャルワーク	現代社会における児童・家庭の生活問題についての理解を促すとともに、地域社会において今後必要となる「開かれた学校」のあり方を示し、地域社会と学校とを繋ぐ役割を担うスクールソーシャルワークの理論と実際について学ぶ。とくに関係機関との連携においてソーシャルワーカーが果たすべき機能について学習し、地域社会において活躍するソーシャルワーカーの具体的なあり方を示す。	
実践職能系	臨床実践職能論	心理職の職能発達の根幹を培うために、職務に関する基礎知識（心理職の具体的な職務や活動、臨床心理行為の専門性と独自性、それを支える哲学、心理支援と心理職の歴史、心理職としてのアイデンティティと職能の発達プロセス、専門家としての責任と倫理、関連する法律や行政等）について概説する。あわせて、現代社会で特に必要となる役割や活動（内界志向アプローチと地域・社会志向アプローチの統合、心理的経験への視点と現実への視点の統合等）についても考える。	
	実践領域実習Ⅰ（福祉・医療）	主に福祉領域・医療領域における現場実習を通して、さまざまな家庭背景、障害や疾患等を抱える人々が置かれている現状を知り、問題意識を育て、心理学の専門性を学ぶ上での視点を磨く。人間性への理解と相互援助のあり方について、現実社会のさまざまなあり方に触れながら学ぶ機会を持つ。福祉領域の実習では養護施設等に出向き、入所児童たちにメンタルフレンド活動を行う。医療領域の実習では心理職が勤務している病院に出向き、院内見学を中心とした実習を行う。	
	実践領域実習Ⅱ（教育・司法）	主に教育領域・司法領域における現場実習を通して、不登校など学校適応に困難を抱える子どもたちや非行・犯罪など社会適応に困難を抱える子どもたちの置かれている現状を知り、問題意識を育て、心理学の専門性を学ぶ上での視点を磨く。教育領域の実習では、不登校傾向の児童生徒を対象者とした「宿泊体験キャンプ」等への参加を通して、子どもとの共感的な関わりの持ち方を体験を通して学ぶ。司法領域の実習では、少年鑑別所や家庭裁判所等へ出向き、見学を中心とした実習を行う。	
基礎研究科目	心理学特別研究	ゼミごとに演習形式で各自の興味・関心がある領域の文献を精読し、問題意識を心理学的な研究ベースに高める過程を習得する。さらに、データ収集を行い、データ処理の実践的手法を習得する。具体的な到達目標は以下の通り。1. 心理学の文献を精読し、当該の領域の研究動向をつかむことができる。2. 心理学的な問題意識を研究ベースに高めることができる。3. 研究目的に応じたデータ収集法とデータ処理法を選択できる。4. 統計処理ができる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学 コース 専門科目	基礎 研究 科目		
	卒業課題研究Ⅰ	卒業論文で取り上げる研究テーマを心理学研究へと具体化していく過程で必要となる知識、研究手法、基礎技術の習得を目的とする。具体的な到達目標は以下の通り。1. 文献検索・資料収集の方法に習熟し、当該領域の研究動向をまとめることができる。2. それぞれの問題意識を心理学研究にまで立案することができる。3. 研究目的に応じたデータ収集法とデータ処理法を選択し・研究を実施できる知識と技術を習得する。ゼミごとに演習形式で行う。	
	卒業課題研究Ⅱ	卒業論文作成において実施した調査や実験から得られたデータの扱い方（量的検討、質的検討など）、結果のまとめ方、考察の仕方など、論文作成の方法に関する知識と技能を修得することを目的とする。具体的な到達目標は以下の通り。1. それぞれの研究データに対して適切な処理を実施することができる。2. 研究データから適切に研究結果を導くことができる。3. 研究結果に基づき論理的な考察を行うことができる知識と技術を習得する。ゼミごとに演習形式で行う。	
	卒業研究	各学生の問題意識が心理学研究として卒業論文に結実するよう、卒業論文執筆計画ならびに進め方に関する指導を中心に行うことを目的とする。具体的には、問題・目的（問題意識、概念定義、先行研究のレビュー、研究仮説をたてるなど）、方法（対象者、材料、手続き、独立変数、従属変数など）、結果、考察等の執筆を通して卒業論文を完成させ、全体発表会で研究成果を発表する。	